



平成 23 年度

「日本／ユネスコパートナーシップ事業」報告書

2012 年 3 月 国立大学法人 奈良教育大学



【目次】

○ごあいさつ

奈良教育大学副学長 加藤久雄	1
----------------	---

○第2回世界遺産学習全国サミット 2011inなら【概要版】

2

○分科会

①すてきなところがいっぱい！登美ヶ丘	6
--------------------	---

②こんなすてきな町なんだ	10
--------------	----

③民話をくらべて読もう	14
-------------	----

④守り 伝えよう 奈良の文化遺産	18
------------------	----

⑤奈良の世界遺産を商品化しよう	22
-----------------	----

⑥ならまちの赤いバケツ	26
-------------	----

⑦鎌倉時代の奈良の仏教	30
-------------	----

⑧学校で守る！世界遺産が残した絶滅寸前種ニッポンバラタナゴ	34
-------------------------------	----

⑨高校4学科と大学が連携した薬師寺プロジェクト	38
-------------------------	----

○世界遺産等を有する自治体教育委員会訪問及び現地調査

①鎌倉市・品川区	42
----------	----

②日光市・藤岡市・富岡市	44
--------------	----

③倉敷市・岡山市・廿日市市・広島市	48
-------------------	----

○世界遺産学習推進委員会作業部会

51

○奈良教育大学公開講座 「親子で探る奈良の世界遺産」

53

○奈良教育大学世界遺産教育出前講座開

61

①ESD・世界遺産教育の概要	62
----------------	----

②「木の文化」は自然と共生した暮らしの証拠！法隆寺の木造建築に学べ	64
-----------------------------------	----

③地域遺産としての姫路城	68
--------------	----

④守ろう地球のたからもの「豊かな世界遺産編」の効果的な利用について	72
-----------------------------------	----

⑤世界自然遺産 「知床」～海と川と森が一体となった生態系～	83
-------------------------------	----

⑥自然遺産の観光地化について	91
----------------	----

⑦世界遺産教育出前講座アンケート（抜粋）	98
----------------------	----

○奈良教育大学附属中学校の研究の取組

102

○教員・学生・子どもでつくった奈良 ASP 子ども会議

104

○地域と結んだ世界遺産学習のあり方に関する教員研修報告書

108

○あとがきにかえて

奈良教育大学持続発展文化遺産教育研究センター専任講師 中澤静男	111
---------------------------------	-----

世界遺産を通して学ぶこと

国立大学法人奈良教育大学 副学長 加藤 久雄

「世界遺産学習全国サミット」は、第2回を迎えます。平成22年に「第1回 世界遺産学習全国サミット 2010 in なら」が開催され、その前年の平成21年には、「世界遺産学習全国プレサミット in なら」の開催がありました。これらの開催は、地域の教育大学として、文部科学省、奈良市教育委員会、奈良国立博物館、世界遺産学習連絡協議会との共同の主催の形をとり、ユネスコパートナーシップ事業として開催されたものであります。その背景には、ユネスコのESDの推進があります。

「世界遺産学習」の目標の中心には、世界遺産について学ぶことによって、文化遺産の創造、継承、保護に、人々がどのようにとり組んできたかを学ぶことがあげられます。世界遺産として後生に残すことができたのは、そのような人々の思いや努力があったからで、それ無しには、そもそも遺産として残らなかつたわけです。世界遺産が遺産として残ることになったことを結果として支えた人々の営みを学ぶことが、いつの時代にも必要なことだと考えます。また、そのことは教育の原点でもあります。

「世界遺産学習」は、ユネスコによって登録された世界遺産によってのみ可能となることではなく、遺産を支える人々の営みが見出すことができるのであれば、どのような地域遺産によってでも可能な学習であります。また、そのような人々の営みを掘り起こしていくこと自体が、この学習そのものもあるわけです。また、ESDが学習の内容の問題のみならず、学習の方法の改善につながる問題も包含していることは、よく知られています。

奈良の地では、奈良市教育委員会のもと市立幼小中学校が、世界遺産学習を通じたESDに、大変積極的にとり組んでいます。本学は、奈良市教育委員会と協力しあう中で、文化遺産を通したESDとして世界遺産学習の実践的研究にとり組んでおります。その中核を担うのが、平成21年3月に設立されました「持続発展・文化遺産教育研究センター」であります。また、本学は、「奈良の地で一学び創造、学び発信。」を謳い、三つの柱を設けておりますが、そのひとつが「奈良・世界遺産」を生かした教育・研究の充実というものです。また、現在、「ユネスコスクール支援大学間ネットワーク（ASPUvNet：ユニブネット）」の事務局を担当しております。このような本学の取り組みの中で、「世界遺産学習全国サミット」が、重要な役割を果たしているといえます。

地域の学校との連携のもと、地域の教育大学として、また、ユネスコスクールの大学として、ESDの学習内容と指導方法の研究、そしてESDを指導できる教員の育成にとり組んで行きたいと考えております。

第2回 世界遺産学習全国サミット 2011inなら【概要版】

日本／ユネスコパートナーシップ事業

平成 23 年 12 月 24 日（土）、25 日（日）の 2 日間、全国規模の世界遺産学習の研究大会として「第2回 世界遺産学習全国サミット 2011inなら」を開催しました。世界遺産学習は、世界遺産や身近にある文化遺産などを通して地域に対する誇りや地域を大切に思う心情を育み、持続可能な社会の担い手としての意欲や態度を養います。今年の全国サミットでは、「世界遺産学習 子ども会議」をはじめ世界遺産に関する講演会や世界遺産学習の実践報告会、市民対象の世界遺産学習会を行いました。今回の全国サミットでの成果を今後の取組に生かしていただきたく、その概要をお知らせします。

平成 24 年 1 月 奈良市教育委員会

世界遺産学習 子ども会議「わたしのまちのたからものを受け継ぐために」

長浜市、姫路市、奈良市の小・中学生 6 名が参加し、奈良市の中室雄俊教育長がコーディネーターを務めた。会議は、各校における学習の様子を発表した後、子どもたち一人一人が大切にしている「たからもの」について発言。そして、「たからものを受け継ぐために大切なことは何か」を考えた。

【長浜市立西中学校】

清水さん：次の代へ受け継ぐためには、まず文化の歴史、構成など正しい情報を詳しく知らなければいけない。
関口さん：建物や文化を今にあったものにかえるため、変化させたり、創造したりすることが大切だと思う。

【姫路市立手柄小学校】

上田さん：私は姫路城のことを学習して、多くの人たちにそのよさを伝えることが大切だと思う。
岡田さん：僕はみんなと協力して、多くの国がネットワークをつくると受け継がれると思う。

【奈良市立都跡小学校】

植田さん：歴史や自然を知り、大切にする気持ちになってくれることが、受け継がれることになると思う。
寺山さん：知ると興味がわき、好きになって「大切にしよう」「傷つけないようにしよう」という思いになる。

中室教育長は最後に、「発表会やパンフレット作成などを通して『伝える』活動をしている。その気持ちを 5 年後、10 年後も忘れないでほしい。そして、自らが『伝える』という人になってほしい。」と子どもたちに話して締めくくった。閉会行事において、子ども会議のまとめを「子ども宣言」にして発表した。



平成二十三年十二月二十四日

第二回世界遺産学習全国サミット 二〇一一 inなら
子ども宣言

わたしたちの身の周りには、古い文化財や美しい自然、昔から続いている伝統や文化など、誇れるたからものがたくさん残っています。しかし、残っているのが当たり前ではなく、昔の人々がそれを大切に思い、守り、伝えてきたからこそ、今こうしてわたしたちの目の前にあるのです。そのためのを、わたしたちの時代で失くしたり終わらせたりするわけにはいきません。

わたしたちは、誇れるまちのたからものを未来に残していくたいと願い、ここに宣言します。

わたしたちは、
一、わたしのまちのたからものを知るために学び続けます。

一、誇れるまちのたからものを多くの人に伝えていきます。

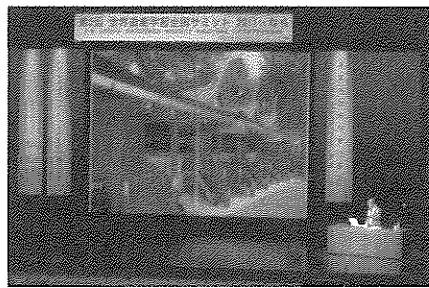
一、それぞのまちのたからものを皆と協力して受け継ぎます。

一、わたしのまちのたからものを受け継ぐために、人とのつながりや絆を大切にします。

奈良市立都跡小学校六年 五年 寺山 紘大	姫路市立手柄小学校五年 五年 岡田 涼介	長浜市立西中学校二年 二年 関口 耕大	二年 清水 彩未
-------------------------------	-------------------------------	------------------------------	----------------

世界遺産学習 講演会「奈良の伝統行事に学ぶ」奈良国立博物館学芸課長 西山 厚 氏

春日若宮の祭神である若宮様は、1003(長保5)年3月3日に誕生し、今年で数えの1009歳になった。1136(保延2)年は、大雨のために洪水や疫病が発生して、多くの人々が苦しんでいた。閑白藤原忠通は若宮様に「天下泰平・五穀豊穣・万民安樂」を祈願して、おん祭を始めた。おん祭はそれ以来一度の中止もなく続いているが、今年は876回目だった。若宮様は12月17日午前0時に社殿を出て、お旅所でおよそ24時間過ごす。その時間帯に、お旅所の前ではさまざまな芸能が奉納される。若宮様に喜んでいただくことで、願いを成就させようとしているのである。



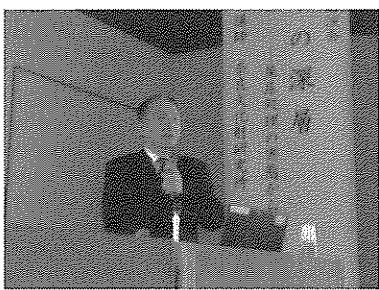
東大寺二月堂のお水取りは752(天平勝宝4)年に東大寺の実忠が始めた行法で、1260年間一度の中止もなく続いている。お水取りは、東大寺の僧侶が本尊の十一面観音にお詫びをする行事である。昔の人は、災いは人間が悪いことをするから起きると考えた。災いが起きないようにするには悪いことをしなければよいのだが、人間は悪いことをやめられない。だからお詫びをしてその罪を消してもらおうとするのである。練行衆と呼ばれる11名の僧侶は、3月1日から14日まで、十一面観音にお詫びを続け、あわせて「天下安穏・五穀成熟・万民豊楽」を祈願する。お水取りは大きな松明が有名だが、お詫びの行法は松明が消えたのちに始まる。

おん祭は、神様に喜んでもらうことで「天下泰平・五穀豊穣・万民安樂」を実現しようとした。お水取りは、十一面観音にお詫びすることで「天下安穏・五穀成熟・万民豊楽」を祈願した。いずれも個人的な祈りではなく、みんなの幸せを祈っている。奈良のほかの伝統行事もそうだし、全国各地の伝統行事も同様である。そのことを忘れてはならない。演出家の宮本亜門さんに「お水取りもおん祭もみんなの幸せを願う行事だと語つておられましたが、なぜ個人のためではないのでしょうか?」と質問された時に、私は次のように答えた。「かつては、お寺でも神社でも、みんなの幸せが祈られました。天下泰平・五穀豊穣・万民豊楽。人はひとりでは幸せになれない。なってはいけないのです」。伝統行事に学ぶとは、こういうことだと思っている。

世界遺産学習(1)「平城京の深層」奈良文化財研究所副所長 井上 和人 氏

平城京や藤原京を発掘調査していると、大きな道路には必ず側溝があり、そこから板きれがたくさん出てくることがある。これを籌木(ちゅうぎ)と言い、お尻をふいた道具である。便所は人間にとては必要なものなので、普遍的な施設であれば何百と見つかっていいはずだが、平城京では50年間発掘調査をして一つも見つかっていない。藤原京の発掘調査で見つかった穴には糞が残っており、いかにも便所のように考えたくなるが、これまで50年間続けてきた藤原京の発掘調査で、穴が見つかったのはわずか3か所である。私は、これは便所ではなく糞を捨てるための穴であると考えている。

次は木簡に関わる話だが、平城京では24万点、全国各地でも30万点近く発掘されている。ある木簡は割られているが、三つに割られているうちの二つを合わせてもぴったり合わない。なぜかというと割った部分を削っているからである。要するにこの木簡は籌木に転用されたものであると言える。完全な形で発見される木簡は2割ほどしかない。ほとんどが断片になっている。なぜ断片になっているかというと、従来の理解では内容を読みないようにするための措置ということだが、それは籌木に転用されたためだと思っている。

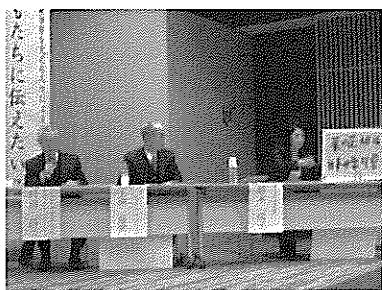


次に平城京が造られた理由である。平城京は藤原不比等が孫(後の聖武天皇)のために造った都であると言われている。しかし、これは間違いであると私は考えている。実は藤原京の方が平城京より大きかったが、その藤原京をわずか16年間で放棄しなければならなかつた極めて切実な歴史的な背景がある。当時の中国は世界の文明・文化の中心であるという中華思想があり、唐は強大な軍事国家であったので、唐から日本を守るために、また唐に対する恭順の意を形として示すため、平城京を造らざるを得なかつたのである。

世界遺産学習会(2)世界遺産学習を支える人々によるシンポジウム「今、子どもたちに伝えたいこと」

村田昌三氏（鼓阪北小学校地域コーディネーター）

日本人は昔から生活の中で自然を大切に育てて、自然とともに生きてきた。鼓阪北小学校は、平城京遷都の初代元明天皇、次の元正天皇の御陵も近くにある。すぐ隣には延喜式内社の奈良豆比古神社があり、国指定の重要無形民俗文化財の翁舞（おきなまい）も地元で保護されている。この校区は、古い歴史をもつ地域であると同時に自然豊かな環境を大切にしてきたので、水や空気も含めたよい環境を子どもたちや後世に伝えることが私の夢である。



鈴木民子氏（奈良国立博物館）

文化・文化財は、今危機に瀕しているものがたくさんあるが、大切に思う人が多いほど、確実に文化財の寿命は延びていく。我々が子どもたちに託す思いはたくさんあるが、まずはきっかけをつくっていきたい。子どもたちが、自分の郷土だけでなく日本の文化財、世界の文化財を語れる大人になってほしいと切に願っている。

上田益世氏（NPO 法人なら・観光ボランティアガイドの会 朱雀）

子どもたちに世界遺産のすばらしさを知らせていくことが大人の義務。知らないと価値はわからないし、保存していくかなくてはいけないとも考えない。世界遺産学習を通じて命の尊さ大切さ、生きることの意味を考え、素晴らしいものを未来に引き継いでいくというような子どもになっていただきたいと思う。

西崎卓哉氏（奈良市文化財課長：コーディネーター）

世界遺産学習の目指すものは、みんなが笑って暮らすことのできる心地よい地域社会の構築と健全な人格の形成だと思う。子ども会議を見ても、子どもたちは地域遺産を受け継ごうとしている。我々大人がしっかりと発信し、地域の魅力と未来に残したいと思う心をしっかり伝えることが大切な役割だと思う。

分科会での報告

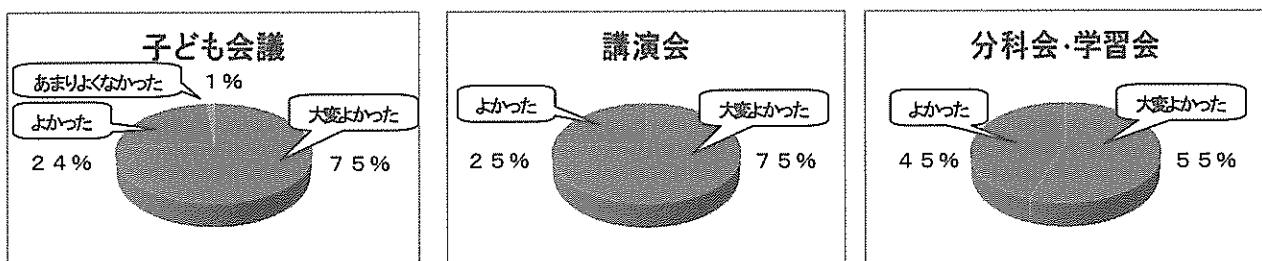
すてきなところがいっぱい！登美ヶ丘 こんなすてきな町なんだ	奈良市立登美ヶ丘幼稚園 奈良市立右京小学校	教諭 教諭	松原 明山	恵里子 将弘
子どもが主体的に学ぶ「大牟田の宝もの」 守り伝えよう奈良の文化遺産	大牟田市教育委員会 奈良市立大安寺西小学校	指導主事 教諭	古賀 仲西	信弘 亮悟
浅井氏三代と小谷城跡から学ぶ ならまちの赤いバケツ	長浜市立小谷小学校 奈良市立三碓小学校	校長 教諭	片桐 藤田	宏 紗代子
体験学習を核にしたふるさと学習の推進 奈良の世界遺産を商品化しよう	小浜市立雲浜小学校 奈良市立佐保台小学校	教諭 教諭	廣澤 西谷	豊子 隆詞
発見！地域の遺産と世界遺産 民話をくらべて読もう	桜井市立桜井南小学校 奈良市立都祁小学校	教諭 教諭	大矢根 新子	祐子 慶行
平泉町における青少年の地域遺産学習 鎌倉時代の奈良の仏教	平泉町教育委員会 奈良市立平城西中学校	室長補佐 教諭	千葉 宮本	信胤 琢也
職人にふれ、職人に学ぶ 伝統のいぶし瓦づくり「職人体験」	姫路市立神南中学校 姫路市立船津小学校	校長 校長	秋本 平田	隆夫 己江子
高校4学科と大学が連携した薬師寺プロジェクト 次の100年に引き継ぐために！～若草山ノシバ自生地の保護と地域への拡大～	奈良市立一条高等学校	教諭	犬伏	雅士

京都府立桂高等学校 学校で守る！世界遺産が残した絶滅寸前種	TAFF「地球を守る新技術の開発」班 ニッポンバラタナゴ	2011 Voice of ESD in Asia-Pacific, 2011
奈良市立柳生中学校 同 近畿大学農学部 同	教頭 奥西 智恵子 教諭 田中 克彦 講師 北川 忠生 修士課程1年 池田 昌史 4年 川上 拓人	大阪府立大学 奈良教育大学附属中学校 奈良市立帶解小学校 奈良教育大学 ユネスコクラブのみなさん
アジア/太平洋小・中・高・大学生 ESD ワークショップ 教員・学生・子どもでつくった奈良ASP子ども会議	准教授 伊井 直比呂 教諭 福田 哲也 教諭 西田 達也	



アンケート結果(参加者の声と満足度)

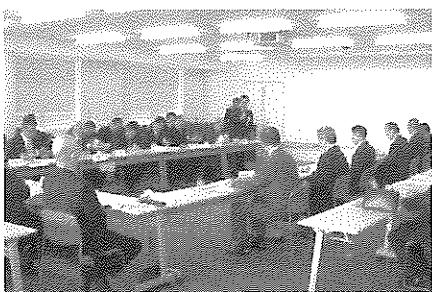
- 子どもたちの発表が、はきはきとよくわかり、内容や伝えたい心、言葉がしっかり私たちの心に響きました。
6人の子どもたちは、それぞれに受け継ぐために大切なことなどをしっかり考えていました。【市外教職員】
- 西山先生のお話を聞くと、「もっと知りたくなる」という気持ちが深まりました。お水取りについて、さらに認識を深めることができ、子どもたちに伝えていきたいと思います。【県外教職員】
- シンポジウムよかったです。子どもの学習を支えてくださっている人、団体、ネットワーク。この協力があるての学習だと良く分かりました。奈良市のすばらしい実践を知ることができてよかったです。【市内教職員】
- 歴史の本に出てこない屎尿処理のお話、面白かったです。とても興味をもって聞くことができました。【市内教職員】
- 幼稚園の取組が身近で具体的に学べました。まず、身近な自分たちの町に愛着をもち、知り、大切に思う気持ちを育てること。そのためには意図的・計画的な保育実践が大切だと感じた。【市内教職員】
- 奈良市では世界遺産学習で学ぶことはたくさんあるけれど、「他市ではどうかな」と、知人と話していたところだったので、小谷小学校の取組はとても興味深く、楽しく発表を聞かせていただきました。【市内一般】
- 実際に能楽を見たり地域に伝わる話を聞いたりと文化遺産と触れ合うことから自分たちの地域と結びつけることで、地域に対する愛着を深めるという点等から世界遺産学習の意義を感じました。【県外教職員】
- 桂高校の発表は本当にレベルの高いもので驚きました。しっかりととした研究、調査から結果も出されていて感動しました。これから環境、生物多様性の保全にすごく重要な活動になると思う。【県外大学生】



第3回世界遺産学習連絡協議会 総会

平成21年度に、世界遺産や地域遺産などの優れた文化遺産や自然遺産を教育的に活用し、地域を大切に、誇りに思う心を養う世界遺産学習並びにE S D（持続発展教育）の実践の交流と情報交換、及び研究大会の開催等の充実・推進を目的に世界遺産学習連絡協議会を設立しました。現在、16の教育委員会と4つの学校が参加しています。

12月24日（土）に開催された総会では、文部科学省大臣官房国際課国際協力政策室長の浅井孝司様にオブザーバーとして出席いただき、各会員から教育実践・教育施策の報告の後、気仙沼市、長浜市、豊中市の3教育委員会と東大寺学園中・高等学校が新たに会員として承認されました。また、平成24年度世界遺産学習全国サミットは、奈良市で開催されることが決定しました。



【正会員】

深浦町（青森）、平泉町（岩手）、気仙沼市（宮城）、長浜市（滋賀）、
斑鳩町（奈良）、樅原市（奈良）、桜井市（奈良）、堺市（大阪）、
豊中市（大阪）、藤井寺市（大阪）、姫路市（兵庫）、大田市（島根）、
大牟田市（福岡）、屋久島町（鹿児島）、読谷村（沖縄）、奈良市（奈良）

【学校会員】

奈良教育大学、奈良県立法隆寺国際高等学校、
東大寺学園中・高等学校、羽衣学園高等部（大阪）

※※※連絡協議会へのご参加をお待ちしております※※※

問い合わせ先：奈良市教育委員会事務局学校教育課 TEL:0742-34-5498 E-mail: sekaiisan@naracity.ed.jp

すてきなところがいっぱい！登美ヶ丘

奈良市立登美ヶ丘幼稚園 教諭 松原恵里子

1. はじめに

本園は昭和30年代から丘陵や農地が開発された、奈良市西部の新興住宅地にある。転勤やマンション購入などで転居してきた幼児が多く、地域とのつながりが希薄で、園周辺には地域遺産も少ない。そこで、昨年度は祖父母や地域の人々とかかわり、園外保育で地域に出かける機会をもうけた。そのことで、自分たちの住んでいる町には様々な人々がいて、素敵な場所もあることを知ることができた。今年度は幼稚園や地域での体験を通して、自分たちが住んでいる町や近隣の人々に親しみをもち、気付いたことや感じたことを様々な方法で表現することを通して、さらに地域に対する愛着を育てたいと考えた。

2. ねらい

- ・気付いたことや感じたことを友達と一緒に様々な方法で表現することを楽しむ。
- ・地域の人々とのかかわりを通して、自分たちの住んでいる町に興味・関心をもつ。

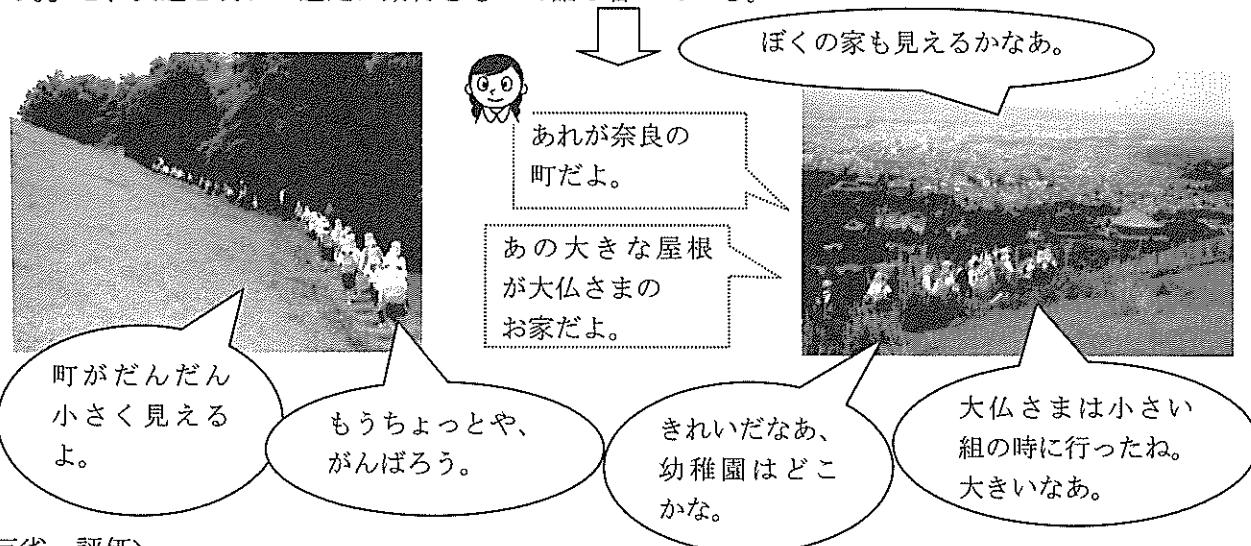
3. 保育活動の概要

5月 若草山に登ろう(春の遠足)

- ねらい
- ・約束を守り安全に気を付けて行動する。
 - ・初夏の自然に親しむとともに、文化財に興味をもつ。

事前に若草山の話をしたり、写真を見せたりして遠足に期待がもてるようにしておく。

「若草山の山焼き、見たことある。」「早く登りたいな。」「342メートルってどのくらいの高さかな。」と、友達と明日の遠足に期待をもって話している。



<反省・評価>

- ・事前に若草山の写真を見て山登りに期待をもって参加したので、山上から見た奈良の町の景色の美しさに気付いたり、年少時の遠足で見た大仏様を思い出したりしている幼児が多い。また、遠くに見える自分たちの住んでいる町にも興味をもったようだ。

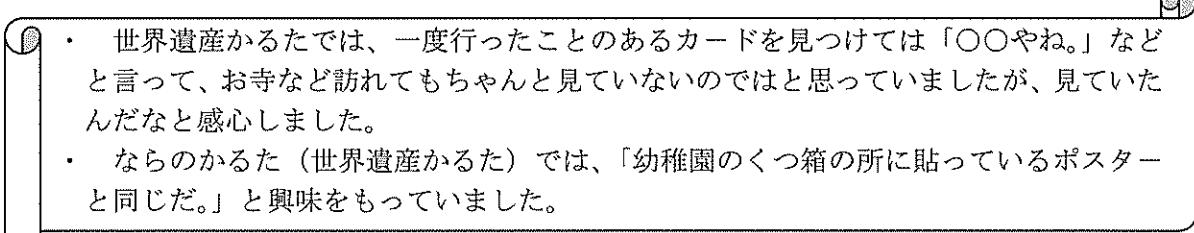
9月 なら世界遺産・文化かるたをしよう(祖父母参観)

ねらい

- ・奈良の歴史や世界遺産に興味をもち、お家人や友達とルールを守ってかるた遊びを楽しむ。

○活動	・教師の援助	○幼児の姿やことば (保護者の姿やことば)
<ul style="list-style-type: none"> ○「なら世界遺産・文化かるた」の由来や遊び方について話を聞く。 <ul style="list-style-type: none"> ・遊び方やルールを知らせ共通理解をし、意欲をもたせる。 ○祖父母・保護者と一緒にかるた遊びをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・祖父母や保護者に読み札を読んでもらう。 ・教師や保護者から取ったかるたの説明を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「なら世界遺産・文化かるた」の由来や遊び方について話を聞く。 <ul style="list-style-type: none"> ・遊び方やルールを知らせ共通理解をし、意欲をもたせる。 ○祖父母・保護者と一緒にかるた遊びをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・祖父母や保護者に読み札を読んでもらう。 ・教師や保護者から取ったかるたの説明を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「世界遺産・文化かるた」について話を聞いたり見たりしているので、かるた遊びに意欲を見せている。  <div style="border-radius: 50%; padding: 10px; background-color: #f0f0f0; width: fit-content; margin-left: 10px;"> ほほえみに 心やすらぐ 大仏さま </div> ○「やったあ。」「かるた取れた。」と両手でかるたを上げ喜びを表したり、祖父母にかるたの説明をもらったりしている。 ○「大仏さんや。小さい組の時行ったな。」「遷都祭や。行ったよ。」など友達や保護者と話し合ったり「これは昔のゑだよ。」と知らせたりしている。

祖父母・保護者の感想から



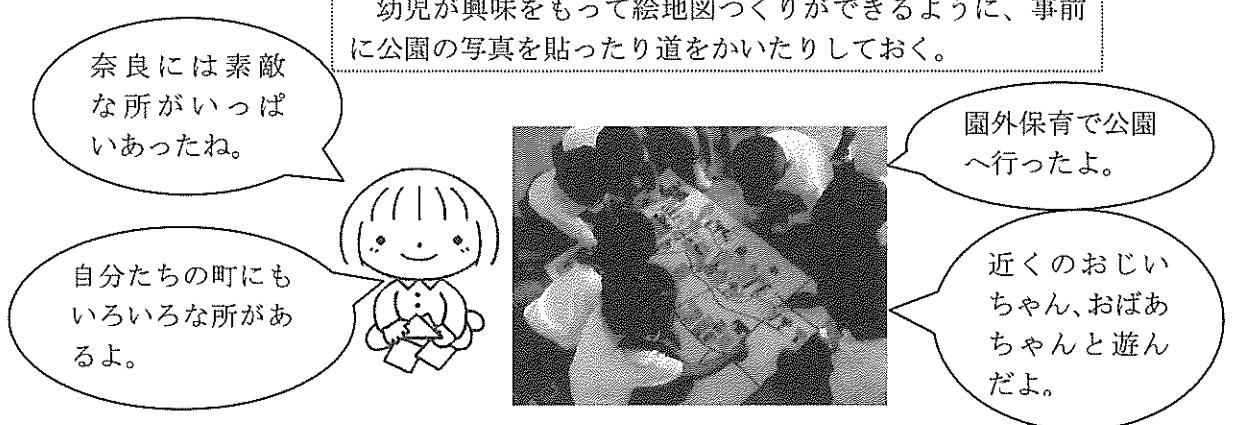
〈反省・評価〉

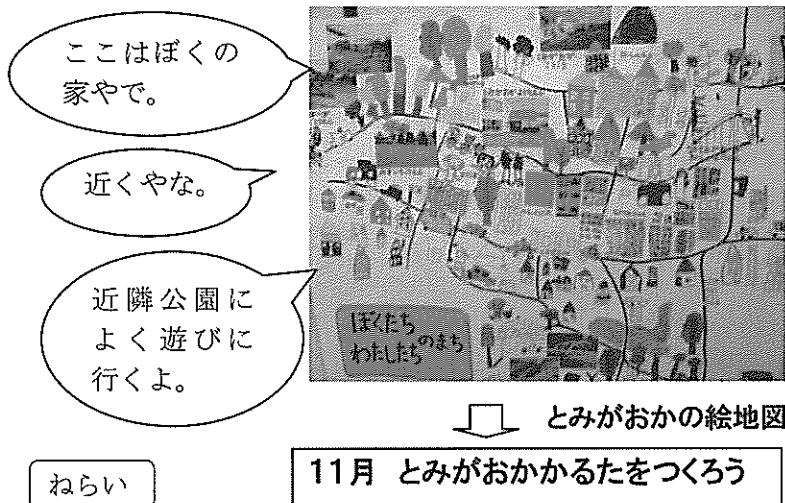
- ・保護者や友達とかかるた遊びをしたが、大勢の人と一緒に遊ぶことで、よりいっそう触れ合いながら奈良のかかるたに興味をもって遊ぶことができた。奈良独特のかかるたに親しむことで奈良の文化財や伝統文化に関心をもつききっかけになった。

10月 とみがおかの絵地図をつくろう

ねらい

- ・自分たちの住んでいる町に興味をもち、絵地図をつくることを楽しむ。





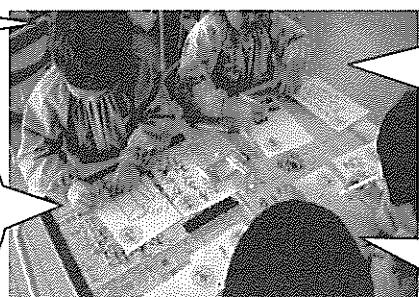
11月 とみがおかかるたをつくろう

- ・園外保育で地域に出かけた場所や人々とのかかわりなどを話し合いながら、かるたづくりを楽しむ。

かるたの読み札の言葉が思い浮かばない幼児には、イメージがわくように具体的に話をする。

次はこれをかこうかな。

ぼくは公園の長いすべり台で遊んだことをかこう。



ふれあいコンサートですてきな曲を聞かせてもらったよ。

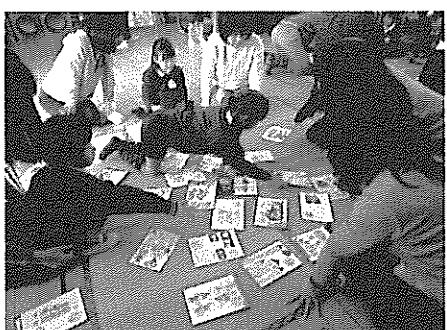
登美ヶ丘の町は木がいっぱいあるよ。

とみがおかかるた



保護者とかるた遊びをする

- えりしおん おじいちゃんおばあちゃんとわらべうた
- おちばがきれいな きんりんこうえん
- しあわせのうた ひまわりのうた
- まどからみえる とみがおかこうこう



私が読むね、よく聞いててね。

これはぼくがかいたかるただよ。

これは一緒に行った公園だね。

みんな、上手にかいっているね。

あそこにあるよ。

（反省・評価）

- ・かるたの内容を話し合って身近な場所を思い出し、自分たちがつくったかるたを大切に扱いながら親子でかるた遊びを楽しんでいた。

11月下旬 登美ヶ丘の町をつくろう(園内作品展)

- ・グループの友達と相談しイメージを出し合いながら、登美ヶ丘の町をつくることを楽しむ。



幼稚園はお花が
いっぱいやな。

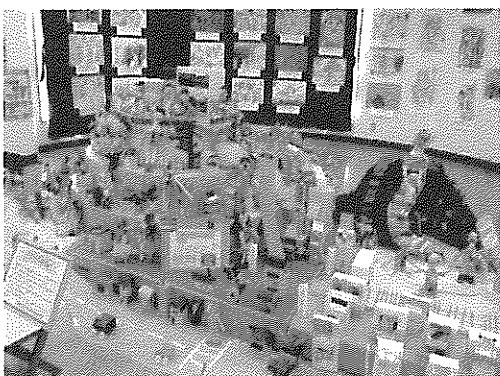
お部屋の
ピアノを
つくろう。

・2クラス合同でつくるので、町のイメージが共有できるようにその都度話し合いの場をもつ。

・幼児が工夫したりアイデアを出したりできるように、様々な素材や用具を準備しておく。

ぼくは、
木をつく
るよ。

近隣公園の長い
すべり台をつく
ろう。



共同制作「登美ヶ丘の町」

保護者の感想から

- ・みんなで協力してつくった“登美ヶ丘の町”を自慢気に見せてくれる子どもたちの目がキラキラしていて、とても印象的でした。
- ・園内作品展で子どもたちが登美ヶ丘の町をつくりていたのにびっくりしました。自分たちの住んでいる町のことを知るよいきっかけにもなり、また、自分たちの住んでいる所への興味にもつながったと思います。

〈反省・評価〉

- ・友達との地図やかるたづくりなどを通して、幼児の中には自分たちの住んでいる町がイメージができていたので、グループの友達と話し合いながら工夫して取り組むことができたようだ。
- ・グループの友達とつくる中で、知らなかった町の様子に関心をもつ幼児が増えてきた。

4. 成果と課題

- ・年少時から園外保育で身近な場所に出かけ、地域の人々と交流をするなど保育計画に位置付け継続的に取り組んできた。何度も同じ場所に出かけ、人々と交流するなど地域とかかわる保育計画を実践することが、自分たちの住んでいる町を知り、好きになるきっかけになったと思われる。
- ・若草山から見た奈良の景色から自分たちの住んでいる町に興味をもったことをきっかけに、幼児が、心に残った場所や人々との優しさに触れ交流してきたことを、絵に描き、作るなど幼児の思いを表現する活動に計画的に取り組んできた。様々な活動を通して改めて自分たちの住んでいる所には、様々な場所や人々が生活していることを知ったようである。今後も地域に愛着をもつことができるような、幼児の心に残る保育を創造していくことが大切だと感じた。
- ・園内作品展で「登美ヶ丘の町」を見ていただいたら、幼児がつくったかるたで一緒に遊んだりしたことで、自分たちの住んでいる場所について親子で話し合う様子も見られ、保護者の方々にも地域への興味や関心をもつきっかけになったと思われる。

こんなすてきな町なんだ

奈良市立右京小学校 教諭 明山 将弘

1. はじめに

本校は、奈良市北部の平城ニュータウン内に位置している。校区内には世界遺産や神社、お寺などが存在しないが、近鉄高の原駅が近く、道路や団地、学校や公園や病院などが、計画的につくれられている住みよい町である。さらに、ニュータウン開発当時からお住まいの方が今もご健在であり、当時の話や、これから町や人への思いを聞くことも可能である。また、学校と関わっている地域の方が多く、「右京お話の会」「万年青年クラブ」「図書ボランティア」など、多くの人に子どもと接していただいている。今も、子どもたちの学校生活を支え、豊かにしていただいている大切な存在として、「地域」は欠くことができない。

2年生での世界遺産学習では、身近な町のよさに気付かせ、それらを大切に感じさせることを目指したい。3年生で校区や地域の開発・発展の様子を地域の方から聞き取る学習が計画されているため、内容の重複がないよう注意して、意欲を高めて次年度へつなげられるようにしたい。

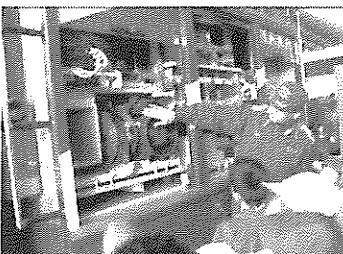
生活科の「とびだせひみつたんけんたい」という1学期の単元では、地域のお店や施設で働く方の苦労や工夫、やりがいなどを調べる「町たんけん」を計画している。そこでは、調べた場所のひみつや右京の町がいろいろな人に見守られていることに気付けるようにしたい。2学期末には「こんなすてきな町なんだ」という単元を計画している。「とびだせひみつたんけんたい」以降、「地域」を直接題材とする単元は、2学期末の「こんなすてきな町なんだ」になるが、それ以外にも、「万年青年クラブとの交流」や「春みつけ」「秋みつけ」など、地域の人や自然にかかわる体験を重ねる予定である。また、「右京お話の会」による奈良の昔話を聞いたり、夏休み中の地域の夏祭りに参加したりして、地域に対する愛着を深めている児童もいると考えられる。「こんなすてきな町なんだ」という単元は、これまでの学習や体験を掘り起こし、それらをまとめるように進めたい。その際は、お世話になっている地域の人々の存在にも気付かせ、改めて感謝できるようにさせたい。これらの学習を通して、右京の町に愛着をもたせ、住んでいることを誇りに思う心を育てたい。

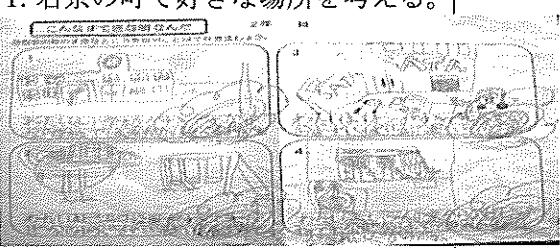
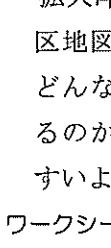
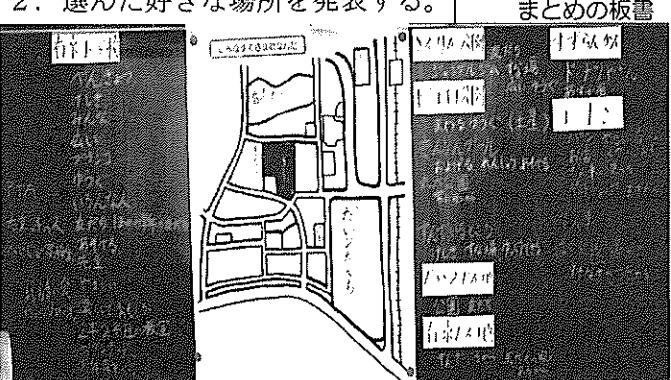
2. ねらい

- 自分の町に興味をもつことができる。
- 今後も残し続けたい右京の好きなところを見つけ、よさに気付き、愛着をもつことができる。
- 自分の気付いたことや感じたことを、言葉ではっきりと話すことができる。

3. 学習活動の概要（全22時間）

主な学習活動	学習への支援	評価	備考
1学期 とびだせひみつたんけんたい（14時間）			
1. 「町たんけん」で行きたい場所ごとに5つに分かれ る。 消防署 交番 駅 花屋 レストラン	・引率協力の保護者10名の児童が各グループに2名ずつ入るよう配慮する。	・自分の町に興味をもつことができる。	

2. 質問を考え、インタビューの練習をする。	<ul style="list-style-type: none"> 必ず聞く質問を設定しておく。 はっきりとした声で伝えることを目標に練習できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> グループの友達と協力し、質問の練習をしている。 	ワークシート
3. 「町たんけん」へ出かける。	<ul style="list-style-type: none"> 引率者が児童の様子を見ながら適宜進行役となる。 インタビューの内容を引率者も書き取り、その場で書ききれなかった児童が後でまとめられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手の話をよく聞き、自分の考えを深めることができる。 	ワークシート
 消防署	 駅	 花屋	 レストラン
4. 見聞きしたことをまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> 各場所で見聞きしてきたことを、他の人に伝えたい「ひみつ」として、4つ程度にまとめるように伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> 調べて気付いたことなどを、伝えたいこととしてまとめている。 	ワークシート
交番	<ul style="list-style-type: none"> 警察官がいない時に呼ぶ電話があって、こんなのがあるんだと思いました。 一日に 10 個くらいの落し物がくる。 	駅	<ul style="list-style-type: none"> 黄色い線は目の不自由な人が使うものとは知らなかったです。 電車がどこにあるかが分かるものがありました。
レストラン	<ul style="list-style-type: none"> コックさんはフランス料理が好きと言っていました。 冷蔵庫が大きかったからびっくりしました。 	花屋	<ul style="list-style-type: none"> 花が咲くとすぐ枯れてしまうから、花の冷蔵庫に入れて、ちょっとでもかれないようにしてあって、びっくりしました。 自分の作った花を喜んでくれたら嬉しいそうです。
消防署	<ul style="list-style-type: none"> 消防士さんは、24 時間も働いていることがよく分かりました。 一番嬉しいことは、ありがとうと言ってくれることだそうです。 消防車は、火事の時以外にも、がけくずれや人助けに使うなんて知りませんでした。 	消防署	<ul style="list-style-type: none"> グループの友達と協力し、発表の練習をしている。
5. 「町たんけん」の発表会の準備をする。	<ul style="list-style-type: none"> 参観日に発表会を行うことを伝え、意欲を高める。 はっきりした声で伝える練習ができるようになる。 	消防署	<ul style="list-style-type: none"> 説明する絵・カード

<p>6. 「町たんけん」の発表会をする。</p>  <p>発表の様子</p> <p>7. 「町たんけん」の発表会をふりかえる。</p> <p>《児童の感想》</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分の気付いたことや感じたことをはつきり話すことと、相手の話をしっかりと聞くことをめあてとし、目的意識をもたせる。 発表者に質問できるようにし、互いに考えを深められるようになる。 練習と比べて発表が上達できたところを認め、児童が達成感をもてるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手を意識し、思ったことをはつきりと伝えている。 相手の話をよく聞き、自分の考えを深めている。 活動をふりかえり、今まで知らなかつたことに気付くことができる。 	<p>説明する絵・カード</p> <p>ワークシート</p>
<p>2学期</p> <p>こんなすてきな町なんだ（8時間）</p> <p>1. 右京の町で好きな場所を考える。</p>  <p>ワークシート</p> <p>2. 選んだ好きな場所を発表する。</p>  <p>まとめの板書</p>	<ul style="list-style-type: none"> 全てとても分かりやすい説明で、はきはきと大きい声も出ていて良かったと思いました。成長を感じました。 楽しそうに発表できていました。また、絵も上手にかけていて、自分たちで考えてこんなにできるんだなどびっくりしました。 子どもたちが自分の足で歩き、質問をして、取材をした事を頼もしく思います。細かい所まで取材していく、私も勉強になりました <p>《参観した保護者の感想》</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分の町に、興味をもつことができる。 	<p>ワークシート</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 拡大印刷した簡単な校区地図を提示し、町にどんな建物や施設があるのかを思い起こしやすいようにする。 カードを用い、興味を高める。 「学校」が挙がった際は、お世話になっている人々にも気付けるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> 見つけたことや思ったことをわかりやすく伝えることができる。 	

<p>3. 奈良には世界遺産が多く存在することを知り、右京の町から「ぼく・わたしの世界遺産」として今後も残し続けたいものを考え、カードに絵や言葉をかく。</p> <p>4. グループになり、発表の練習をする。</p> <p>5. 「ぼく・わたしの世界遺産」を発表し合う。</p>  <p>発表の様子</p> <p>6. 気付いたことを話し合い、感想をまとめめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 世界遺産の説明については深入りせず、大事に残していくたいと願い続けられたものが今も残されていることを簡単に説明する。 グループ内で声の大きさや速さについて相互評価を交えながら、発表の質を高められるようになる。 発表のよいところを認め、意欲を高めるようになる。 発表者に質問できるようにし、互いに考えを深められるようになる。  <p>質問の様子</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分の町に、興味をもつことができる。 グループの友達と協力し、発表の練習をしている。 相手を意識して、思ったことをはっきりと伝えることができる。 相手の話をよく聞き、自分の考えを深めることができる。 友達の思いにも気付き、右京の町のよさがわかる。 	<p>カード</p> <p>ワークシート</p>
<p>《児童の感想》</p> <ul style="list-style-type: none"> いろいろ公園があるし、学校も楽しいから私はすごくいい町に住んでいるんだなと思いました。最初はこんないい町に住んでいることに気付いていなかったけれど、今はそのことを知って幸せだと思います。 私はこんな右京の町に住んでいてとてもうれしいし、世界遺産にしたいと思うものがあつて、それもとてもうれしいと思います。大きくなつてもこの町に住んでいたいです。 右京の町にこんなにすごくいいところがあるとは思ひませんでした。お店の人もとっても優しいし、危ないところだってあるけど、この右京の町はいいところの方が多いです。この右京の町は、右京に住んでいる人を守るために町があるんだと思いました。 ありがたく思って生活していきたい。建物を作つてもらった人もありがたく、きちんと残したい。右京の町は、ずっとずっとそこに残つてほしい。ぼくは、右京の町に感謝感謝です。 			

4. 成果と課題

○発表の場面では、多くの児童がはつきりした声で発表できた。感想をまとめめる場面では、気付いたことを熱心に書き込む姿が多く見られた。中には、右京の町を大切にしようとする思いを、持ち帰つてまで何枚も書こうとする児童も見られた。このことから、ねらいについては十分達成できたと考えるが、一過性の取組とせず、今後も機会を捉え、継続して指導することが重要である。

○「とびだせひみつたんけんたい」では、働く方の苦労や工夫、やりがいなどを調べて全体に伝えることはできたが、事後の感想は、右京の町がいろんな人に見守られていることに気付くまでには至つていなかつた。どのような指示や発問が他に必要であったのかを見直す必要がある。

民話をくらべて読もう

「木かげにごろり」(東京書籍「新しい国語」三下より)

奈良市立都祁小学校 教諭 新子 慶行

1. はじめに

本単元は、韓国の民話である「木かげにごろり」を通して、さまざまな民話を興味をもって読み、その面白さや先人の思いをとらえようとするものである。「木かげにごろり」は、木かげを自分のものだと言って誰も入れさせようとしない地主からお百姓が木かげを買い取り、夕方になって地主の屋敷の庭まで伸びた木かげの中で、お百姓が地主の用意したごちそうを食べてしまうというお話である。地主に虐げられていたお百姓が、地主の傲慢さを逆手に取っていくところが痛快で、子どもたちも最後まで楽しみながら読むことができる。

本実践では、「木かげにごろり」と、都祁地域に伝わる民話「いっぱいだましの石」を読み比べ、双方の面白さを読み深めるとともに、地域の伝承や行事に目を向ける意識をもつことができるようと考えた。

二つの民話を効果的に読み比べることができるようにと考え、まずは「木かげにごろり」を通読、精読した。その際、さし絵も手がかりにしながら、お話の背景や人々の気持ちをとらえさせるようにした。次に「いっぱいだましの石」を、「木かげにごろり」との共通点や差異点を確認しながら読んでいった。最後に、「いっぱいだましの石」の紙芝居を作り、1年生に読み聞かせをするという学習活動を設定した。相手意識や目的意識を明確にすることで、文章表現や絵を工夫する意識をもたせることができた。

2. ねらい

(世界遺産学習)

- 地域に伝わる民話を他の民話と比較しながら読むことで、地域の伝承や行事に目を向け、地域のことについてより詳しく知りたいと思う心を育てる。

(国語科)

- 二つの民話を比較しながら読むことを通して、民話に興味をもち、進んで読もうとする。
(関心・意欲・態度)
- お話の内容を正しくとらえ、1年生に分かりやすい紙芝居に再構成することができる。
(書くこと)

3. 学習活動の概要（全11時間）

第1次 「木かげにごろり」を読もう … 3時間

(学習の流れ)

- ① 「木かげにごろり」を読み、学習の見通しをもつ。
- ② 場面わけをする。
- ③ 登場人物や生活の様子などについて、本文やさし絵をもとに話し合う。



☆指導のポイント

外国の民話であり、登場人物の様子や行動に特徴が見られるのが、「木かげにごろり」のおもしろさの一つである。自分たちの知識や経験を照らし合わせながら、充分に味わわせたい。その際、韓国のことについての基本的な理解が読みを助けるきっかけとして、地図や主な文化などを簡単に紹介する。

また、第3次の準備として、紙芝居作りという視点からの場面分けを行う。

☆評価のポイント

(世界遺産学習) 登場人物の様子や行動、場面の様子などを、自分達の生活体験と比較しながら読もうとしている。

(関心・意欲・態度) 「木かげにごろり」に興味をもち、進んで読もうとしている。

(読む) 紙芝居にするための場面分けをするという視点をもとに読んでいる。

第2次 二つの民話を比べよう … 4時間

(学習の流れ)

- ① 「いっぱいだましの石」の読み聞かせを聞く。
- ② 場面ごとに、登場人物の行動や場面の様子を読み取る。
- ③ 二つの民話を読み比べながら、「いっぱいだましの石」を読み深める。

☆指導のポイント

読み比べをする際に重要なのは、共通点と差異点を明確にとらえさせることである。本実践では、「困っている住民が、何らかの方法で問題を解決する」という流れや、お話の中にお祭り（行事）が出てくることなどが共通点である。一方、問題解決の相手が地主とタヌキであることや、祭りの内容などが差異点としてあげられる。比べながら「いっぱいだましの石」の特徴をとらえていくことで、文化や生活の違いが身近に感じられると考える。

☆評価のポイント

(世界遺産学習) 地域に伝わる民話を進んで読んでいる。

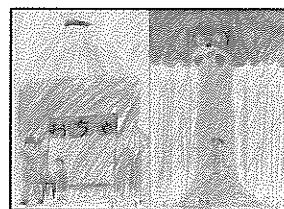
(関心・意欲・態度) 「いっぱいだましの石」のお話の流れや場面の様子を楽しみながら読もうとしている。

(読む) 二つの民話の違いをとらえながら読んでいる。

第3次 紙芝居を作ろう … 4時間

(学習の流れ)

- ① 「いっぱいだましの石」の場面分けをする。
- ② 紙芝居に合うように、文章を書きかえる。
- ③ グループで場面ごとに紙芝居をつくる。
- ④ 1年生に紙芝居をする。



☆指導のポイント

民話「いっぱいだましの石」は都祁地域に伝わる民間伝承を、地元の方が昔話として再構成したものであり、本や冊子としては刊行されていない。したがってさし絵がなく、紙芝居のものとなる絵がないため、タヌキや昔の人、神社などの参考資料となるイラストや写真をたくさん準備する。

また、文章については、1年生のための紙芝居という目的に沿うよう、書き換えを行う。難しい言葉を易しい言葉に置き換えたり、タヌキや村人の会話を増やしたりするなどの活動を行うことで、文章に対する理解がより深まると考える。

☆評価のポイント

(関心・意欲・態度) 積極的にグループで話し合い、紙芝居を作ろうとしている。

(読む) 1年生への紙芝居を作るという目的意識をもって、文章を書き換えていく。

(児童の作った紙芝居の例)

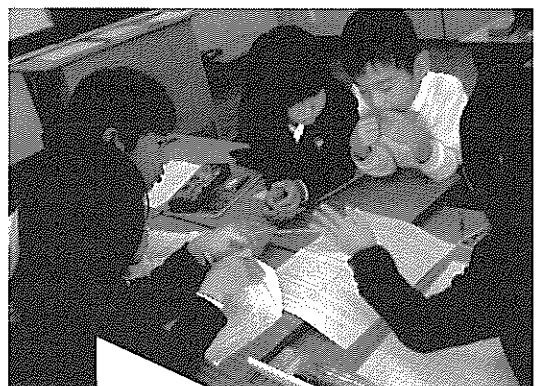
2場面

〈紙芝居〉

ある日、タヌキはきれいな着物を着たむすめさんと一緒に化けて、
「ヒツヒツヒツ。村人をだましてやる。」
と言ひながら村へ行きました。
村に入ったとき、村人が
「そこの着物を着たむすめさん、やしきに来て下さい。食べ物などを出しします。」
と言つてむすめをやしきにまねきました。
そして
「あつそれ、あつそれ。」
と言つておどりを見せました。
お酒によつてねつしまつた村人が目をさます
と、そこは田んぼでした。
「おれらどろんこだぞ。」
と、村人たちがくやしそうに言いました。
そのころタヌキは、森の中でわらつていまし
た。

〈原文〉

ある日、タヌキはきれいな着物を着たむすめさんにはげて、村へ行きました。
村人はむすめを大きなおやしきにまねいて、「どうしたりおどりを見せたりしました。
お酒によつてねつしまつた村人が目をさましてみると、田んぼの中でどろんこになつてねむつておりました。



1年生によくわかるように、タヌキと村人のセリフを入れよう。

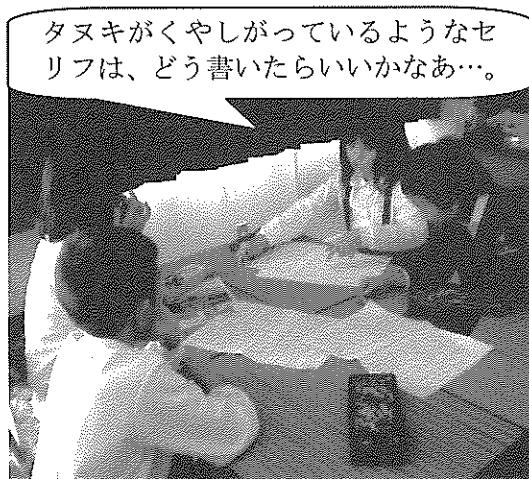
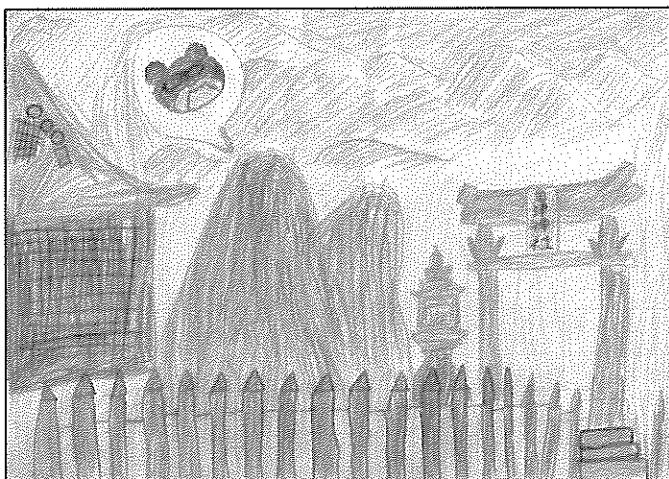
6 場面

〈紙芝居〉

その後しばらくは何事もおこらなかつたので、村人たちちは、「石の下にとじこめてよかつたな。」「そうやな。」と言つて、すゞくよろこんでいました。ところが、石の下にとじこめられたタヌキは、「くやしい、しかえししてやる。」と言つて石の下でくやしがっていました。タヌキは、死んでしまつたあとも、たびたびばけて出て、また村人にいたずらをするようになりました。

〈原文〉

その後しばらくは何事もおこらなかつたので、村人たちもたいそうよろこんでいたそうです。
ところが、石の下にとじこめられたタヌキは、くやしくてくやしくてしかたありません。
タヌキは死んでしまつたあとも、たびたびばけて出て、また村人にいたずらをするようになりました。



4. おわりに

文章を書き直していく過程で、子どもたちの中から、「～しておりました。」という文体を「～していました。」という形に直してはどうかという発言があった。1年生にとって、「おりました。」という文末はなじみがなく、難しいという意見である。すると他の子どもから、「おりました。」の方が昔話らしくてよいのではないかという反論が出され、話し合いとなつた。結果としては「～していました。」で統一することになったが、このような細かな点について、再話という観点からより深く考えていくことは、子どもたちにとって文章を読む際の視点の広がりにつながつたと考える。

民話は日本各地で長く語り継がれ、地域の文化として継承されてきたものである。また、書かれた文書の形ではなく、語りによって受けつがれてきたため、伝わっていく際に少しずつ変化していくところも面白い。

本実践では、地域の民話を取り上げ、紙芝居を作るという目的をもつて子どもたち自身が「再話」を行うことで、民話のおもしろさや奥深さに触れさせることを狙つた。「地域の遺産」として民話を学習していくことで、自分が住んでいる地域の歴史や文化に興味をもつきつかけになつたと考える。

守り 伝えよう 奈良の文化遺産

奈良市立大安寺西小学校 教諭 仲西 亮悟

1. はじめに

この実践は、社会科の「きょう土につたわるねがい」の「3. のこしたいもの、つたえたいもの」の単元からのつながりで展開してきたものである。わたしたちが住む奈良市が誇る伝統的なお祭りである「おん祭」について、名前は知っていてもその価値や意味をあまりにも知らない児童が多いことに驚いた。そこで、奈良の文化遺産について自分たちで調べ、その価値を体感し、守り伝えようとする心を育てていきたいとの思いから、この取組を実践するに至った。

また、本校の4年生には、毎年6月にアメリカから1ヶ月間日本に帰国してくる児童がいる。そこで、アメリカの子どもたちに奈良の素晴らしい文化遺産を紹介することができれば、とても貴重な経験をすることができると考え、発信先をアメリカの児童へと決め、活動を始めた。

2. ねらい

- ・奈良の文化遺産を継承し、保護してきた人々の思いや努力を知り、文化遺産を大切にする態度を育てる。
- ・外国への発信を通して、異文化コミュニケーションを図る。

3. 学習活動の概要 (全10時間)

主な学習活動	学習への支援・留意点	評価	備考
<p>1. 知ろう (2時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 南都楽所の演奏を聴き、舞を観て古くから伝わる芸能にふれる。 <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-right: 10px;">雅楽の演奏</div>  <div style="margin-right: 20px;"> <p>雅楽の演奏</p> <p>楽器について教えてもらいました。</p>  </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・南都楽所の演奏と舞を観て、自分なりの感想をもたせる。 <div style="text-align: center;"> <p>南都楽所の舞と雅楽演奏</p>  </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えや感想をしっかりとまとつことができている。 	<p>ゲストティーチャー</p> <p>南都楽所</p>

- ・中国やインドからきた楽器や見たことがない楽器がいっぱいあって、びっくりしました。
- ・こわいお面をかぶっている人と音楽がうまく重なっていてすごいと感じました。
- ・夜に神様をよんで火をつけるなんて知りませんでした。
- ・雅楽の演奏と、音楽の時間に聞いた歌とは、まったくちがいました。
- ・世界に一つしかない物が奈良にあるなんてすごかったです。
(螺鈿紫檀五弦琵琶)

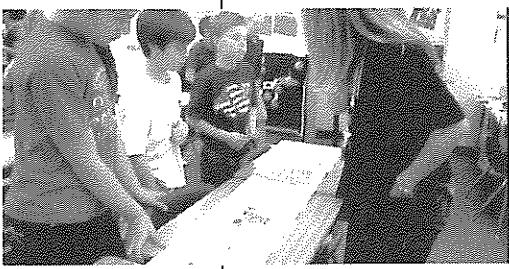
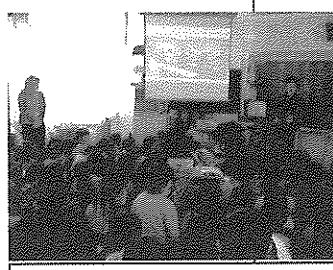
<ul style="list-style-type: none"> ・奈良に古くから伝わるおん祭についてゲストティーチャーから教えてもらう。 <p></p> <p>おん祭の説明を聞いています。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・春日大社の宮司さんの話や演奏を聴き、自分の思いをもたせる。 <p></p> <p>笙の演奏をしてくれました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・おん祭に対する自分の思いをもつことができる。 	<p>ゲストティーチャー 春日大社宮司</p>							
<p>2. 調べよう（3時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の興味のある奈良の文化遺産についてパソコンなどで調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発信までの見通しをもたせて活動させる。 ・興味のある奈良市の文化遺産（仏像・寺院・神社・お祭り・史跡・人物などアメリカの子どもたちに紹介したいもの）を自分で考えて選ばせる。 <table border="1" data-bbox="457 1269 1013 1860"> <tr> <td>児童が選んだテーマ</td> </tr> <tr> <td>仏像・・・バサラ、大仏、吉祥天女、音声菩薩、阿修羅</td> </tr> <tr> <td>建物・・・興福寺五重塔、東大寺、春日大社、元興寺、薬師寺、二月堂、三月堂、唐招提寺、薬師寺東塔</td> </tr> <tr> <td>お祭り・・・おん祭（お渡り式、暁祭、お旅所祭）</td> </tr> <tr> <td>史跡・・・平城宮跡（大極殿、朱雀門）</td> </tr> <tr> <td>人物・・・聖武天皇</td> </tr> <tr> <td>その他・・・しかせんべい、せんとくん、奈良漬、春日山原始林、奈良公園、若草山、しか、しかの角切り</td> </tr> </table>	児童が選んだテーマ	仏像・・・バサラ、大仏、吉祥天女、音声菩薩、阿修羅	建物・・・興福寺五重塔、東大寺、春日大社、元興寺、薬師寺、二月堂、三月堂、唐招提寺、薬師寺東塔	お祭り・・・おん祭（お渡り式、暁祭、お旅所祭）	史跡・・・平城宮跡（大極殿、朱雀門）	人物・・・聖武天皇	その他・・・しかせんべい、せんとくん、奈良漬、春日山原始林、奈良公園、若草山、しか、しかの角切り	<ul style="list-style-type: none"> ・発信先を意識して、紹介したい文化遺産を選んでいる。 ・インターネットで自分が欲しい情報を得ている。 <p>インターネットで調べています。</p> <p></p>	<p>インターネット</p>
児童が選んだテーマ										
仏像・・・バサラ、大仏、吉祥天女、音声菩薩、阿修羅										
建物・・・興福寺五重塔、東大寺、春日大社、元興寺、薬師寺、二月堂、三月堂、唐招提寺、薬師寺東塔										
お祭り・・・おん祭（お渡り式、暁祭、お旅所祭）										
史跡・・・平城宮跡（大極殿、朱雀門）										
人物・・・聖武天皇										
その他・・・しかせんべい、せんとくん、奈良漬、春日山原始林、奈良公園、若草山、しか、しかの角切り										

3. 発信しよう (4時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・端的に奈良の文化遺産の魅力や良さを伝えられる文章を考えさせる。 ・児童の思いや伝えたいことを教師が英文に訳し、児童の絵に添える。（英訳には yahoo の excite 翻訳を使用） ・絵のタイトルをローマ字で書かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発信先を意識して、自分の思いを表現している。 	画用紙
	<p>唐招提寺を描いています。 アメリカの小学生に伝わるよう、心をこめて描きました。</p> <p>児童が表現した日本語の紹介文を英訳して画用紙の端に載せています。</p>		

児童の日本文と英訳の例

日本文・・・大仏の右手は、人々におそれなくともよいこととはげますことを表しています。左手は、人々の願いがかなうようにということを表しています。

英訳・・・The right hand of the Great Buddha offers people courage free from fear, while the left hand expresses the realization of their hopes.

<p>4. 受信しよう (1時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> アメリカからの返事を受けて、自分の考えをもち、学習のまとめをする。 	<p>・アメリカの児童が、自分たちの作品を鑑賞している様子の写真を見て、交流できたことを実感させるとともに、自分の作品がアメリカに伝わったことに対する自分の考えをもたせる。</p>	<p>・学習全体を通しての感想をもち、自分の考えを深めていく。</p>	<p>パソコン、プロジェクト</p>
<p>アメリカの児童が作品を鑑賞してくれている様子です。</p>			
			
<p>児童の感想</p>			
 <p>アメリカからの返事の写真をみんなで見ています。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・わたしの作品が海をわたって、アメリカという外国に行ったことがとてもうれしいです。これをきっかけに世界遺産などをもっと知りたくなりました。 ・自分の絵を楽しんで見てもらって、とてもうれしかったです。奈良の文化遺産などを知ってもらえて、もっと奈良に興味をもつ人がふえたらしいと思います。 ・アメリカの小学生が少しでも奈良のことを知ってくれたのでうれしかったです。今度は、わたしたちもアメリカのことを教えてほしいです。 ・奈良のことをあらためてすごいなあと思いました。奈良の文化遺産がそんなに多いなんて知らなかつたです。 ・ぼくたちがかいたものが外国へ行くというのは、素晴らしいなと思いました。日本のことを使ってもらってうれしいです。 		

4. 成果と課題

南都楽所や春日大社の方に来ていただき、本物に触れる活動をしていく中で、児童の奈良の文化遺産に対する思いが少しずつ変化してきたように思う。それは、耳で聞き、目で見て知っている奈良の古くから伝わるあらゆるものは単に残ってきたものではなく、人々のたゆまぬ努力によって守り伝えられ残してきたものであるという感動である。その感動をもって発信先と決めたアメリカの子どもたちに思いを伝える活動は、児童の心に残るものになったと考える。また、児童の感想にもあったように、奈良のことを改めてすごいなと感じられる活動になったのではないかと思う。

今回取り組んだように、双方向のやりとりができる発信先があれば、異文化を理解し、国際理解教育に広げることができる。互いの郷土の良さや、大切にしてきた人々の営みに気付くために、適切な発信先を探し、より深く情報のやりとりを行っていきたい。

奈良の世界遺産を商品化しよう

～手ぬぐいのデザインを売り込もう～

奈良市立佐保台小学校 教諭 西谷 隆詞

1. はじめに

昨年度は6年生の子どもたちと世界遺産学習を行い、奈良のすばらしさを学ぶことができた。今年度の5年生ではすばらしさを学ぶだけでなく、そのすばらしさを広める体験をさせたいと考えた。

また、キャリア教育と世界遺産学習の融合も考慮し、奈良をモチーフにした手拭いを販売する（株）なら町長屋朱鳥と連携した。手拭いを商品化することを通して、奈良のすばらしさについて考えるだけでなく、社会に働きかけていく力を育てたい。

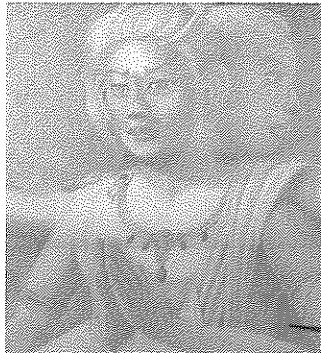
2. ねらい

- ・手ぬぐいをデザインするという経験を通して、社会に積極的に関わろうとする意識を育てる。
- ・これまでと違った視点から奈良のよさ、奈良らしさについて考え、デザイン化する。
- ・商品化という目標をもつことによって、意欲的に奈良について学ぶ。

3. 学習活動の概要（全29時間）

主な学習活動	学習への支援	評価	備考
<p>1. 学習に対する見通しをもつ。（1時間）</p> <p>・世界遺産現地見学について</p> <p>・手ぬぐいのデザイン化</p> <p>奈良にはそんなにいいものがあるの？</p> <p>何をデザインすればよいかわからない。世界遺産にはどんなものがあるのだろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通した予定を提示するとともに、学習の価値について話し、意欲をもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習への意欲をもつ。 	<p>振り返りカード</p>
<p>2. 世間の人たちが、奈良のどんな世界遺産に興味をもっているのか調べてみよう。（1時間）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットの活用方法や配慮する点を指導する。 ・調査結果を共通点で整理させる。 	<p>奈良の世界遺産についてはよく知っているよ。</p> <p>自分には無理だ。そんな大きなところで発表できるようなものは作れない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データを整理してまとめる。 	

- ・インターネットを使って世界遺産に関する情報を集める。
- ・人気の秘密について、家族にもインタビューする。



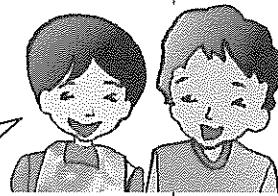
大仏に興味をもっている人が多い。

阿修羅のような仏像が好きだという人も多い。

3. 世界遺産現地見学の計画を立てよう。(1時間)
- ・人気の秘密を確かめよう。
 - ・知っているようで知らない奈良のよさを見つけよう。

- ・注目ポイントを相談させ、見学のめあてをもたせる。

- ・協力して相談する。



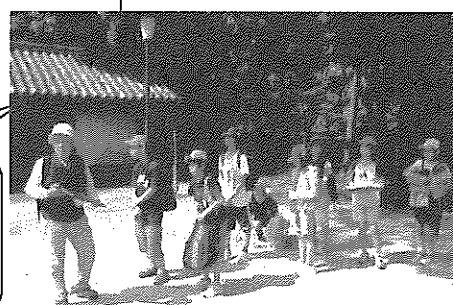
みんなが興味をもつている大仏のよさをしっかりと見てきます。

なぜ奈良の鹿がそんなにみんなから注目されるのか見てきたいです。

4. 世界遺産現地見学(5時間)

- ・薬師寺
- ・唐招提寺
- ・東大寺

どこまでも続く伽藍の美しさに初めて気づきました。



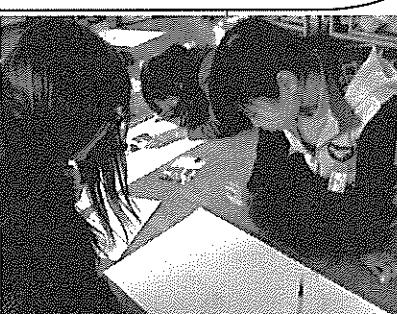
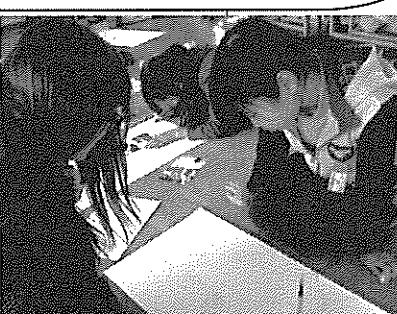
デザイナーの和田先生も同行。

和田先生は二月堂の階段の模様（まさか）を撮影していた。自分たちの知らない奈良の良さはまだまだあると思う。



当たり前だと思っていたけど、鹿と人が一緒に暮らしているのはすごいことだと気付いた。

自分たちは気付いていなかったが、奈良にはすばらしいものがたくさんあった。

5. 第一次のデザインと企画書を書こう。(6時間)	・伝えたい奈良らしさについて話し合い、イメージをふくらませる。	・奈良らしさを表現する。	ラフスケッチ
<ul style="list-style-type: none"> ○ 最初は自分には無理だと思っていたけど、描いている内に自信が出てきた。 ○ 見学した後でアイデアが出てきて、そのアイデアをいれた手ぬぐいにしてみた。企画書なんて書いたことがなかったけど、自分の伝えたい良さが分かるよう工夫したところをアピールすればいいと分かった。 			
6-①米袋のデザイン。 ・水田で育てている米を配る袋のデザインをする。	・手ぬぐいのデザイン化の予備練習として、しっかり取り組ませる。		水田での学習に協力してくださっている『奈良人と自然の会』からの依頼。
6-② プレゼンテーション ・学校の中でプレゼンテーションを行い投票する。(5年生、教員)	<p>学校内での投票結果(プレゼンテーション有り)と奈良人と自然の会の方たちの投票結果(プレゼンテーション無し)の投票結果は大きく違った。</p>		
<p>この結果は選んだ人の違いもあると思うけど、デザインだけでなく、自分のデザインの良さを知ってもらうためのプレゼンテーションも重要だと思った。</p>			
7. プrezentation用のデザインを描こう。(10時間) ・ラフスケッチを元にプレゼンテーション用のデザインを描く。	・和田先生にゲストティーチャーとして来校してもらい、手ぬぐいのデザインについて教えてもらう。		<p>次日の日に、和田先生の働いている朱鳥に行きました。…そこにある数々のいい手ぬぐいを見て、これに負けないデザインにしたいと思いました。</p>
<p>人によってデザインの感じ方はちがうんだなと思いました。…和田先生にデザインのかわいさをほめられたことがすごくうれしくて、自信がもてるようになりました。</p>			
<p>思いをこめてかっこいいデザインになればいいと思います…奈良には観光に来る人がたくさんいます。おみやげに買ってってくれ、ぼくの思いが日本全国、外国にも届けられたらと夢は広がります。</p>			
8. プレゼンテーションの練習をしよう。(2時間)	・全校児童への伝え方を工夫させる。	・伝え方を工夫する。	

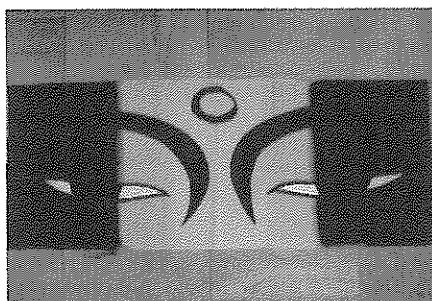
	<p>聞いてもらえる話し方を工夫しようと思った。低学年と高学年で話し方を変えた。相手によって話し方を変えると良いことが分かった。</p>			
<p>8. デザインを発表しよう。(3時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イオン高の原ショッピングセンターにて、一般の方に向けプレゼンテーションをする。 ・それぞれのデザインについて、投票してもらう。 		<p>(会社の人、テレビ・新聞局の人、発表を聞いてくれた人に) ぼくたちとかかわってもらって、ふれあう力や、発表する力をつけてもらえたので感謝しています。</p>		
<p>僕たちはプレゼンテーションの時、一人の社会人として参加しました…この学習を通して、多くの人とかかわって、自分には奈良のいいところを伝えたり、説明したりする力がついたと思います…身近にこんな良いものがたくさんある奈良に住んでうれしく思います。</p>				
<ul style="list-style-type: none"> ○ ぼくは多くの人とかかわりました。そして、いろいろな人の協力を得て、自分から奈良のよさを伝えられたので、自信がつきました。 ○ ぼくたちが伝えようとしている奈良のよさとは、古くから守ってきた人々の思い、これからも守っていこうとする人々の思いだと思います。 				

4. 成果と課題

現在、一点目の商品化が終了し店頭での販売が開始されている。
他の児童のデザインについても全て (株) なら町長屋朱鳥に納入され、随時商品化していく予定である。

今回の取組を終えての何よりの成果は、全ての児童が自信を持つ活動ができたことである。多くの方と関わり、働きかけた経験によって、自分たちが社会に影響を与える力をもっていることに気付いたようである。また、今まで気付いていなかった奈良のすばらしさに気付くこともできた。また、デザイン化を意識することで、これまでと違った視点から奈良を見つめ、いろいろな人たちと奈良のよさを考えたことがこの結果につながった。

企業と連携した学習活動は、子どもが教員以外の大人と関わる機会が増えるとともに、商品化されることで、学びと社会とがつながり、子どもの学習意欲や社会への関心が高まった。しかし、今後企業と連携した学習を進めるにあたっては、一方的な協力を求めるのではなく、互恵性のある関係作りが必要であると感じる。



児童のデザインした手ぬぐい

ならまちの赤いバケツ

～防火バケツに込められた思い～

奈良市立三碓小学校 教諭 藤田 紗代子

1. はじめに

人にとって郷土とは、生涯にわたって大きな精神的な支えとなるものである。郷土への思慕は幼い頃からの家族との時間、友人との時間、地域の人々との時間を思い出させるものであり、人とのつながりそのものであるといえる。また、その郷土の過去や未来に思いをはせることは、過去と未来をつなぐ「わたし」という存在を強く感じることである。それが、自己肯定感や自尊感情を育していくのである。つまり、郷土を愛することは、人を愛し、自分を愛することにつながるのである。だからこそ、子どもたちには、郷土を愛する気持ちを育てることが大切であると考える。

今回、授業で扱った自作資料は、ならまちの店を訪れることになった主人公ゆうきが、防火バケツに込められたならまちの人々の町への愛情に触れることで、自分の町への愛情を深める話である。歴史的景観や様々な文化財が残るならまちは、奈良市の旧市街地にある。木造密集地区であるため、防火・防災の面で、様々な取組が行われてきたが、1998年、99年に町内で起きた火事の際に、逃げ遅れた人が犠牲となってしまった。この火事をきっかけに、町内の家の軒下に赤い防火バケツを並べるようになった。

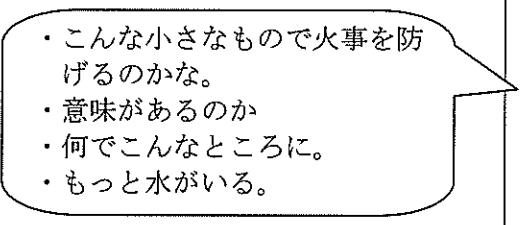
住民一人一人の「自分がこの町を守る」という意識の表れである赤い防火バケツに込められた思いに触れることで、児童にならまちの人々がもつ暮らしの中での郷土愛を感じさせたい。さらに自分が住む町にも人々の思いが隠れていることに気付いたゆうきの気持ちを考えることで、何気ない暮らしの中にもある先人や郷土の人々の思いを感じ、自分の住む町を、そして奈良という郷土への愛情を深められるようにしたい。

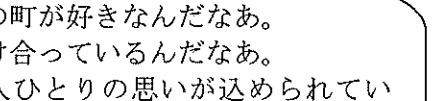
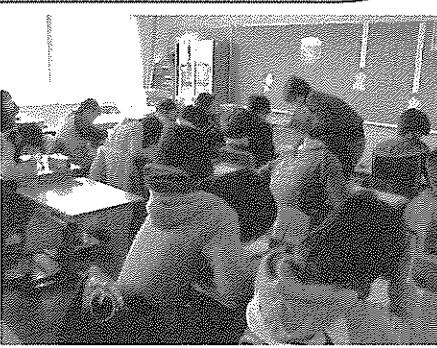
2. ねらい

- ならまちの防火バケツに込められた人々の思いに触れ、郷土を愛する心情を養う。(高4-(7))

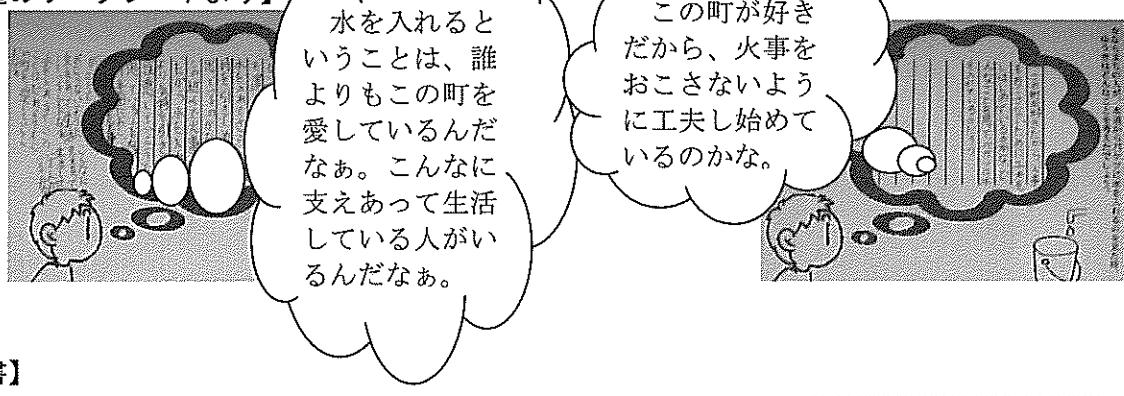
3. 学習活動の概要

【展開】

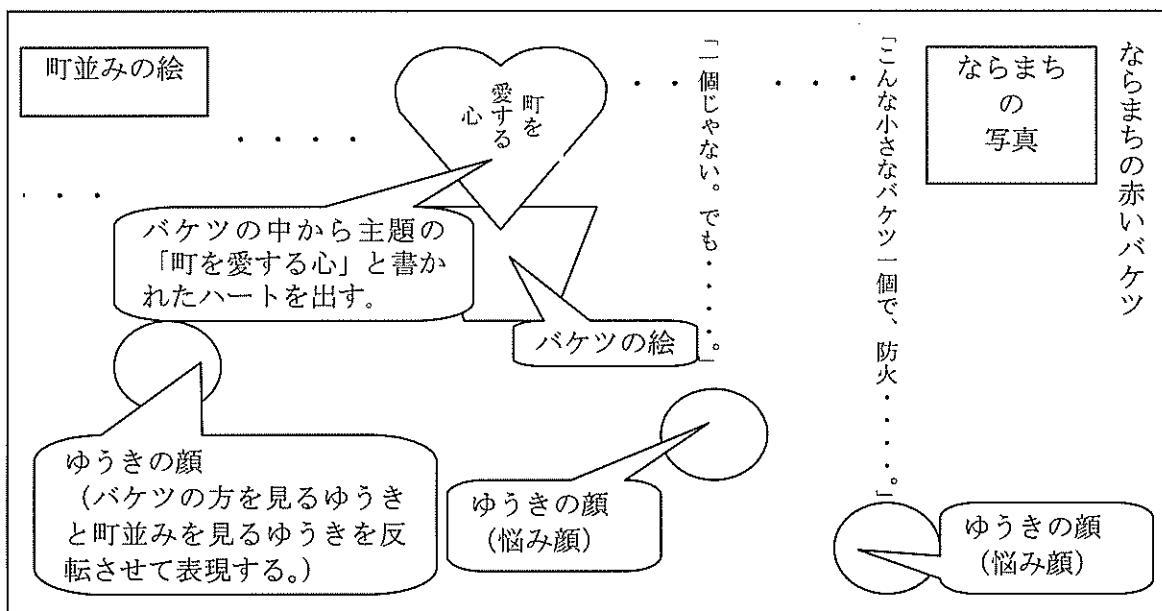
	学習活動	主な発問と予想される児童の意識	教師の支援
導入	1. ならまちについて知る。	○ならまちのことを、知っていますか。	・ならまちについて知ることで、資料に入りやすくする。
展開	2. 「ならまちの赤いバケツ」を読み、話し合う。  <ul style="list-style-type: none"> ・こんな小さなもので火事を防げるのかな。 ・意味があるのか ・何でこんなところに。 ・もっと水がいる。 	○「こんな小さなバケツ1個で防火……。」と言った時、ゆうきはどんな気持ちだったでしょうか。 <ul style="list-style-type: none"> ・こんなものの意味があるのかな。 ・どうしてバケツで防火するんだろう。 ・もっといいものを使えばいいのに。 	・たった1個のバケツの水では何もできないと、ゆうきが思い込んでいることを理解できるようにする。

	 <ul style="list-style-type: none"> この町が好きなんだなあ。 助け合っているんだなあ。 一人ひとりの思いが込められている。 いい町だなあ。 工夫しているんだな。 命を守っているんだな。 	<p>○何個も置かれた防火バケツを見たゆうきは、どんな気持ちだったでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 何か意味があるんだな。 これだけ数があれば防火できるのかな。 これぐらいじゃ全然足りないよ。 <p>・消防器の方がいい。</p> <ul style="list-style-type: none"> なぜ家の前に。 もっと効率的な方法は? 遠くの人は大変だ。 1家庭に1つあるのかな。 	<p>・防火バケツが各家々にあることをおさえることで、町の人全体の思いが込められていることに気付くことができるようする。</p>
	 <ul style="list-style-type: none"> 自分の町にもならまちと同じものがあるのかなと探すようになった。 ならまちのように守っているものはあるのかな、と思ったから。 工夫しているものはないかな。 	<p>○ならまちの人が、水道からバケツに水を入れるのを見た時、ゆうきはどんなことを考えたでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 何を考えてながら入れてるんかな。 すごいなあ。自分達の町を守ってるんやな。 きっと町のことが大好きなんやろうな。 <p>○ならまちから帰ってきたゆうきに、自分の町が新鮮に見えたのは、なぜでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の町にもいいところがいっぱいあると気付いたから。 かくれている思いを探そうとしていたから。 何気ないものにも目がいくようになったから。 	<p>・バケツに水を入れるという何気ない行動の中にも、町への愛情が込められているということをつかめるようする。</p> <p>・いつもとは違った視点から町を眺めることで町への思いが高まったゆうきの思いを考えることで、主題に迫れるようする。</p>
	<p>3. 自分の生活を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 掃除してくれている。 立ち当番の人がいてくれる。 ゴミ拾いしてくれる。 	<p>○みんなの町にある赤いバケツは、どんなものですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> あいさつをしてくれる。 お祭りがある。 家の前を掃除している。 	<p>・自分の町のよさに気付くことができるようする。</p>
終末	<p>4. 教師の話を聞く。</p>		<p>・余韻が残るようにする。</p>

【児童のワークシートより】



【板書】



4. 成果と課題

本学級の児童の多くは新興住宅地に住んでいる。電車等で30分も移動すれば、様々な世界遺産に触れることができる地域である。そして、今までに行ってきた世界遺産学習や社会の歴史学習から奈良という郷土の素晴らしさに気付いた児童も多い。また、最近では市内で行われていた正倉院展や平城遷都1300年祭に足を運んで、郷土への愛着を感じた児童もいる。しかしながら、そういった特別な機会や学習時以外に郷土への愛情を感じている児童は少ないようと思われる。そこで、何気ない暮らしの中にも、自分たちの住む町や郷土のよさを感じることができるようにしたいと考え、今回の学習を計画した。

資料を作成するにあたっては、以下の点について留意した。

- 事実と相違がないように、作成前の取材と作成後の確認を直接ならまちの方とさせていただくこと。
- 児童が混乱しないように、登場人物を精選し、児童が、主人公1人の気持ちを追えるようにすること。また、様々な価値が混在しないようにすること。さらに文章量もできるだけ抑え、平易な文章を心がけること。

自作資料ではあったが、大きな混乱なく児童に提示することができた。また、ならまちの写真や、実際に使われていたバケツを児童に見せることで、資料の中での出来事が児童の中で具体化され、より深く主人公の気持ちを考えることができ、ねらいに迫ることができた。

しかし、資料に世界遺産をどう反映させるか、道徳の授業の中でどのようにすれば世界遺産を効果的に扱うことができるのか、といった点に関しては、これから実践の中で追究していく必要があると思われる。

ならまちの赤いバケツ

窓の外に、若草山が見えてきました。ゆうきは、父と一緒に、ならまちにある和菓子屋さんに向かっています。

明日から来る祖母が、そのお店のおかしが大好きなので、買いに行こうという話になつたのです。初めて、ならまちに行くことになつたゆうきは、車の外をぼんやりとながめながら、どんなところだろうと、考えていました。

駐車場に車をとめると、二人は、ならまちに向かって歩き出しました。猿沢池の横を通り過ぎ、町の中に入ると、昔ながらの木造の建物がたくさん立ち並んでいました。お店が立ち並ぶにぎやかな通りから、細い路地に一歩入ると、住む人の息づかいが聞こえてきそうな気がしました。(うちのまわりもこんななんならなあ。)

と考えながらゆうきは歩いていました。

「さ、ついたで。」

和菓子屋さんに入ろうとする父の後に続こうとすると、ふと、ゆうきの目に飛びこんできたものがありました。学校の掃除で使っているものと同じくらいのバケツ。赤く色をぬられ、『防火』と書かれています。「こんな小さなバケツ一個で、防火……。」ゆうきは店先で立ち止まりました。すると、父が声をかけました。

「どうしたんや、ゆうき。店に入るで。」

「お父さん、ここに防火って書いてあるバケツがあるんやけど、これって、意味あるの。防火用なら、もつと水がいるやろ。」ゆうきはバケツを指差しながら言いました。父は、バケツの方に目を向けました。

「そうか。ゆうきがならまちに来たのは、初めてやつたな。」

父は、通りに戻つてゆうきを手まねきました。

「こっちに来て見てごらん。」

首をかしげながら、ゆうきは父のところへ行きました。そして、父が指差した先を見ました。

「あつ・・・・・。」

【資料・ならまちの赤いバケツ】

通りに面した古い家々の前には、同じ赤いバケツが置かれていました。ぽつん、ぽつんと置かれたその先にも、赤い点々が続いています。

「一個じゃない。でも・・・・・。」思わずゆうきは声をもらしました。

「さ、店に入るで。」

父を追つて、ゆうきもお店にはいりました。父が、お菓子を買っている間も、ゆうきは、赤いバケツのことが気になつて仕方ありません。そして、ついに、お店のおじさんに尋ねてしまいました。

「おじさん。あの店先にあるバケツ、どうして置いているんですか。」「ああ、防火バケツのことかい。実はね、今から十年ぐらい前に、ならまちで大きな火事が二回もあつてね。その時に、お年寄りがなくなっているんだよ。それ以来、みんなで家の前に置くようにしてるんだ。ならまちは、昔ながらの木造建築が多くて、とても美しい町並みだけれど、火事が起ると火が一気に燃え広がってしまうからね。気持ちを引きしめる意味でも、置いているんだよ。」

そういうつて店の入り口から通りを見ているおじさんの目は、とても優しく見えました。

「そうやつたんや。ありがとうございました。」

ゆうきはぺこっと頭を下げて、父と店を出ました。

二人は、昔ながらの美しい町並みを散歩しながら帰りました。途中で、あの赤い防火バケツの水を代えている町の人を見ました。その人は、水道から水を入れている間、じつとバケツの中を見つめていました。その様子を見ながら、父は、ぽつりと言いました。

「人の気持ちちは、何気ないところにこめられているからなあ。」

父の声は小さかつたけれど、はつきりとゆうきには聞こえました。

車が、ゆうきの住む町に入りました。ゆうきは、今まで目にも留めていなかつたものが、気になつて仕方ありませんでした。家の前の掃除をしている人、散歩しているおじいちゃん、掲示板のポスター、横断歩道の横に置いてある黄色の旗・・・・・。何もかもが、新鮮に見えました。

「ぼくの町にも、何か、かくれているかもね。」ゆうきは運転席の父に言いました。

「鎌倉時代の奈良の仏教」

奈良市立平城西中学校 教諭 宮本琢也

1. はじめに

奈良盆地の北端に位置する平城山丘陵において、昭和40年代から住宅開発が進められた。本校は、そこにできた平城ニュータウンの4つの地区のうち、右京と神功の2つの地区を校区とした、閑静な住宅街に立地する中学校である。

平成20年度から、奈良市小中一貫教育パイロット校に指定され、校区内の右京小学校、神功小学校と連携した小中一貫教育を推進している。

新たに開発された地域であるため、校区内で歴史的な建造物などにふれる機会は少ない。そこで、小学校5、6年生と中学校1年生から3年生で履修する郷土「なら」科(総合的な学習の時間)を通じて、歴史的な遺跡である「石のカラト古墳」や「押熊瓦窯」を学ぶことから、悠久の歴史を感じ取ることができるとともに、地域への愛着を深めることができた。

郷土「なら」科による学習を活かすため、中学校の歴史的分野においても、さまざまな時代の奈良を取りあげることを目標に据えている。教科書では、平安鎌倉時代を学習する際、大和(奈良)を中心に活躍した僧侶の姿の記載はない。そこで、これらの僧侶の姿を学ぶことにより、教科書の内容の深化を図るとともに、郷土への関心を高めるきっかけとしたい。

2. ねらい

- ・ 鎌倉時代の新しい仏教の特色を理解し、それが人々の心をとらえて広まった理由を考える。
- ・ 建築物・彫刻・文学作品のいくつかを具体的に知り、鎌倉時代の文化の特色を理解する。
- ・ 自分の住む奈良に貢献した鎌倉時代の僧侶について興味をもち、調べる。
- ・ 自分の住む奈良の文化財やそれにかかわった人々の思いについて深く理解し、愛着をもつ。

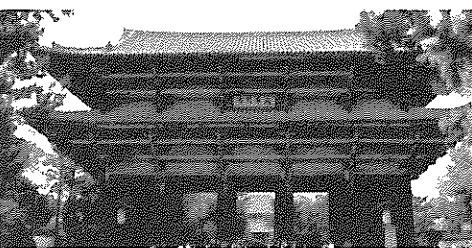
3. 学習活動の概要（全3時間）

[全体の流れ]

- (1) 鎌倉時代の新しい仏教の教えと文化の新しい動きについて理解する。（1時間）
- (2) 鎌倉時代に尽力した奈良の僧について知る。（1時間）
- (3) 鎌倉時代の仏教の特徴について考える。（1時間）

○鎌倉時代の新しい仏教の教えと文化の新しい動きについて理解する。（1時間）

主な学習活動	学習への支援	評価	備考
1. 奈良時代・平安時代の仏教について振り返り、思い出す。	・ 1学期に学習した聖武天皇や鑑真、最澄、空海などの僧を思い出させ、発表させる。	◇既修内容について、積極的に発表できる。	

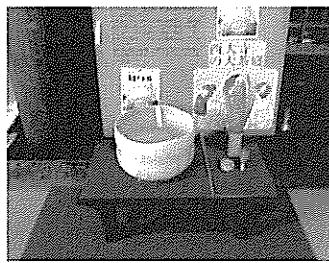
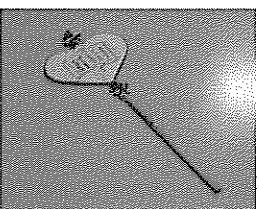
主な学習活動	学習への支援	評価	備考
2. 資料集 P54 の資料を見て、どのような人が話を聞きに来ているかを知り、鎌倉時代の新仏教の特徴を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・仏教が民衆や武士の間に広まっていたことに気づかせ、平安時代との違いを理解させる。 ・真言宗と浄土宗を例に挙げ、鎌倉新仏教が民衆や武士の間に広まった理由を考えさせる。 		
※資料集 『つながる歴史』(浜島書店)			
3. 鎌倉時代の新仏教についてまとめる。			
4. 資料集 P61 の東大寺南大門と金剛力士像の資料から鎌倉時代の文化の特徴について考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の世界遺産学習で出てきた重源を思い出し、なぜこの時代に東大寺南大門が造られ、今でも残っているのか、考えさせる。 	[重源] 醍醐寺で真言を学び、俊乗坊重源と名乗る。宋に三度渡ったといわれるが、確証はない。1181年に東大寺勧進職に任命され、諸国を巡って東大寺再建事業を社会運動として展開した。約20年間という短期間に東大寺の再建がなされたのは、彼の働きによるところが大きい。	
5. 鎌倉時代の文化についてまとめる。			
6. 次回の予告をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・次回、鎌倉時代の奈良で活躍した僧侶について授業を行うことを告げ、本やインターネットで調べてくるように指示する。 	[東大寺南大門] 	

○鎌倉時代に尽力した奈良の僧について知る。（1時間）

主な学習活動	学習への支援	評価	備考
1. 前回の授業で行った鎌倉時代の仏教の特徴を振り返る。		◇これまでに学習した内容を理解し、活用できる。	
2. 平安時代・鎌倉時代の奈良の状況について知り、理解を深める。 ・平城京の大部分は水田になった。	<ul style="list-style-type: none"> ・奈良時代とは違い、寺院が中心となっていた町であることを理解させる。 		

主な学習活動	学習への支援	評価	備考
<p>・外京の部分が寺院を中心とした都市となった。</p> <p>2. 鎌倉時代に活躍した僧侶について調べたことをお互いに出し合う。(重源、覚盛、叡尊、忍性など)</p>	<ul style="list-style-type: none"> メモをとりながら、説明を聞くように指導する。 自分で調べてきたことをもとに、グループで話し合わせ、まとめさせる。 グループごとに簡単な発表をさせる。 メモをとりながら、説明を聞くように指導する。 	<p>◇自分が理解したことや調べた内容を整理し、まとめることができる。</p>	<p>忍性は叡尊の弟子です。北山十八間戸は、彼が造ったハンセン病の人たちの福祉施設だと言われています。</p> <p>叡尊は鎌倉時代に西大寺を復興させた僧です。弟子の忍性とともにハンセン病で苦しんでいる人々の救済につとめたり、各地で架橋などの事業をしました。</p> <p>覚盛は、唐招提寺で律宗の復興に努めました。「鑑真の再来」とも言われるほど、すごいお坊さんです。</p> <p>鎌倉時代の奈良のお坊さんは、寺や戒律を復興したり、橋をつくったりして、人々を救おうという気持ちがとても強い。</p> <p>鎌倉時代にあまり奈良の人は関係ないと思っていたけど、すごい人がいた。</p>

○鎌倉時代の仏教の特徴について考える。(1時間)

主な学習活動	[大茶盛]	[うちわまき]
<p>1. 前回の学習から鎌倉時代で活躍した僧侶について振り返る。</p> <p>2. 叡尊・覚盛についてくわしく知る。</p>	<p>西大寺で行われる「大茶盛」は、1239年から始まったと言われています。叡尊の「和合」の精神が生きています。</p> 	<p>唐招提寺で毎年5月に行われる「うちわまき」は、覚盛が亡くなったときに、法華寺の尼僧がハート型のうちわを供えたことから始まった行事です。</p> 

主な学習活動	学習への支援	評価	備考
3. 各グループで、鎌倉時代に活躍した僧から鎌倉時代の仏教について分かったこと、考えたことをまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで話し合った内容と関連付けて、メモをさせる。 ・鎌倉時代の奈良で活躍した僧侶の考え方や功績を振り返り、その思いについて考えさせる。 <p>きびしい修行をして、人のために頑張っている姿を見習いたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◇グループごとに話し合い、発表することができる。 ◇自分の考えをもち、積極的に話し合いに参加している。 <p>人のために尽くせる人って、素敵だな。</p>	
4. 鎌倉時代に活躍した僧についてまとめる。		<ul style="list-style-type: none"> ◇今までの学習内容を理解し、それを活用できる。 	

[生徒の感想]

今回の学習を通じて、仏教とは、その教えが簡単でも難しくても、感謝の心を教えてくれるものだから、奈良がお寺を中心に発展した町だというのは、とても誇りあるものだと思いました。そして、「今を生きる私たち」は、これからも、奈良のすばらしいものを守り、伝えていかなければいけないと思いました。悟りは開けなくても、昔、今の奈良を形作ってくれたお坊さんがいたことを自分にできる精一杯の範囲で伝えていきたいと思います。

4. 成果と今後の課題

今回、小学校高学年・中学校1年時の郷土「なら」科（総合的な学習の時間）の中で、奈良の世界遺産と自分の住む地域の遺産を学習しているつながりから、社会科の歴史的分野において平安時代・鎌倉時代の奈良を取り上げた。特に、身近な地域を調べる活動を通して、西大寺や唐招提寺などがこの時代に復興し、現在に至ることを知り、受け継がれてきた伝統や文化への関心が高まった。さらに、自分たちの住む奈良が、日本の中心であった奈良時代からの変遷も理解し、自分を犠牲にしてまでも人のために尽くした叡尊や覚盛などの思いに触れることで、郷土への愛着が強くなったりと感じられた。また、奈良の仏教を学習することで、鎌倉時代の新しい仏教への理解も深まり、文化の学習とも関連付けることができた。

課題としては、より理解を深めるために、フィールドワークの実施、調べ学習の充実など、生徒主体の学習活動を考え、時間をかけて実施していくことがある。今後は、小学校も含めた、郷土「なら」科との連携をさらに密にして学習内容や活動を検討し、さらに充実したプログラムにする必要がある。また、生徒たちがより深く郷土である奈良を知り、郷土に誇りをもつとともに、その事象に対して広い視野をもって、考えることのできる思考力と、他者の意見をしっかりと取り入れることのできるコミュニケーション能力を育む取組にしていきたい。

さらに、社会科の歴史的分野の学習において、それぞれの時代で地元奈良の特徴的なことを取り入れて進めていける機会を設けて行く予定である。

学校で守る！世界遺産が残した絶滅寸前種ニッポンバラタナゴ

— 柳生中学校の取組 —

近畿大学農学部 講師 北川 忠生 修士課程1年 池田 昌史 4年生 川上 拓人

柳生中学校 教頭 奥西 智恵子 教諭 田中 克彦

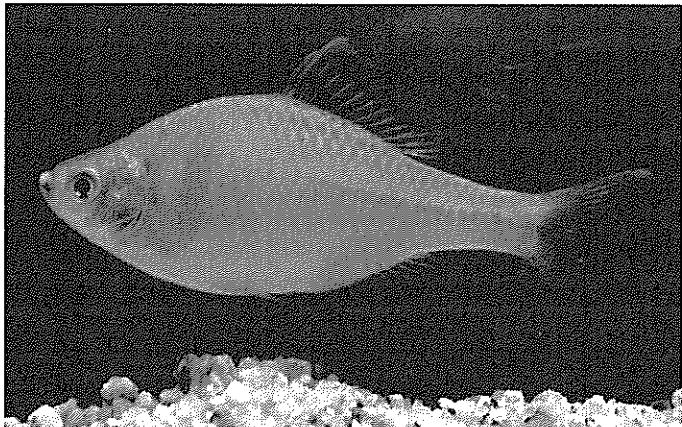
1. はじめに

奈良県ではすでに絶滅したと考えられていたコイ科の希少淡水魚「ニッポンバラタナゴ」が、2005年に世界遺産である奈良公園の中の1つの池で生息していることが確認された。

奈良盆地では、ため池の環境が人工護岸化や管理放棄、外来生物の侵入によって悪化し、ニッポンバラタナゴが絶滅に向かっているが、自然と調和した伝統的な日本の環境をもつ奈良公園地域という世界遺産が、この貴重な生き物を現代まで守ってくれていたといえる。

現在、奈良県と近畿大学が協力してこのニッポンバラタナゴの生息地を守る活動を行っている。これと並行して、2009年より、奈良市教育委員会と近畿大学が協力して、奈良市内の小中学校の池で、子供達と共にニッポンバラタナゴを守り育てる「里親プロジェクト」を展開している。里親校では、近畿大学の教員、学生が池の環境整備の手伝いや定期的な観察会や出前講義を行っており、地域の学校や子供達とのつながりを造りながら、一緒に地域の自然を守る取組をおこなっている。

柳生中学校は第4番目の里親校で、2011年の3月より敷地内の生態園の池での飼育を取り組んでいる。本発表では、里親プロジェクトの概要と、実際の取組事例について発表する。



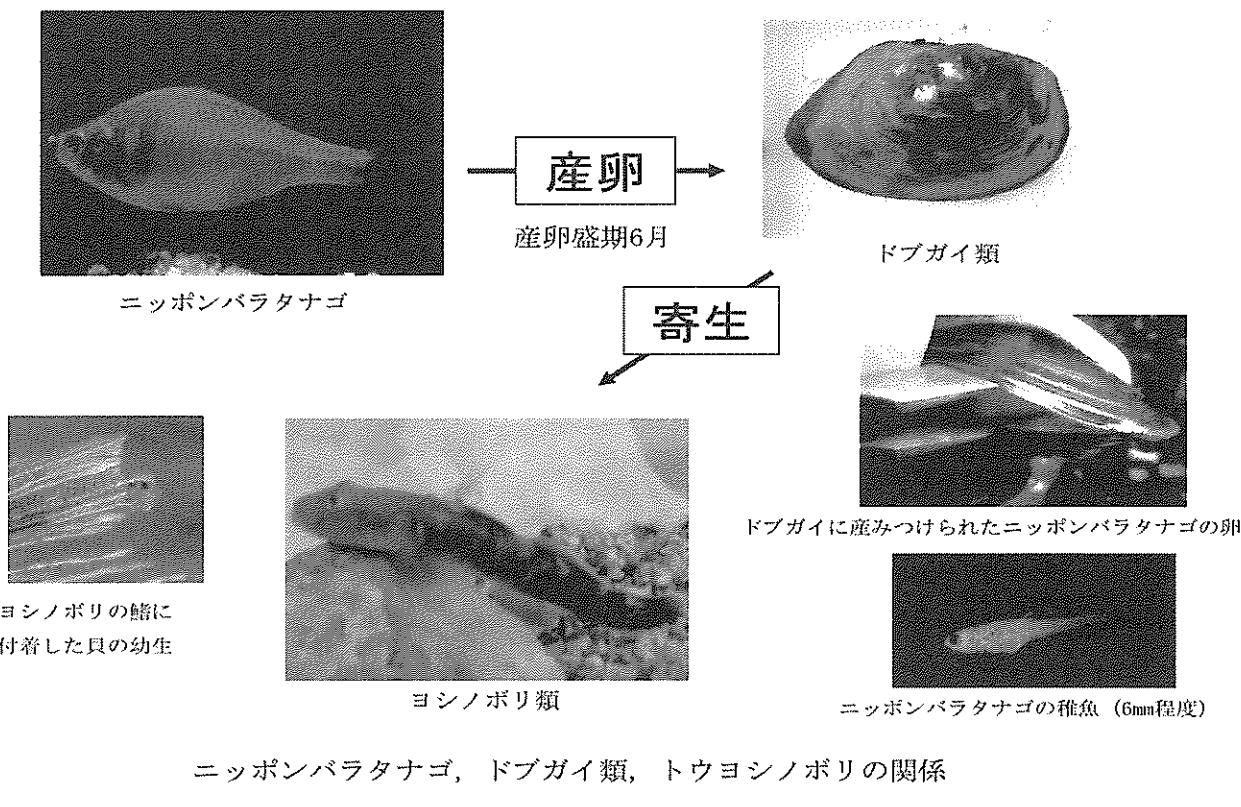
ニッポンバラタナゴ（近畿大学提供）

2. ニッポンバラタナゴについて

ニッポンバラタナゴのオスは、5月から6月頃の繁殖期をむかえると、全身に鮮やかな婚姻色を呈する。この時、全体に薔薇のような赤色を帯びることから、バラタナゴと呼ばれるようになった。この時期のメスは、お尻から産卵管と呼ばれる産卵用の管をのばす。ニッポンバラタナゴのメスは、この産卵管を使って淡水産2枚貝の仲間であるドブガイ類の中に産卵する。産卵の瞬間にオスも精子をドブガイの中に取り込ませて貝の中で受精させる。受精卵は3週間程度貝の中ですごした後、稚魚として貝の体内から浮出する。ニッポンバラタナゴが繁殖するためには、ドブガイが必要なのである。このドブガイもまた、淡水産ハゼ類のヨシノボリの仲間に、幼生を寄生させる必要がある。ドブガイもまたヨシノボリが必要なのである。

ニッポンバラタナゴが生息するためには、ドブガイ、ヨシノボリが共存していなければならない。それぞれの生物は、異なる餌を好む。（ニッポンバラタナゴは付着藻類、ドブガイは浮遊藻類、ヨシノボリは水生動物）。ニッポンバラタナゴを守るために、生態系を丸ごと守る必要があるのである。

里親プロジェクトでは、ニッポンバラタナゴとその他の生き物とのつながりについて実際に観察を行い、「生態系」と「生物多様性」についても学んでいる。



3. ねらい

ニッポンバラタナゴ里親プロジェクトのねらいは、次のとおりである。

- ・絶滅の危機に瀕している奈良のニッポンバラタナゴを自分たちの手で守る活動を通じて、地域の自然や文化の大切さを知る。
- ・ニッポンバラタナゴの生態を観察し、生き物同士の繋がりの大切さを学ぶ。
- ・ニッポンバラタナゴの飼育をとおして、ヒトの生活と自然とのかかわり合いについて考える。
- ・環境を学ぶ大学生に、環境教育の指導者としての体験の場を提供する。

4. 学習活動の概要

取組の経緯

(1) 柳生中学校の現状

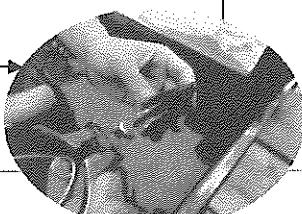
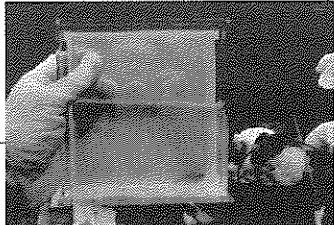
本校は奈良市東部地域の自然に恵まれた環境に位置しているが、生徒の自然離れは著しく、昆虫や小動物を忌避する生徒も多い。地域性をいかした理科学習を進めていくために平成22年度『小・中学校での生態園づくり』(国際花とみどりの博覧会協会・毎日新聞社共催事業)に応募し、学校校地である旧水田跡を有効活用した生態園池を作った。

生徒が自然に親しむだけでなく、観察や手入れ等を通じて生物の繋がりや命を考える機会と考え、近畿大学農学部環境管理学科水圈生態学研究室の進めている「ニッポンバラタナゴの里親プロジェクト」に参加することを決めた。

(2) 生態園の活用

平成22年11月～12月 生態園造成

主な学習活動	学習への支援	評価	備考
11月17日 ○池の用地調査 12月15日 ～20日 ○観察池作り	<ul style="list-style-type: none"> ・池の造成についてアドバイス ・地域の協力 		近畿大学 水圏生態 学研究室
3月1日 講義と放流式（全1時間） ○講義 「ニッポンバラタナゴの里親 プロジェクトについて」 ・絶滅危惧種の系統保存 ○放流式 ・ニッポンバラタナゴとドブ貝の 放流 ・里親認定式		 ワークシート	講師：北川忠生氏 (近畿大学農学部 環境管理学科水圏 生態学研究室) 奈良県自然環境課 世界遺産副読本
4月18/19日 事前学習（全2時間） ・ヨシノボリの特性について ・ヨシノボリとドブ貝の共生 ・生物指標による水質検査 ・安全への注意事項 4月26日 ヨシノボリ捕獲（全2時間） ○事前説明（10分） ○実習（50分） ・水温、流速の測定 ・ヨシノボリの捕獲 ・生物指標による水質検査のための 水生昆虫等の採取 ・ヨシノボリ以外の魚類の捕獲 ・捕獲、採取した生物の同定 ○生態園池にヨシノボリ放流 (10分) ○実習のまとめ（20分） ・調査結果集計用紙の記入	資料提示 <ul style="list-style-type: none"> ・水生生物による 水質調査 ・野外観察の注意 	 大学生の援助 生物図鑑、資料	世界遺産副読本 教科書巻末資料 近畿大学水圏生態学 研究室 奈良県自然環境課 実習河川…打滝川 (淀川水系木津川支 流) ・事前に奈良県庁へ 特別採捕許可申請 ヨシノボリ
6月21日 生態園観察（全2時間） ○大学生によるプレゼンテーション（30分） ・ニッポンバラタナゴを守る取組 ・外来種のブラックバス問題			近畿大学 水圏生態学研究室 ・大学での研究内容

○講義（20分） ・ニッポンバラタナゴ観察について		授業アンケート 	講師：北川忠生氏
○生態園池の観察（1時間） ・ニッポンバラタナゴの確認 ・ドブ貝への産卵確認 ・生態園池のいろいろな生物観察	大学生の援助 		
8月2日 ○生態園観察（1時間） ・ニッポンバラタナゴ、ヨシノボリ ドブ貝の確認 ・生態園池の生物について	大学生の援助 		
11月22日 ○生態園池の整備 ・池の水抜き ・繁殖確認 ・池底のヘドロ除去 ・池底の改修	地域の協力 大学生の援助 	←ニッポン バラタナゴ	近畿大学 水圈生態学研究室 ・水抜き 事前に水深 30 cm位 まで行う

5. 成果と課題

【近畿大学】

現在、奈良市内の5つの小中学校が里親活動に取り組んでいる。中には、すでに安定的なニッポンバラタナゴの繁殖に成功している学校もあり、里親プロジェクトが重要な系統保存の役割を果たしつつある。大学では、里親校での観察会や出前講義の後に、子供達へのアンケートを実施しその効果の検証を行っているが、ニッポンバラタナゴのユニークな生態の観察を通じて、生き物同士のつながりについての子供たちの理解が深まっていると考えられる。子供たちの自然に関する関心が高まり、他の生き物や自然環境に関する情報にも興味をもつようになっていると考えられる。この活動に参加している大学生も、現場での子供達の反応やアンケートに現れている意識変化に、大きなやりがいを感じている。

今後、いかにこの取組を広げ、継続していくかが重要な課題といえる。

【柳生中学校】

里親プロジェクトを通して大学の先生の講義を受け、大学生と交流することは、生徒にとって新鮮であると同時に本校の進める「本物にふれる体験」となっている。活動の様子は学校便り等を通じて地域や小学校にも発信しているが、今後、共に活動する取組につなげていきたい。

ニッポンバラタナゴの繁殖については、池の環境条件（水温や水質、池の様態等）の調査などまだ課題がある。こうした環境条件の継続調査や環境整備を通して地域環境の保全について考えるとともに、地域を誇り地域を愛する子どもたちを育成していきたい。

高校
高校 4 学科と大学が連携した薬師寺プロジェクト

古都奈良の文化・伝統を調査・翻訳し、サイエンスの力で世界に発信

奈良市立一条高等学校 教諭 犬伏 雅士

1. はじめに

歴史の町「奈良」の文化や伝統を学習し、文化遺産や自然遺産を尊重する態度を育成するプロジェクトとして、標記の薬師寺プロジェクトを実践した。本校の 4 学科（普通科・外国語科・人文科学科・数理科学科）と大阪大学の産業科学研究所、奈良教育大学の理数教育研究センターが連携して、薬師寺の「寺子屋」で本プロジェクトを行った。（図 1）



図 1 薬師寺の「寺子屋」で、小・中学生に「LED展示物解説装置」を紹介している様子

平成 16 年（2004 年）から、大阪大学の産業科学研究所小林研究室と連携して、文部科学省・独立行政法人科学技術振興機構（JST）が推進する「サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト（SPP）」を 8 年間継続して実施している。その研究成果として、オリジナルの「可視光通信装置」を開発し、本プロジェクトの中核に使用した。¹⁾

平成 18 年（2006 年）より、奈良教育大学と連携して、「先導理数」、「融合理数」、「新理数」などの教育プロジェクトを継続実施し、「可視光通信装置」を小学校や中学校の理数教育にも応用できるよう同大学の大学生・大学院生とともに、実践研究を進めてきた。

今年（2011 年）この「可視光通信装置」実用化して、「LED展示物解説装置」（LED から発する光の中に展示物の説明を入れ音声でその内容を聞ける装置）を製作した。この装置を使って、「寺子屋」で薬師寺の展示物の解説を行うプロジェクトを実践し、本年度の世界遺産学習の第一歩とした。

高校の 4 学科が力を合わせ、古都奈良の文化遺産や自然遺産を調査し、これを外国語に翻訳し、その内容を、（近隣の大学と連携して）サイエンスの力「LED展示物解説装置」で、世界に発信した日本初の試みである。

2. ねらい

- ①文化財を守り、受け継いできた人々の営みや伝統を、本物に触れながら学ぶ。
- ②文系と理系の双方向の視点から、本校4学科の生徒や教員が協力し学校全体のプロジェクトとする。(本校初の4学科協働)²⁾
- ③「寺子屋」で学ぶ小学生や中学生の世界遺産学習をサポートし、さらに一般参拝者へもこの取組を展開する。
- ④調査した内容を翻訳して、薬師寺を訪れる外国人にも伝え、奈良の文化遺産や自然遺産を世界の人々にも紹介する。

3. 学習活動の概要

- ①大阪大学の産業科学研究所と、S P Pで「C R E S Tを高校理数教育に展開」を実践し、高校生に電子デバイスについての講演や実験を行った。¹⁾

C R E S T : C o r e R e s e a r c h f o r E v o l u t i o n a l S c i e n c e a n d T e c h n o l o g y

国の科学技術政策や社会的・経済的ニーズを踏まえ、国が定めた戦略目標の達成に向けた目的志向型の基礎研究として推進されている「戦略的創造推進事業（C R E S T）」は、新技術の創製に資する知的財産の形成を目的に文部科学省が設定し、J S Tが研究推進しています。

- ②S P Pの実践から得られた知見より、高校生にも「L E D展示物解説装置」（図2）を製作できることが分かった。

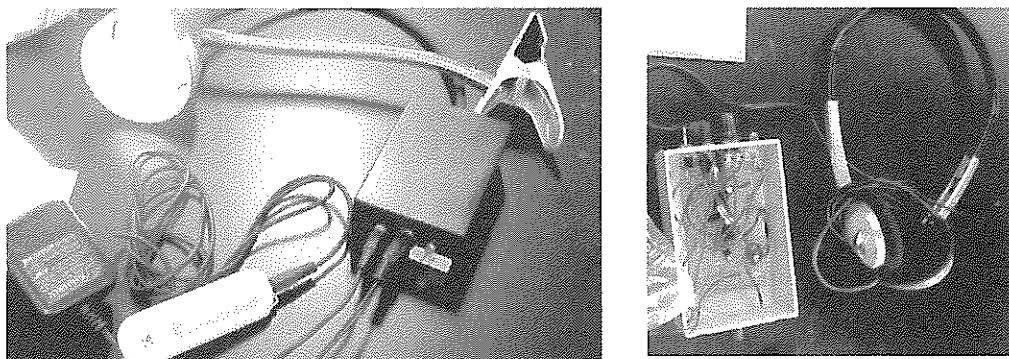


図2 可視光通信装置の実物（左：送信装置・右：受信装置の回路及びヘッドホーン）

- ③一昨年、昨年の2年間、大学生・大学院生が指導して教理科学科2年生に「L E D展示物解説装置」を製作させた。（図3）

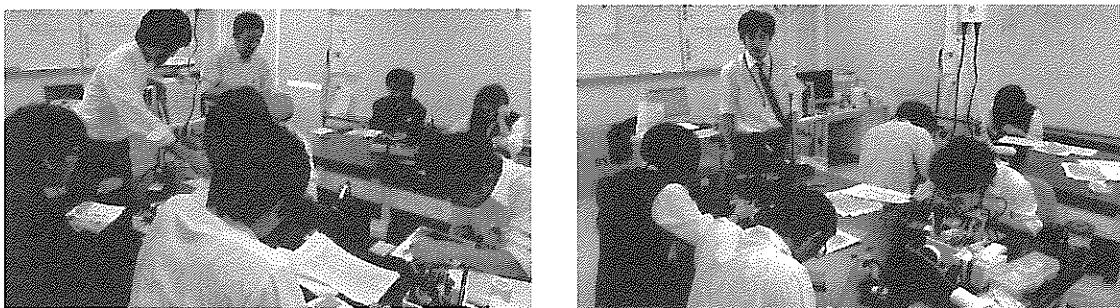


図3 大学生や大学院生に指導を受けて、装置の製作をする一昨年（左）、昨年（右）の生徒

④人文科学科の生徒に「涅槃図」と樹齢 2500 年の「切株」（白鳳伽藍再建材）について、調べ学習をさせ、その対象物の「1 分間説明（日本語）」を録音する。（図 4）

⑤外国語科の生徒に、先の「1 分間説明（日本語版）」を英語に翻訳させ、「1 分間説明（英語版）」を録音する。（図 5）



図 4 人文科学科の生徒が「涅槃図」と「切株」の調べ学習

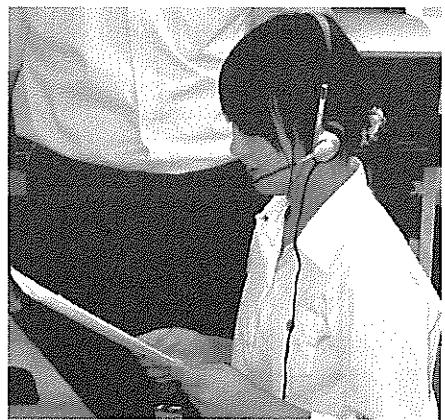


図 5 外国語科の生徒が英語で録音

⑥「日本語版」と「英語版」のそれぞれの内容を 2 台の「可視光通信装置」の送信機から送信し、受信機で選択的に、それぞれ（日本語版と英語版）の内容が聞けるようにする。（展示物説明装置の完成）（図 6）

⑦大学生・大学院生と普通科の生徒が当日の案内役を務めた。（図 1）

涅槃図
Nehan-zu

涅槃図とは、お釈迦様がお亡くなりになった場面を描いた絵のことです。
Nehan-zu is a picture which depicts the death of Buddha.

この絵には、多くの神々や動物・人間などが嘆き悲しんでいます。
In the picture, people, animals, and also gods and goddesses are grieving.

お釈迦様は多くの修行をしたのちにインドのブッダガヤで悟りを開き、人々に苦しみから逃れる方法を説いて回りました。

After going through long and hard training, Buddha was spiritually awaked at Buddha-gaya in India. He taught many people how to escape their suffering.

お釈迦様を慕う人々がその死を嘆き悲しんでいます。
In this picture, the many people who loved Buddha are grieving over his death.

図 6 音声案内に収録した内容「涅槃図」（日本語と英語）

3 まとめ

本校での初の 4 学科の「協働学習の実践」である。製作をした数理科学科の生徒の感想は、次の 2 項目ともに 100 % だった。人文科学科と外国語科、普通科の生徒にも（2）についての調査を行った結果、参加した生徒全員が同様に大変興味をもったと回答した。

(1) 有意義な体験（実験と協働作業）をした。

(2) 大変興味をもった。

歴史の町「奈良」で、「文化・伝統（人文科学科）」を紐解き、「翻訳・アナウンス（外国語科）」して、「科学技術（数理科学科）」を用いて「協働（普通科・大学）」で世界に発信する。³⁾

4. 成果と課題

①高校生や大学生・大学院生から、小学生や中学生が学び、彼らが成長して次世代を育成する。持続発展教育（E S D）から、教育活動の世代循環へ発展することが可能である。

②「寺子屋」で学ぶ小学生や中学生の興味・関心を、文系と理系のそれぞれの視点から双方向に喚起でき、教科横断型の学習意欲を増進させることができた。（図7）

③高校生に本装置の製作を指導した奈良教育大学の大学生・大学院生が、平成21年度日本理科教育学会近畿支部大会（大阪大会）の発表において、学会賞を受賞するなど将来に教員を目指す学生のスキルアップになった。^{4), 5), 6), 7)}

④薬師寺を訪れた外国人から、装置の技術力の高さや翻訳内容・生徒の発音などを絶賛いただいたことは生徒の大きな励みとなった。（図8）

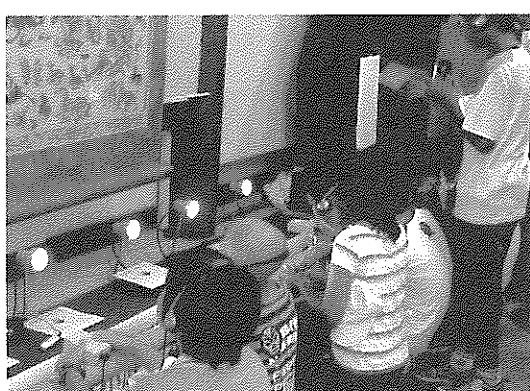


図7 小学生は興味津々

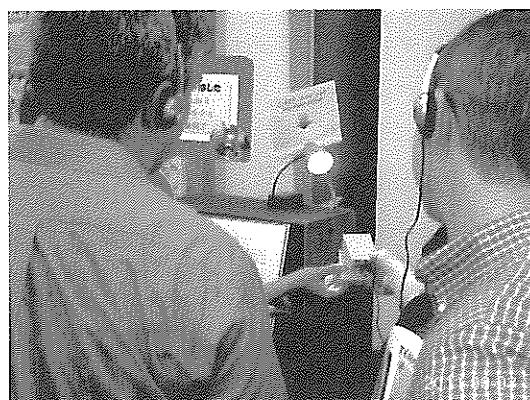


図8 外国人も絶賛

⑤今後の課題としては、装置の開発と製作に合計数十万円の費用が必要であるため、装置自体をシンプルにして安価につくれる方法を目指す。

参考資料及び文献

- 1 S P P 報告書（2004～2010年）
- 2 読売新聞、産経新聞、毎日新聞、奈良新聞（平成23年8月4日付け朝刊）
- 3 每日新聞（平成23年9月3日付け朝刊）
- 4 犬伏雅士・松山豊樹「情報伝送装置による指導法」平成21年度日本理科教育学会近畿支部大会（大阪大会）発表論文集49、2009
- 5 大久保和則・山中康彰・犬伏雅士「情報伝送装置の製作」平成21年度日本理科教育学会近畿支部大会（大阪大会）発表論文集63、2009
- 6 犬伏雅士・松山豊樹 「可視光通信装置による高校4学科と大学連携プロジェクト」平成23年度日本理科教育学会第61回全国大会（島根大会）全国大会発表論文集第9号360、2011
- 7 藤浪謙・大久保和則・河原真菜・古川仁美・犬伏雅士「可視光通信装置の製作指導」平成23年度日本理科教育学会第61回全国大会（島根大会）全国大会発表論文集第9号443、2011

世界遺産等を有する自治体教育委員会訪問及び現地調査

奈良市教育委員会学校教育課
教育推進係

係長 東畠年昭
指導主事 坂本靜泰

平成24年1月25日（水）～平成24年1月26日（木）

鎌倉市現地調査

○鎌倉市について

源頼朝が開いた武家政権発祥の地を「武家の古都・鎌倉」として世界遺産への登録をめざしている。市内の寺社仏閣など24か所にわたる国の史跡を中心として世界遺産候補地としている。

現在、正式な世界遺産候補推薦書のユネスコ提出が決まり、ユネスコ世界遺産センターに提出される。その後、現地調査などが行われ来年の夏頃に登録の可否が審査されるようである。



○建長寺

鎌倉五山第一位の建長寺を象徴する語である「天下禪林」（人材を広く天下に求め育成する禪）を西の外門に掲げる我が国最古の禪宗寺院である。また、南宋文化の影響を受けて建立された、日本最古の禪宗専門道場である。



○鶴岡八幡宮

源頼朝が由比郷に祀った由比若宮に始まり、頼朝が鎌倉に入ると現在地に移し、石清水八幡宮を勧請して、源氏の氏神として崇めた。鎌倉の象徴的かつ精神的な中心でもあり、官位の授与などの政治的儀式や流鏑馬神事などの宗教的な儀式が行われた。



○高徳院（鎌倉大仏）

武家政権と東国民衆の守護仏で、独自かつ高度な技法で鋳造された鎌倉彫刻の最高水準を持ち、国宝となっています。発掘調査によって大仏鋳造の方法や大仏殿の規模が確認されている。



○長谷寺（長谷観音）

鎌倉で有数の古刹で、開基は藤原鎌足の孫にあたる藤原房前。本尊の十一面観音菩薩は、一本の楠の靈木から作られた二体の観音像のうちの一つとされている。（残る一体は奈良県桜井市の長谷寺の本尊となる。）

開眼供養の導師をつとめた行基により衆生済度の願が込められ海中に投じられ、流れ着いた尊像が鎌倉に遷座され、長谷寺創建の礎となったということである。

鎌倉市教育委員会訪問



応対者：教育総務部 杉並指導主事、同教育センター 磯部指導主事

○奈良市の世界遺産学習や世界遺産学習全国サミットについて資料を提示しての説明。

○現在、鎌倉市は市内の中学生（国公立市立）を対象に、世界遺産に関する作文コンクールを実施している。鎌倉についての学習は、系統立てたものがない。「鎌倉調べ」として総合的な学習の時間で実施している。各学校が市内や校区内の文化遺産を題材に取り組んでいる。学校独自のねらいがあるので取組の内容は学校の判断である。

○毎日、文化遺産にふれているので、学習して初めて知ることが多いという現実である。2010年度に、奈良市教育委員会から世界遺産学習全国サミットの絵画展への出品依頼があったが、作品をしぶることができずに辞退させていただいた経緯もあったとのことである。サミットや連絡協議会についての質問があった。

○今後は、世界遺産登録の機会をきっかけに系統的な地域学習を構築していくべき語っておられた。

品川区教育委員会（品川区立鈴ヶ森中学校にて）

応対者：品川区教育委員会担当者

○品川区と奈良市は小中一貫教育という共通の教育課題に挑んでおり、共に小中一貫教育全国連絡協議会に属し、小中一貫教育の手法を通して、学年段階に系統性、関連性をもたせ、実効性のある教育を展開している。

○お互いの特色ある教育内容として

奈良市は世界遺産学習を通して、奈良の素晴らしさを伝承するとともに国内外に発信し、互いに理解し合い、高めあうことのできる人材育成をめざす「奈良らしい教育」の推進をしている。その内容と品川区が進める「自己存在感を高める実践活動-市民科-」内の「文化創造」領域における「文化活動」で地域に学ぶことがらとの融合を図る場面を創造することを今回の訪問の目的とした。

○奈良市の世界遺産学習や世界遺産学習全国サミットについて資料を提示しての説明をした。品川区からは「自己存在感を高める実践活動」としてお話をさせていただいた。市民科では、文化活動能力を「企画、表現能力」さらに「自己修養能力」に発展させている。奈良市の世界遺産や地域遺産を基にした学習を参考に品川区の市民科と奈良市の世界遺産学習がともに発展するような内容の話し合いであった。

世界遺産等を有する自治体教育委員会訪問及び現地調査

奈良市教育委員会学校教育課

課長補佐 石原伸浩

指導主事 中川克則

10月20日（木）

日光市教育委員会訪問

応対者：生涯学習課 課長補佐兼文化係長 鈴木泰浩

同 生涯学習係主幹兼社会教育主事 白石光人

○奈良市教育ビジョンのように、市の教育方針の中に世界遺産の学習は位置づけていない。そのため、学校によっては取り組んでいるところもあるが、内容については各学校に任せている。2006年に旧日光市と旧今市市ほか3町村が市町村合併により、日光市となつたため、市教育委員会としても世界遺産学習について共通理解できていない状況である。また、学習を進めるにあたっての受け皿としての組織もない。

○旧日光市では、加除式の副読本『わくわく！日光の社寺たんけん』（HP からダウンロード可）を各学校に備え付けており、毎年、加筆してページ数を増やしている。旧日光市の小学校においては、副読本を活用した学習に取り組んでいるので、市町村合併前なら、日光市として連絡協議会に加入できたが、他の地域では取り組んでいない状況なので、今の日光市として加入することは難しい。

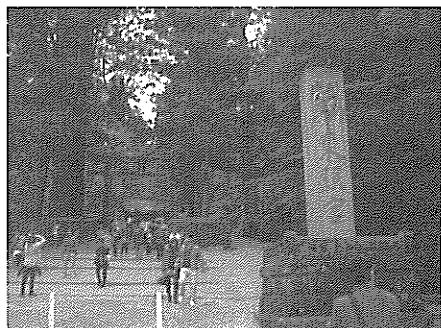
○旧今市市では二宮尊徳、旧日光市では世界遺産や杉並木、旧足尾町では足尾銅山を教材化して各学校で取り組んでおり、今の日光市として1つの核になるものがない。

※日光小学校は、世界遺産を校区に持っている学校なので、教育活動の中に世界遺産を取り入れた学習をしている。日光市として連絡協議会に加入するのは現段階では難しいが、日光小学校の取組を全国サミットの分科会で発表することは可能のようである。

世界遺産『日光の社寺』観察

1999年、世界遺産に登録された「日光の社寺」の内容は、日光山内にある二荒山神社、東照宮、輪王寺の103棟（国宝9棟、重要文化財94棟）の「建造物群」と、これらの建造物群を取り巻く「遺跡（文化的景観）」である。2社1寺の建造物群を含む登録遺産の面積は50.8ヘクタールで、それを取り囲む緩衝地帯の面積は373.2ヘクタールと十分な緩衝地帯を設定することによって、自然環境及び文化的景観を保全している。

建造物群の周辺に駐車場が配置されているので、登録遺産中心部への自動車の進入を防ぎ、自然環境の保全を図っている。また、周辺の商店街も建造物群との距離を空けているため、文化的景観を保全している。



JRと東武（私鉄）日光駅から、世界遺産めぐりバスが運行されており、車内の停留所表示板には英語、中国語、ハングル語が順次表示され、外国からの観光客も数名乗車していた。世界遺産に登録されたことによって国内ばかりでなく、外国からの観光客も増え、様々な言語に対応できるようにしていた。

10月21日（金）

藤岡市教育委員会訪問

応対者：教育長 針谷章

学校教育課 指導係長 斎藤俊明

同 指導主事 佐藤淳

○市内にある高山社跡（世界遺産候補の関連資産）を活用した学習を始めたばかりである。また、養蚕も含めた学習活動を、総合学習だけでなく他の領域において取り組むようにしている。

藤岡市立美九里西小学校訪問

応対者：教頭 春山秀幸

○校区内にある高山社（高山長五郎が設立した養蚕教育機関）を教材化し、地域への愛着や誇りを高める取組をしている。4年生の社会科・総合学習の時間を中心に学習活動を開催している。

校区内にある養蚕農家を見学、聞き取りをした後、蚕（5齢）をおみやげにもらった。教室前の廊下で、蚕の飼育を日常的に行うことで、蚕の一生を子どもたちも自然な形で知ることができ、カイコの観察日誌も当番制で記録した。休みの日には数人の子たちにカイコを持って帰ってもらい、家で飼育してもらった。すると、おじいちゃんやおばあちゃんがなつかしと言いながら、昔にカイコを飼っていた話をしてくれたり、はじめは気持ち悪がっていた母親も愛着がわくようになったり、家庭と連携しながら飼育している。また、カイコの餌となる桑の葉は、協力して頂いている農家の桑畠からもらっている。このように、保護者や地域と連携しながら、カイコの飼育に取り組んでいる。

180のマユができ、その中からいくつかのマユを選んで羽化させ、成虫の観察も行った。子どもたちは、成虫も手に乗せるなどして愛情を持って育てていた。交尾や産卵する様子も観察でき、世代交代するまでの過程を観察できた。これを2サイクル続けたが、徐々にマユの大きさが小さくなり、3回マユをとったところで終了した。マユの中のサナギを殺すのは、自然乾燥させる方法と強制乾燥させる方法がある。かわいそうという声もあるが、たくさん生まれてくるから、全てを羽化させられないことと、飼っ



ていたカイコの一部ではあるが成虫になるまで飼育できしたこと、子どもたちの意識も成虫に向いていたことなどもあって、特に指導上で困ったことはなかった。繭玉はクラフトを作るときに、死んだサナギが出てくるが、事前に子どもたちに「サナギが出てくるよ」「ゴミ箱にするんだよ」と言っておいたので、子どもたちも特に意識することなくクラフトづくりをしていた。

マユから生糸をとることも検討しているが、マユクラフトとして、地元の染色家と協力してマユに色を付けてもらっている。そして、色を付けてもらった物を地域の方に協力してもらって花びらの形に切っておいてもらい、親子でコサージュつくりづくりをした。これを、6年生にプレゼントして卒業式に使ってもらった。

※藤岡市は教育長の特命により、『高山社』の教材化を進めているが、美九里西小は地元の養蚕農家や保護者の協力、そして、富岡製糸場とも関連づけながら学習を進めていた。児童が地域を誇りに思えるようにと考えて取り組まれた学習は、本市が進めている世界遺産学習の目的と合致すると共に、地域遺産を活用している部分など、学ぶ点が多い。

絹の生産には、必ずカイコの命を絶たなければいけないが、この部分を児童にどのような形で伝えるかが課題である。しかし、この取組は、藤岡市が連絡協議会に加盟しなくても、ぜひ分科会発表で広く知ってもらいたい実践だと感じた。

『高山社跡』視察

応対者：藤岡市文化財保護課 課長補佐兼文化財保護係長 寺内敏郎

○平成21年に国指定史跡に指定され、富岡製糸場を核とする養蚕遺構群として世界委員会登録へ向けて保存・整備を行っている。

高山社跡は、高山長五郎が設立した養蚕教育機関「高山社」の発祥の地である。高山家は中世からの旧家で、長五郎は1830年に生まれ、明治の始め頃から養蚕の技術改良に取り組んだ。当時は換気を重視した「清涼育」と蚕室を暖めて飼育する「温暖育」が養蚕の主流だったが、長五郎はこの二つの養蚕方法の長所を取り入れ、蚕の成育状況に合わせて蚕室の温度調整や換気を行う養蚕方法として、「清温育」を完成させた。「清温育」と呼ばれる養蚕飼育法を開発した高山長五郎らは養蚕改良組合を設立し、更に、開発した清温育を広めるために、養蚕伝習所を設立し、多くの人々に新養蚕法を広めた。

※藤岡市内の小学生は、「高山社」の見学を行っている。美九里西小学校のような、養蚕農家と連携した実践は少ないが、教育長が「高山社」の教材化と有効活用を指示しているので、これから他の小学校でも新しい取組が期待できる。



富岡市教育委員会訪問

応対者：学校教育課 学校教育担当 指導主事 石井孝幸

○富岡市は世界遺産暫定リストに掲載されている中心施設、富岡製糸場を持っているが、学校現場では当該資産を活用した具体的な取組はできていない状況である。住民にとっては、「つい最近まで操業していた工場」という意識があり、地域の宝という意識も薄い。学校現場においても教材化を探っている状況である。

『富岡製糸場』 視察

明治3年、横浜のフランス商館勤務のポール・ブリュナが富岡に場所を決定した。その選定理由は、1.富岡付近は養蚕が盛んで、生糸の原料の繭が確保できる。2.工場建設に必要な広い土地が用意できる。3.製糸に必要な水が既存の用水を使って確保できる。4.燃料の石炭が近くの高崎・吉井で採れる。5.外国人指導の工場建設に地元の人たちの同意が得られたからである。

殖産興業を推進させるために国が建てた大規模な建造物が並ぶ工場で、繰糸場（繭から糸をとる作業をしていた場所）は長さ約140.4メートル、幅12.3メートル、高さ12.1メートルで、当時、世界最大規模を誇っていた。繰糸場には300人繰りの繰糸器が置かれ、全国から集まった工女たちの手によって本格的な器械製糸が行われていた。

技術伝習生として15～25歳の若い娘が募集され、彼女たちは新技術習得後、それぞれの地元で指導者として活躍した。

器械製糸の普及と技術者育成という当初の目的が果たされた頃、官営工場の払い下げの主旨により、明治26年に三井家に払い下げされた。その後、片倉製糸紡績株式（現・片倉工業株式会社）が、昭和62年3月まで操業していた。

【所見】

産業遺産として登録を目指しているので、教材化するためには、藤岡市が取り組んでいるように地元の養蚕と関連させたり、県内の桐生市における絹織物などと関連させたりしながら学習計画を立てると広がりのある学習が期待できる。殖産興業の推進のための施設が現存しているので、現地見学を行い、施設案内するガイドさんと連携を図りながら学習を進めると、深まりのある学習ができる。

世界遺産暫定リストに掲載されているが、登録される見通しはたっていない。しかし、操業が始まった明治時代の日本における存在価値は大きいので、世界遺産にならなくても1つの地域遺産として富岡市が教材化することによって、富岡製糸場の学習材料としての価値を上げることになると思う。

世界遺産を有する自治体の教育委員会への働きかけ 世界遺産等を有する自治体教育委員会訪問及び現地調査

学校教育課 課長補佐 亀井 規生
指導主事 西口美佐子

1. 日時 平成23年10月25日（火）～26日（水）

2. 場所 倉敷美観地区、岡山市役所、廿日市市役所、宮島、広島市役所、原爆ドーム

3. 倉敷美観地区

倉敷市美観地区は、江戸時代は天領であり大変栄えた地域であった。現在でも、昔ながらの風景を残した情緒ある景観を保っている。

周りには小物などの土産物店が立ち並ぶが、その多くでは布製品を扱っており、昔、紡績工業が盛んであった様子を彷彿とさせている。中には、絹糸を使用した独自の商品を開発し、特許を取って販売している店もあり、昔からある地域の産業を活用している姿が見られる。

美観地区にあるアイビースクエアは、江戸時代に代官所があった場所に、明治時代22年、倉敷紡績の工場として設立された。昭和48年に改修工事が行われ、観光施設として現在活用されている。平成19年には、経済産業省から「近代化産業遺産」として認定されている。

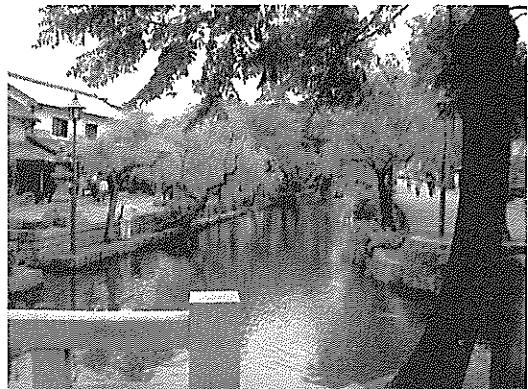
この地域では、江戸時代、明治時代につくられたものが数多く残されており、実物を見て時代を肌で感じながら学習に取り組める環境であるといえる。学校教育での活用の可能性を大いに秘めていると感じた。

4. 岡山市教委員会訪問

- ・指導課課長補佐 平井 秀尚
- ・指導副主査 松岡 和俊 と面会

岡山市教育委員会では、公民館活動からESDの取組が始まり、市も率先してESDに取り組んでいる。しかし、岡山市教育委員会としての取組は、今年始まったばかりで、今後の活動を検討している様子である。

岡山市は、ほとんどの小学校が奈良市に修学旅行に来ているということなので、奈良で取り組む「世界遺産学習」が岡山でも取り組めると考える。また、その学習を終え、改めて自分たち



倉敷美観地区



アイビースクエア



代官所と現在の比較

の住む岡山市のような学習に展開できるとも感じる。

一方、岡山市には、裸祭りで有名な「西大寺」があり、これは、東大寺の修正会の転じたものであるので、奈良に修学旅行に来る前に事前学習をして岡山と奈良のつながりを学習しておくと、岡山市にとってはより効果的であると考える。

世界遺産学習連絡協議会や第2回世界遺産学習全国サミットについても話をしたが、前向きに検討をしてくれているようであった。(後日、全国サミットには、松岡指導副主査が参加)

5. 廿日市教育委員会訪問

- ・教育指導課課長補佐 石角 剛 と面会

廿日市市は、宮島を含む地域であるが、平成17年に宮島町と合併し、その後、他町村とも合併して今日に至った市である。そのため、宮島の学習は、宮島では地域学習として行っているが、廿日市市としての取組はしていないということであった。廿日市市としての宮島を取り上げた学習を考えていきたいと感じられたようだった。

宮島にある小中一貫校では、国際コミュニケーション科、地域伝統科、生活設計科という3科を設け、独自のカリキュラムを作っている。中学3年生で卒業するまでに、宮島に来られた外国人に英語で観光ガイドができるようにするということを目標にしているそうである。また、昨年度は、研究大会を行い、田渕五十生教授が指導に来られたそうである。

合併した市町村では、行政が合併しても、学校教育の中ではまだ自分たちの地域としての認識が薄いように感じる。厳島神社、宮島というすばらしい地域教材があるのでぜひ廿日市市として取り組み、本市が進める世界遺産学習にも参加をお願いした。

6. 世界遺産 宮島・厳島神社

宮島にある厳島神社は、1996年にユネスコの世界文化遺産に登録されている。

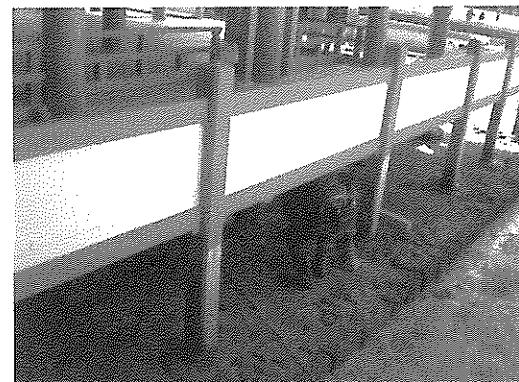
海の中に浮かぶ鳥居の赤は美しく、世界遺産・厳島神社の代表的な景観であるといえる。この鳥居も、また海に浮かぶ厳島神社も、そのままで残ってきたわけではない。むしろ、海の上に建つがゆえに、修復などが欠かせないといえる。

現に、私たちが訪れた時も、海に立つ柱の修復作業が行われていた。また、鳥居の柱についても、定期的に点検され、取り換えられている。このような人々の努力の上に、美しい宮島・厳島神社があるということを知ることが大切である。

歴史的には、平安末期に平氏一門の守り神として崇敬されたことは有名である。また、平氏が滅亡してからも、地方の権力者に守られ現在に至っている。その歴史を学ぶことも重要であると考える。



宮島



厳島神社の柱を修復中

7. 広島市教育委員会訪問

- ・指導第一課 指導主事 佐々木 英三：藤本 幸恵 と面会

広島市では、平和学習の一環として原爆ドームや平和公園を取り上げて各学校で学習に取り組んでいる。

一方、奈良市では、小学校47校中46校が広島に修学旅行へ行き、「世界遺産学習」として、平和学習をはじめとした様々な学習を行っている。中には、奈良の大仏に込められた人々の思いと原爆ドームに込められた人々の思いは同じ「平和への思い」であるということや、「原爆ドームを残すべきか」ということを学級で話し合うことに取り組んでいる学校がある。これらの取組は、広島でも同じようにできると考えている。

これらのこと伝え、資料を渡すと、そのような切り口で原爆ドームを捉えたことがなかったと、広島教委の担当者は大変興味をもったようであった。

8. 世界遺産 原爆ドーム・平和記念公園

原爆ドームと言われている建物は、昔「広島県産業奨励館」と呼ばれていた大正時代に建てられた楕円のドーム型のアーチをもつ當時モダンな建築物であった。

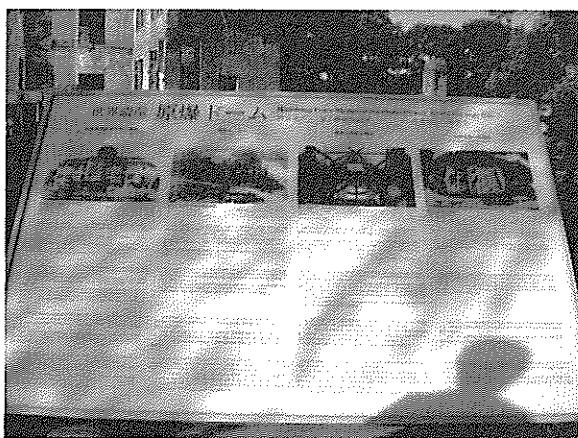
原爆ドームも、被爆当初はそのままの姿であったが、建物の傷みがひどくなり、定期的に保存工事が行われている。これらの保存やそれらにかかわる人々についても学習を深めることができが今後大切であると考える。

また、原爆ドーム付近には、4ヶ国語（日本語・英語・韓国語・中国語）で書かれた案内板があった。ここからも外国人観光客が多く訪れていることが分かる。そこから改めて原爆ドームの価値を考えてみる学習もできると考える。

また、1998年には、1945年当時の町並みを残そうと原爆ドーム付近の猿楽町周辺生存者の会の方々が当時の街並みを描いた碑を建てた。原爆が落とされる前にぎわいのあった町の様子を人々の記憶に残したいという熱い思いが感じられる。このことも教材化してその思いを後世に伝えていくことも大切ではないかと考える。当時の生存者はすでにかなり高齢である。この教材化は、急務であると感じている。



原爆ドーム



原爆ドームの説明書



猿楽町周辺の街並みを描いた碑

平成23年度世界遺産学習推進委員会作業部会について

1. 目的

奈良市教育ビジョンにおいて奈良らしい教育の推進が求められている。そこで奈良らしい教育の中核である世界遺産学習に関して、市立学校教員の実践力を高め、そこでの研修成果を積極的に発信することで、奈良市立学校教員の世界遺産学習に関する指導力の向上を図る。

2. 内容

- ① 教材開発・実践事例の作成
- ② 世界遺産学習カレンダーの作成<小学校のみ>

※年間5回から6回の作業部会を開催し、学識経験者や担当指導主事が適切な指導を行う。

3. 設置する作業部会と担当指導主事

- | | |
|------------|------------------------|
| ① 社会科・総合部会 | 西口美佐子・深澤吉隆<社会・総合カレンダー> |
| ② 理科・環境部会 | 毛利康人・小林正典<理科・総合> |
| ③ 幼小部会 | 村田三美・木村治生<幼稚園・生活> |
| ④ 國際理解教育部会 | 葛和正則・鶴田聰美<外国語活動> |
| ⑤ 情報教育部会 | 大西敏之・中原恭輔 |
| ⑥ 国語部会 | 東畑年昭・今西敏幸<国語> |
| ⑦ 道徳部会 | 徳永修二・藤波央<道徳> |
| ⑧ 音楽部会 | 中島宇規・山中充子<音楽> |
| ⑨ 美術・図工部会 | 坂本静泰<図工> |
| ⑩ 食育部会 | 中川克則<家庭> |

<その他…算数・体育・特活は、各部会で情報を収集する>

4. 指導助言者

奈良教育大学 森本弘一 教授	奈良教育大学 棚橋尚子 教授
奈良教育大学 中澤靜男 専任講師	畿央大学 村田浩子 准教授

5. 成果の発信について

- ① 世界遺産学習全国サミットの分科会での実践発表
- ② 奈良市立学校園教職員研修での実践発表
- ③ 奈良市立学校園の校内研修での実践発表
- ④ 実践事例のまなびかがやきネットへの掲載

6. 備考

作業部員については、一般公募と担当者による選考で行う。(7月7日(木))

【世界遺産学習作業部会の開催について】

◆国際理解教育部会

8月4日、9月5日、11月17日、2月14日

◆幼小部会

8月29日、11月15日、3月6日

◆理科部会

7月26日、9月27日、10月31日

◆音楽部会

8月29日、9月30日、11月4日、1月12日

◆国語部会

11月28日、1月16日、2月20日

◆道徳部会

8月3日、9月9日、11月2日、12月19日、1月31日

◆情報部会

8月11日、8月31日、9月16日、1月23日

◆美術・図工部会

8月2日、1月30日

◆社会・総合部会開催日

8月4日、9月8日、11月4日、1月26日、2月24日

◆食育部会開催日

7月29日、9月8日、11月1日、1月26日

◆作業部会の様子



国際理解教育部会



社会・総合部会

平成 23 年度日本／ユネスコパートナーシップ事業

奈良教育大学公開講座 「親子で探る奈良の世界遺産」事業報告書

1. 目的

文化遺産を切り口とした E S D である世界遺産教育においては、文化遺産に出会い、その素晴らしさにふれることを通して、地域を大切に思う心情を育てることで、E S D の目標である価値観や行動の変革に迫りたいと考えている。本公開講座では、なら・観光ボランティアガイドの会、歴史街道推進協議会の協力のもと、小中学生とその保護者が奈良の文化遺産の価値を実感として理解できるようになることを目的として開催する。

2. 主催 文部科学省、奈良教育大学

3. 協力 なら・観光ボランティアガイドの会、歴史街道推進協議会

4. 後援 ASPUnivNet

5. 日時 平成 23 年 2 月 5 日（日） 9 時 30 分～ 16 時 40 分

6. 場所 東大寺、奈良教育大学等

7. 参加者数 37 名（小学生 17 名・中学生 3 名・保護者 17 名）

8. 講師 森本公穂氏（東大寺清涼院住職）

上田益世氏・織田紀久氏・今井田晃氏（なら・観光ボランティアガイドの会）

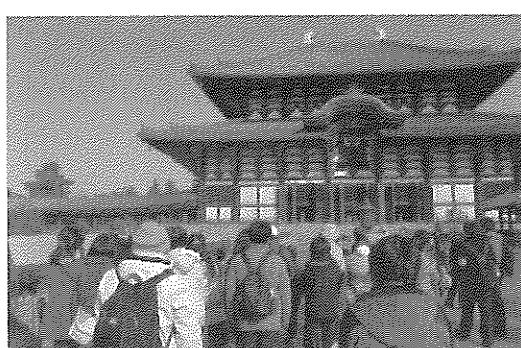
9. 内容

9 時 00 分～ 9 時 20 分 受付（奈良教育大学大講義室）

9 時 20 分～ 9 時 25 分 開会あいさつ：奈良教育大学教授 谷口義昭

9 時 30 分 徒歩で東大寺大仏殿に向かう。

10 時 00 分～ 11 時 00 分 東大寺大仏殿到着



【大仏殿についての説明】

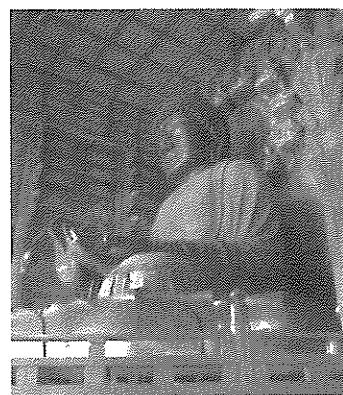
森本公穂氏から東大寺大仏殿について教えていただく。奈良時代の創建と現在の大仏殿では、奥行と高さは同じだが、横幅が 1.5 倍であったという話に皆が驚く。また、しひには、ここから下は水の中ということで、火災を防ぎたいという意味があること。かつては一般の人はお堂に入ることができなかったため、大仏様の顔の位置に窓がある話をうかがった。

小学生の兄弟が事前学習してきたようで、森本氏の質問に元気よく答え、森本氏も感心されていた。

また、大仏殿は世界で一番大きい木造建造物であるが、現在は大仏殿を再建するだけの木材がないこと、木の文化を守るために木を植えることが大切であるということを教えていただく。

いよいよ大仏殿の中に入る。さらに今回は森本氏の特別のご厚意で、参加者全員が台座に登壇させていただく。間近に見る大仏はさらに大きく見える。また、蓮弁は手に触れるところにあり、奈良時代の線刻が目の前に見え、一部、奈良時代の塗金が残っているところもある。

台座の上で森本氏より「東大寺大仏の造立・復興について」のご講演をいただく。



【東大寺大仏】

東大寺大仏を見ると誰もがその大きさに目をうばわれてしまう。大仏を造った人は聖武天皇であるということぐらいは知られているが、大仏に込められた願いはほとんど知られていない。しかしそこが重要だ。聖武天皇は「すべての動物、すべての植物が栄える世の中にしたい」という思いで大仏を造った。しかも、無理やり造ったのではない。大仏造りを手伝いたいという人々に集まってもらって造ろうと呼びかけた。そして、当時500万人だった日本の人々のうち、260万もの人々が大仏造りを手伝った。

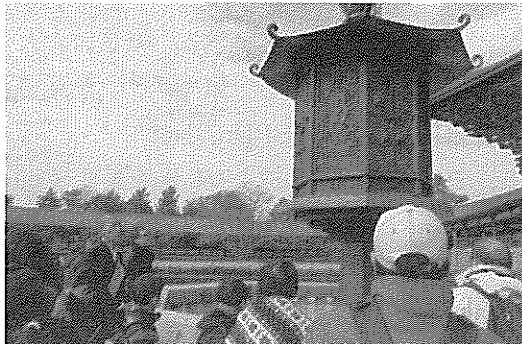
大仏様にお願いをするとき、自分のことを願っても大仏様は聞いてくれません。すべての動物、すべての植物の幸せを願って、どうすればいいか考えてほしい。

また、大仏殿の柱の穴に関する言い伝えや「目から鼻にぬける」ことわざについて、楽しく教えていただく。

その後、八角灯籠が酸性雨で傷んでいるところを示しながら、文化財を守るために環境を守ることが大切であるというお話ををしていただく。



【蓮弁に残る線刻（レプリカ）】

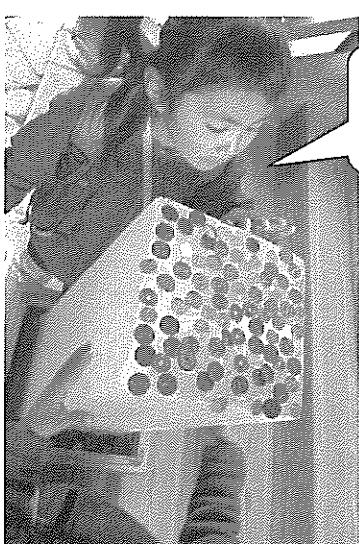


【八角灯籠】

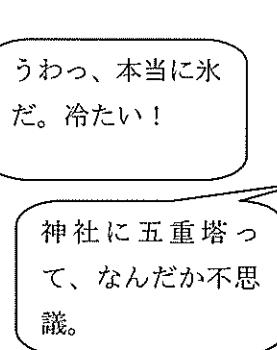
11時30分～12時30分 昼食：春日野園地（ボランティアガイドと合流）

12時30分～16時15分 グループ見学

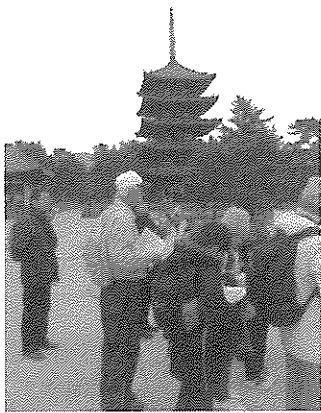
- 江戸あるいは明治時代の奈良の地図をもとに歩く。
- 訪問地において、ガイドから文化遺産の説明を聞く。



氷室神社のさい錢箱に氷の柱がたっていました。



奈良国立博物館の隣に残る塔跡は、平安時代に建てられた春日大社の五重塔の跡。東西二つの塔があったということをガイドさんから教えてもらい。奈良には塔がたくさんあったんだなあと感心。



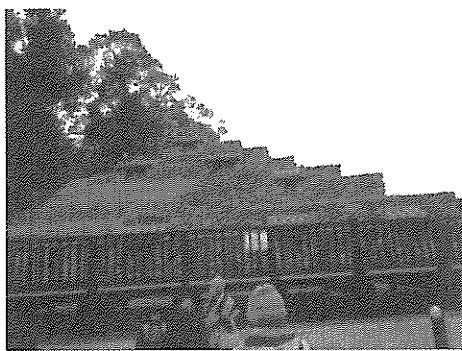
【興福寺】

「興福寺には、塀がありません。でも明治になるまではあったんですよ。明治の初めに廃仏毀釈ということが起こり、興福寺のお坊さんはみんな、春日大社の神主になってしまった、無住になったんです。その時に塀を取り壊してしまったんだね。」

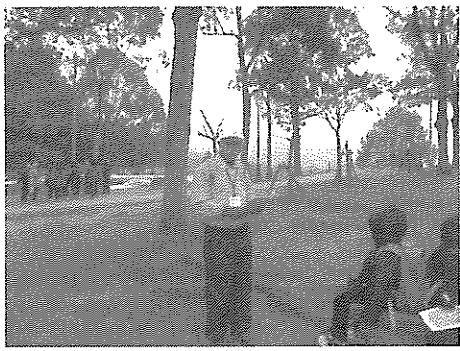
再建中の中金堂の前で、興福寺には3つも金堂があり、中金堂のまわりには回廊があった。また南大门もあったという話にびっくり。

「近鉄奈良駅の近くの商店街は東向き商店街と言いますね。面白い名前でしょう。あの通りの東側に興福寺の塀があったんです。だからその通りの家はみんな、東向きに建っていたんだよ。だから東向き。」

地名に残る奈良の昔にびっくり。猿沢の池では采女神社の話に、またまたびっくり。本当に一晩で、向きが変わったの？奈良は面白い。



頭塔ですが、土塔がなまって「頭塔」になり、物語もできたのかも。



飛火野で、奈良にまつわる謡いを披露してもらいました。

16時30分～16時40分 閉会行事：奈良教育大学大講義室

今回、森本公穂氏のご厚意で東大寺大仏殿の台座に登壇させていただいた意義は非常に大きい。また、東大寺の僧侶から話を直接聞くという機会もなかなかないので、参加された方の心の中にずっと今回の記憶が残ると思う。

午後のフィールドワークでは、グループになってガイドさんから奈良のおもしろさをうかがうことができた。また、江戸時代の古地図を手にしてのフィールドワークは、子どもだけでなく保護者にも新鮮で興味深かったようである。現在も残るものと失われてしまったものがあること。なぜ失われてしまったのか、今ある文化財を失うことなく、次の世代に伝えていくために大切なことについて、考えながらのフィールドワークであった。

また、ガイドさんからは、奈良に伝わる言い伝え、物語、わらべうた、謡などを教わったり、おもしろい地名を教わったりしたので、奈良をもっと知りたいという思いが高まっていたようだ。

今回、歴史街道推進協議会様のご協力で、参加した子ども全員に朱印帳をプレゼントした。そこに記された東大寺大仏殿の朱印は、子どもにも保護者も大きなインパクトがあったようで、これから朱印を集めに社寺めぐりをしたいとおっしゃる方がたくさんおられた。今回の公開講座が、世界遺産や地域遺産への関心を高めるきっかけになったと思われる。

かなり寒い時期での開催であったが、参加されたみなさんが笑顔で一日を過ごされ、本当によかったと思う。

「古地図を見ながら歩こう」

江戸時代の名所旧跡をさがそう

東大寺事務所…………真言院…………西塔跡…………吉城園（通過）

12:30

…………東大寺西大門跡（南都八景の二つ）…………地下道…………

興福寺（国宝館見学）…………東金堂・五重塔＜トイレ＞・南円堂・北円堂・

13:15 13:35

三重塔…………采女神社と猿沢池…………楊貴妃桜（五十二段）…………

大御堂…………一の鳥居…………お旅所…………浅茅が原…………

14:25

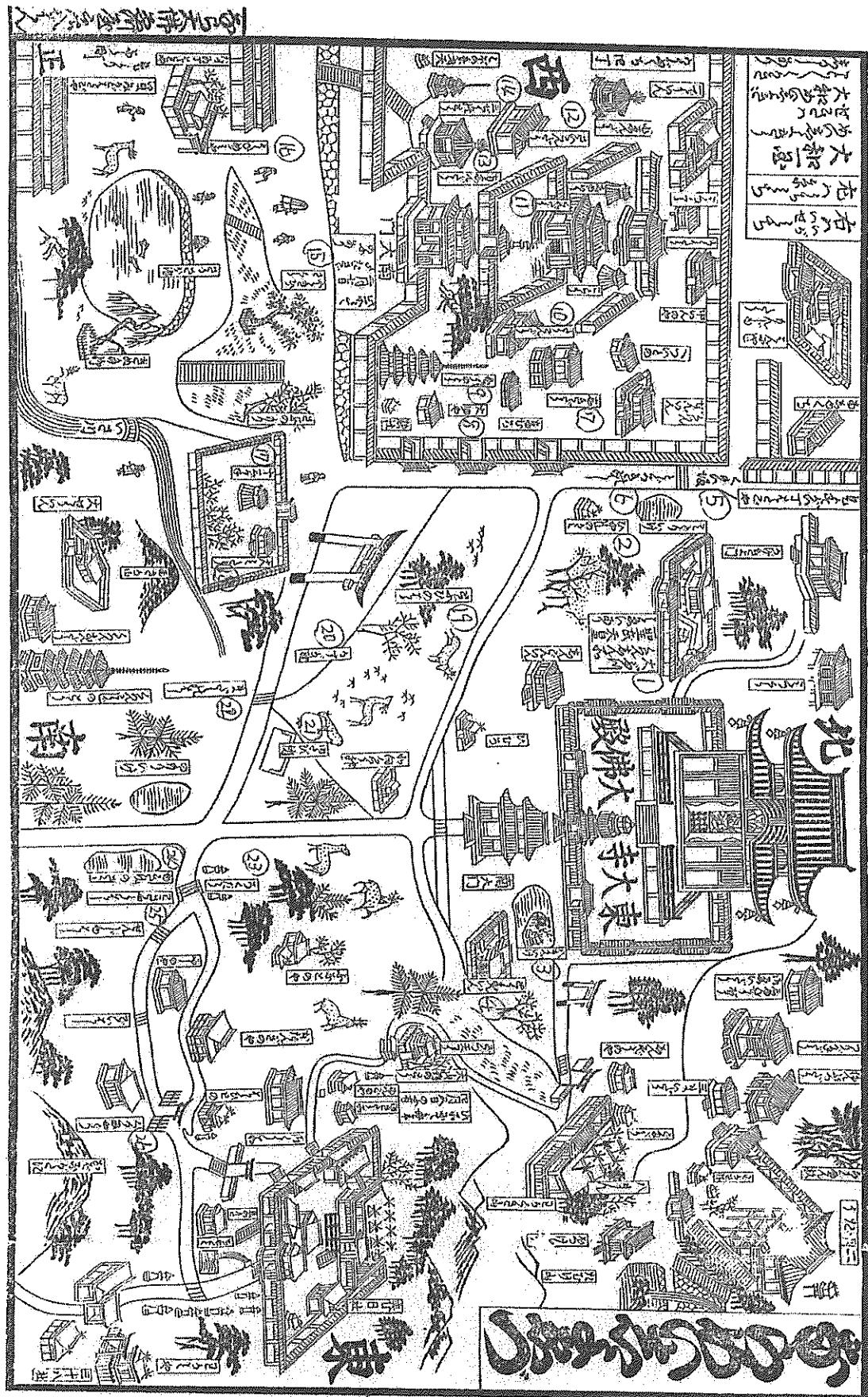
頭塔…………奈良教育大学

15:05 15:15

- もう少し時間がかかるかもしれません。寒ければ、この時間帯で
- 県庁の屋上は、この時期解放していません（土・日）
- 江戸時代の地図と現在の様子を比べながら歩いていく
- 各場所の説明は、あまり時間をかけないで進めていく
- 暖かい服装でお願いする
- トイレがないため、出発前に済ませておく。あとは興福寺で一回だけ
- 古地図と現在のマップを準備してください

なら・観光ボランティアガイドの会

上田 益世



奈良教育大学公開講座 「親子で探る奈良の世界遺産」アンケート集計

1 開催日時 2012年2月5日(日) 参加者 37名 + スタッフ 7名 ※アンケート提出者 34名

2 受講者

男性	11名	女性	23名
----	-----	----	-----

小学生	16名	中学生	4名	保護者	18名 (現職教員3名含)
-----	-----	-----	----	-----	------------------

3 この講座を何でお知りになりましたか。

チラシ 15名 友人から聞いて 3名 新聞(読売) 3名
 その他 11名 無記入 1名 本学のホームページ 1名
 ↓

○歴史街道推進協議会様からの会員の方へのご案内

○教職員から聞いた。

○家族から聞いた。

○インターネット 等

4 イ 時期	良い 20名	悪い 11名	・寒い ・インフルエンザ流行期 ・春か秋が良い(特に春)	無記入 4名	その他0名
ロ 場所	良い 32名	悪い 0名		無記入 1名	その他1名 ・普通
ハ 曜日	良い 30名 ・土日だから	悪い 1名	・土曜日が良い	無記入 1名	その他2名 ・普通 ・休日ならいつでも良い
ニ 時間	良い 32名 ・早いけど良い ・午後から休憩があれば。	悪い 1名	・始まるのが早い	無記入 1名	その他0名
ホ 期間	良い 26名	悪い 2名		無記入 6名	その他0名

5 イ 内容 判りやすい 23名 普通 4名 難しい 4名 無記入 3名
 ロ 講師説明 判りやすい 22名 普通 3名 難しい 3名 無記入 6名

6 講習料について

・有料でも参加されますか。

する 32名 しない 1名 無記入 1名

・講習料はどのくらいなら参加されますか。

100 円	1名
500 円	4名
800 円	2名
1,000 円	9名
1,500 円	1名
2,000 円	4名
無記入	13名

7 大学でどの様な講座を希望されますか。(複数回答可)

哲学	3名
歴史	15名
社会科学	4名
自然科学	6名
技術	7名
芸術	7名
言語	4名
文学	4名
無記入	10名

その他
 ・今回の様な親子で参加出来る世界遺産の講座が良いです。また企画をお願いします。
 ・奈良の世界遺産を巡るシリーズ
 ・古文書の解説や染色、地震のこと
 ・子ども(小学生)が勉強のきっかけになる様な親子で参加できる講座

8 ご意見、ご希望をお聞かせください。

- ・今回の様な奈良巡りをして、「へえー、そなんだ！なるほど！」と思えました。
とても講師の説明が良かったし、内容も良かったです。だから、また今回の様な企画をやって下さい。
- ・自分の住んでいる近くの歴史をあまり知らないて、今日は、「へえ～」と思う事が、たくさんあり、勉強になりました。
ありがとうございました。子どものクラブ等で都合のつかない事もありますが、また次回、参加したいです。
- ・とても勉強になりました。ありがとうございました。
- ・午後から1つも休憩が無いので、しんどかった。講師(ガイド)の説明が、専門用語やマイナーな人物の名前がたくさん出てきて、すごく分かりにくかった。もう少し分かりやすく、説明して欲しい。
- ・歩いている時、休憩が無かったので、しんどかった。説明の内容が難しかった。
- ・寒かったです。東大寺に入れて良かったです。
- ・とても楽しかったです。また行ってみたいな。宿題というのが、とても面白かったです。
でも、「へえー」と「どうして」と「分かった」を言うの忘れていました。
- ・とても分かりやすくて良かったです。
普段、何気なく歩いているところに色々な歴史を感じられ、奈良に住んでいて良かったなあと思いました。
お世話になり、ありがとうございました。
- ・親子で参加でき、一緒に歴史が勉強出来る講座でしたので、参加させて頂きました。
子どもには、是非日本の歴史を学んで欲しいと思っていますが、個人で訪れるより、子ども向けに色々な解説をして頂け、楽しく、有意義な時間を過ごせました。子どもの今後につながると思います。
今後もこの様なセミナーがあれば、是非参加したいです。奈良・京都は本当に歴史の宝庫ですので、次の企画を楽しみにしております。
- ・楽しく学ぶ事が出来ました。ありがとうございました。
- ・奈良に住んでいて知らない事がいっぱいで、子どもに尋ねられても答えられない。
親子で参加出来て、とても良かったです。ありがとうございました。二度・三度受講したいです。
- ・世界遺産で名前や形は知っていたけど、詳しい話などは全然知らなかつたので、とても勉強になりました。
お話を物語などを教えてもらったので、説明がよく分かりました。とっても楽しかったです。
- ・面白くて楽しかったです。
- ・小学校でやった事や行った事のある場所もあったけど、知らない事も知れたので、学校で生かしていきたいです。
- ・今まで知らなかった奈良のことを知る事が出来て、とても勉強になりました。
色々な場所を回れて、とても楽しい1日を過ごしました。
- ・寒い1日でしたが、雨・雪に降られず幸せでした。大仏様の間近に登る体験は、なかなか出来ないもので良かった。
ご住職、ボランティアガイドさんのお話を伺いながらの散策で、とても分かりやすかったです。
またの開催を期待します。小6の娘も大変印象に残った様です。ありがとうございました。
- ・歩くのが、しんどかったけど、いろんな場所を回る事が出来て楽しかった。また参加したいと思った。
- ・この機会で奈良県のことが、よく分かった。奈良県は小さな県なのに、有名なところがいっぱいあったので、すごいと思った。
- ・奈良に住んでいるのに、知らないことばかりで、今日は色々な事が分かりました。
特に東大寺での話は印象的で、中学校での新聞作り等にいかせそうです。ありがとうございました。
- ・今回、駐車場を利用させて頂けて大変助かりました。奈良に住んでも、残念ながら知らない事ばかりで、
この様に親子で勉強させて頂く機会があつたこと、とても嬉しく思います。
東大寺でのお話を、大人としても気付かれる事も多く、本当に勉強になりました。
その後のプログラムも、とても丁寧で、一日、大変充実した時間を過ごす事が出来ました。
また、この様な機会があれば、是非参加させて頂きたく思います。宜しくお願ひします。
大学の方々、ボランティアガイドの方々、本当にありがとうございました。
- ・無料でやって欲しいし、次回の題名を「歴史を知ろう」にした方が良いと思いました。
- ・充分、奈良を楽しめました。
- ・とても勉強になりました。楽しかったです。
- ・今日は普段、聞く事が出来ない様な事を色々教えて頂いて興味深く参加出来ました。
奈良に住んでいながら、知らない事が、まだまだたくさんあるので、今度も楽しい企画に参加したいと思います。
たくさんのスタッフの方々、ありがとうございました。
- ・歩くのが大変でした。古地図を見ながら歩くのは楽しかった。お坊さんの話が良かった。
- ・奈良を深く知る事が出来て本当に良かった。

平成23年度 日本ノユネスコパートナーシップ事業
奈良教育大学公開講座



～古地図を見ながら歩こう！江戸時代の足跡はどこ？？～



とき：平成24年2月5日（日）
9時20分～15時30分



奈良教育大学
イメージキャラクター
なっちゃん

奈良に来るといろんな歴史に出会えます。今回は江戸時代の地図を持って、ガイドさんに案内して頂き、東大寺～興福寺のあたりを歩きます。江戸時代の奈良は、どんな景色なのでしょう。古地図を通じて、受け継がれてきた奈良の歴史遺産、文化財について学びます。

☆参加者募集☆

- 対象：小学生3年生～中学生とその保護者20組（中学生のみ保護者無しでも可）
※参加者多数の場合は、抽選とさせて頂きます。
- 参加費：小学生850円、中学生1,350円、保護者1,150円（小学生と中学生の参加費には大仏殿朱印料300円込）
※保険料、東大寺大仏殿、興福寺国宝館拝観料を含みます。
- 申込み方法：往復ハガキに「親子で探る奈良の世界遺産講座参加希望」とお書きの上、
①住所、②子どもの氏名・年齢、③学校名、④保護者氏名、⑤電話番号を明記し、
下記まで、お申し込みください。

<宛先>

〒630-8528

奈良市高畠町

奈良教育大学 持続発展・文化遺産教育研究センター 中澤研究室

<締め切り>

1月27日（金）必着

<お問合せ>

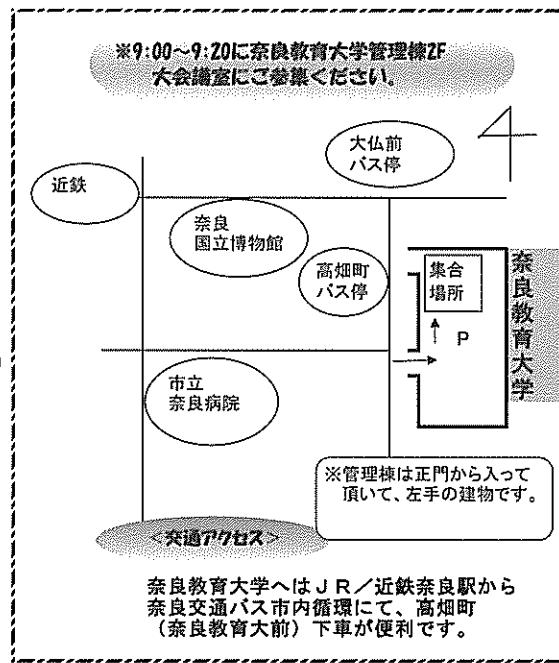
0742-27-9177/9269

お弁当・水筒・敷物を持参して下さい。



☆日程☆

- 9:00～9:20 受付（奈良教育大学大会議室）
9:30 出発
10:00～11:00 東大寺大仏殿～大仏さんに秘められた物語～
「東大寺大仏の造立・復興について」
講師：東大寺塔頭清涼院住職 森本公穎氏
11:30～12:30 昼食（春日野園地）
12:30～15:15 グループ見学（※コースは、下記ご参照ください。）
「古地図を見ながら歩こう！！」
講師：ボランティアガイドの方々
15:15 奈良教育大学到着
15:15～15:30 閉会行事
アンケート記入 解散



☆グループ見学コース☆

- 春日野園地～東大寺南大門跡～興福寺（国宝館見学）～
～東金堂・五重塔＜トイレ＞～采女神社と瑠璃池～
～楊貴妃桜（五十二段）～大御堂～一の鳥居～
～お旅所～湊草が原～頭塔～奈良教育大学

主催：文部科学省・奈良教育大学
協力：なら・観光ボランティアガイドの会
歴史街道推進協議会

平成 23 年度 世界遺産教育出前講座開催要項

1. 目的

教材キット『守ろう地球のたからもの - 豊かな世界遺産編 -』を活用して、「世界・地域遺産を通しての ESD」の浸透及び普及を目的とする。

2. 主催 文部科学省、奈良教育大学

協力 公益社団法人日本ユネスコ協会連盟 三菱 UFJ フィナンシャル・グループ

後援 開催地教育委員会（予定）

3. 内容

① ESD・世界遺産教育についての研修（60 分）

② 教材キット『守ろう地球のたからもの - 豊かな世界遺産編 -』を活用した模擬授業（60 分 × 2 講座）

4. 開催地

大牟田市、岡山市、金沢市、大田市、東京、東大阪市、奈良市

5. 開催日程

10月後半から3月の土・日・祝日・冬季休業

6. 参加料 無料

7. 予算

旅費及び会場費：日本／ユネスコパートナーシップ事業経費

教材キット：三菱 UFJ フィナンシャル・グループ

8. 講師

田渕五十生（福山市立大学）、谷口尚之（奈良教育大学附属中学校）、小嶋祐伺郎（同）、祐岡武志（奈良県立法隆寺国際高等学校）、山下欣浩（米子市立淀江中学校）、松浦慎（奈良市立飛鳥小学校）、三木恵介（同）、中澤静男（奈良教育大学）

9. その他

世界遺産教育出前講座に参加した学校ごとに三菱 UFJ フィナンシャル・グループからキットが配布される。

ESD・世界遺産教育の概要

奈良教育大学 持続発展・文化遺産教育研究センター

専任講師 中澤 静男

1. ESD について

(1) 現在は持続可能な社会であると言えるか。

地球温暖化、戦争・テロ、エネルギー問題、放射能汚染、食糧問題、貧困、生物多様性の減少、…

エコロジカル・フットプリント（暮らしや経済を支えるために必要な地球の数）：1.4

「人間が要求する量」が「地球が提供できる量」を超てしまっている。

(2) これまでの経緯

1987年 ブルントラント委員会

持続可能な開発とは、将来の世代のニーズを満たす能力を損なうことなく、今日の世代のニーズを満たすような開発。

世代内の公正+世代間の公正

1992年 地球サミット（アジェンダ21で教育の重要性が指摘される）

2002年 ヨハネスブルクサミット 国連ESDの10年を日本が提唱

2005年～2014年 「国連ESDの10年」

2011年 6月3日に改訂された「ESD実施計画」が示された。

① ESDのいっそうの普及促進を図る。「見える化」「つながる化」

② 幼稚園から大学まで、子どもの発達段階に即したESD実践を。

③ ESD推進役としてのユネスコスクールの位置付け（現在308校）

(3) ESDとは持続可能な社会づくりの担い手を育てるための教育

Education for Sustainable Development（持続可能な開発のための教育・持続発展教育）

なぜESDが必要なのか 技術開発や技術の普及を支える市民

例① スウェーデンのバイオマスエネルギーの普及

② ドイツの太陽光発電の普及

ESDは未来への希望の教育

(4) ESDの目標

① 質の高い基礎教育の充実

② あらゆる教育の場でESDが取り組まれること

③ 環境・経済・社会の面における価値観と行動の変革

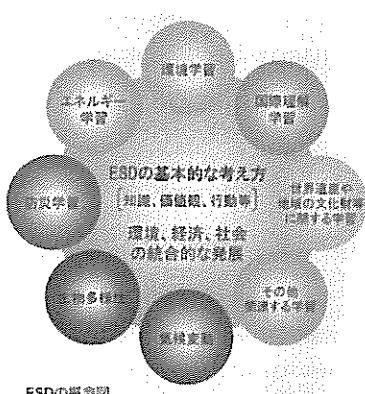
(5) ESDで取り組む内容（右図）

身近なものを切り口に、色々な内容を関連付けて

例 奈良には社寺などの歴史的建造物や伝統行事、伝統産業

などの文化遺産が身近にある。→ 文化遺産を切り口とした

ESD（世界遺産教育）



(6) ESD で育てたい能力

- ① 持続可能な発展に関する価値観
- ② システムズシンキング（多面的・総合的、体系的なものの見方）
- ③ クリティカルシンキング（批判的思考、代替案の思考力）
- ④ データや情報の分析能力
- ⑤ コミュニケーション能力
- ⑥ リーダーシップの向上、社会に参加する行動スキル

2. ESD として世界遺産教育

- 世界遺産教育は、世界遺産について学ぶのではなく、世界遺産を通して学ぶ。
- 世界遺産教育は、世界遺産だけでなく、地域の文化財や自然景観、伝統文化などを教材化する。

(1) 世界遺産教育の 2 つの方向性

- ① 世界遺産から地域遺産へ（教材キットを活用して）
 - ・ ESD の視点が含まれた世界遺産から同じような視点で地域遺産の研究に（高学年・中学校）
例 知床 → 地域の里山での生き物のつながり調査
原爆ドーム・アウシュヴィッツ → 地域の戦跡調査・平和学習へ
 - ・ 世界遺産へのあこがれから、地域遺産の発見活動に（中学年・高学年）
世界遺産見学や教材キットのDVD視聴から地域探検へ
例 姫路城 → 地域の城・城跡探検
法隆寺・木の文化 → 地域の社寺建造物調査
- ② 地域遺産から世界遺産へ（教材キットを用がかりに）
 - ・ 地域遺産を研究し、同じような視点を含有する世界遺産へ、そしてグローバルな学習へ。
例 棚田の研究 → フィリピン・コルディリエラの棚田群
遺跡の修復 → カンボジア・アンコール遺跡
街道の研究 → 紀伊山地の霊場と参詣道 → サンティアゴ・デ・コンポステーラの参詣道

(2) 世界遺産教育で大切にしたいこと

- ・ 地域の伝統文化との出会い、地域人材との出会いを通して、地域への誇りや地域を大切にする心情を育成する。それが地域での具体的な行動の変革につながる。
- ・ 地域に埋没することなく、グローバルな学習への発展を視野に入れる

3. ESD・世界遺産教育の学習方法（学習内容だけでなく、学習方法も ESD 的に）

- ① 知識伝達型だけでなく、双方向的ディスカッションを基盤とした協同的学び。
科学的概念は学校で教えられなければならないが、子どもの十分な生活的概念がその基盤である。大人から与えられる情報と違って、仲間からの情報は権威がないため、無批判に正しいものとして受け入れられることが少ない。（波多野・稻垣） → クリティカルシンキング
- ② つながりを発見する学習活動を継続的に取り組むことで、システムズシンキングを養う。
- ③ 問題解決型の学習過程において、主体的な学習活動を促す。（リーダーシップ、協力）
- ④ 全身（五感）を用いた体験的な学習活動（価値観：やってみて初めてわかることがある）

「木の文化」は自然と共生した暮らしの証拠！法隆寺の木造建築に学べ

世界遺産教育 出前講座『木の文化』資料1

奈良県立法隆寺国際高等学校 祐岡 武志

目標 法隆寺が世界遺産に認められたことはどんな意味があるのか考えよう！

1. 「石の文化」と「木の文化」

①「ユネスコマーク」から連想

●このマークのデザインから

連想することを書いてください



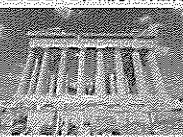
このマークはパルテノン神殿が、モデルです。神殿にまつらていた女神アテナが「知恵の神」であることから、「人類の知的・精神的連帯」を唱えるユネスコのマークに採用されました。

ユネスコと世界遺産(石の文化)に深い関わりがあることも考えられそう！

1. 「石の文化」と「木の文化」

②「石の建築物」について考える

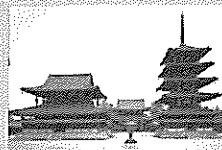
(ギリシア)の世界遺産(「アテネのアクロポリス」)の(パルテノン神殿)は2500年前につくられた
(大理石)の建物。一見水平に見える基壇や垂直に見える円柱は微妙な曲線で構成されている。その美しいデザインは、後のヨーロッパ建築でさかんに用いられ、その影響は現代まで及んでいる。このように、ヨーロッパを中心とした伝統的建造物の多くが(石造)である。



1. 「石の文化」と「木の文化」

③「木の建築物」について考える

世界遺産に登録されている(法隆寺)の金堂や五重塔、中門は1300年前に建てられた
(世界最古の木造建築物群)である。中ほどにふくらみのある円柱や深い軒先が、(飛鳥時代)の建築様式を伝えている。(木造)でありながら1000年以上も残ったことが大きく評価されている。このように、日本の伝統的建築物の多くが(木造)である。



1. 「石の文化」と「木の文化」

1. 「石の建造物」と「木の建造物」のちがいは、何でしょうか？
(→「ワークシートの1.」へ)



●自分で考えたことをいくつか書いてみましょう。

・「石」は燃えないが、「木」は燃える。

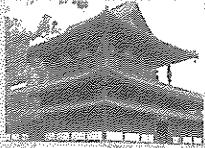
・「石」は腐らないが、「木」は腐る。

・「石」は「木」よりも長持ちする。

・「石」は外國(欧米)に多いが「木」は日本に多い。

1. 「石の文化」と「木の文化」

2. 「木の建造物」の維持・保存をさまたげるのは、どんなできごとでしょうか？
(→「ワークシートの2.」へ)



●思いついたことを、いくつでも書いてみましょう。

・火事など、人間の過失による喪失。

・雨や雪など、風雨による経年劣化。

・地震や雷、台風など、自然災害による破壊。

・戦争や内戦など、人間の争いによる破壊。など。

2. 文化の多様性

① 法隆寺が世界遺産に登録された意義

世界遺産として登録されるためには、意匠、材料、技術、環境などの各視点からの(「オーセンティンティ」)
((「真正性」)、もしくは(「真実性」と訳す)についての証明が必要である。

風雨に対して、耐久性の高い(「石」)や(「レンガ」)による建造物に比べて、その保存のために、(「部材」)を取り替えたり、(「解体修理」)が必要な「木の文化」の(「木造建築物」)は、「石の文化」の視点から見て、「オーセンティンティ」に疑問を抱く、欧米の研究者もいたのである。

2. 文化の多様性

① 法隆寺が世界遺産に登録された意義

この問題を解決するため、(「文化庁」)は、1994年11月1日から6日まで、世界の様々な文化圏から約40名の専門家を招き、奈良市の新公会堂で

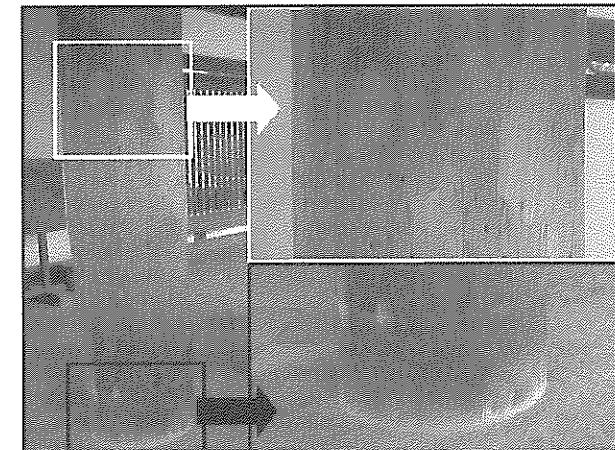
(「世界文化遺産奈良コンファレンス」)を開催した。この国際専門家会議の成果として、世界の(「文化の多様性」)を認め、遺産の価値や真実性の評価は、(「物質的」)な側面とともに、その背景にある(「文化的」)な側面にも光を当てて、総合的に判断されるべきものであることが合意された。この報告書は(「オーセンティンティに関する奈良トキュメント」)として、今日、世界遺産の評価に重要な役割を果たしている。

2. 文化の多様性

① 法隆寺が世界遺産に登録された意義

日本の多くの遺跡は木造建築で、原型を長くとどめることは難しい。そこで日本は、「厳密な学術的研究による(「復元」)も遺産の(「保存」)と見なすことができる」という見解を提示し、(「世界遺産委員会」)に認められた。

こうして、(「石の文化」)を中心だった世界遺産の判定に、(「木の文化」)を認める判断基準が加わった。



2. 文化の多様性

② 補修や解体修理の実態

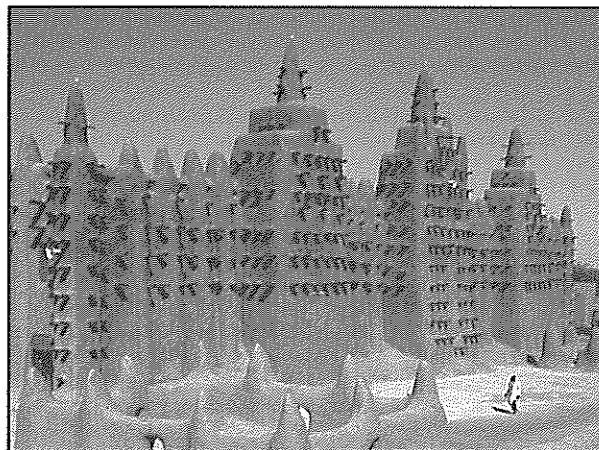
法隆寺の中門の柱をよく見ると、(「補修」)の跡があちこちに見られます。(「根継ぎ」という手法で下の礎石に接する傷んだ部分は切り落とされて新しい木を継ぎ足してあるし、柱の表面の傷んだ箇所には、木をはめ込んである。木造建築は(「補修」)が行われながら、現代に伝えられたことが想像できる。



2. 文化の多様性

③ 「石」でも「木」でもない建築物の文化

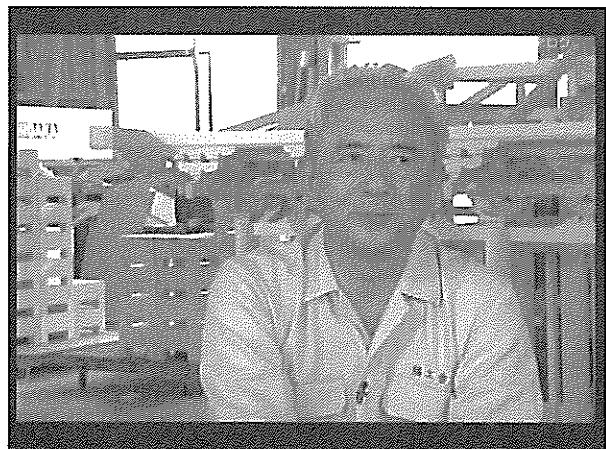
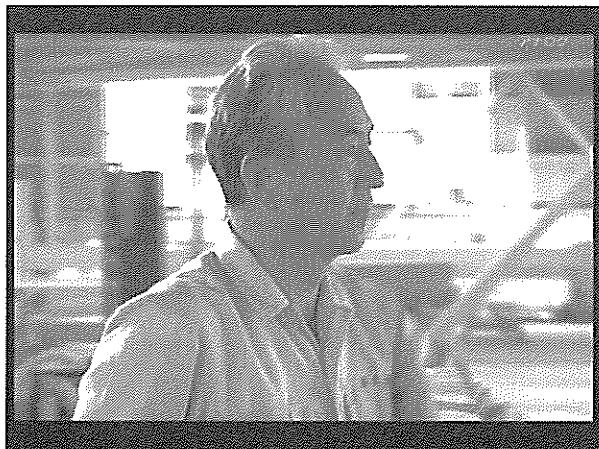
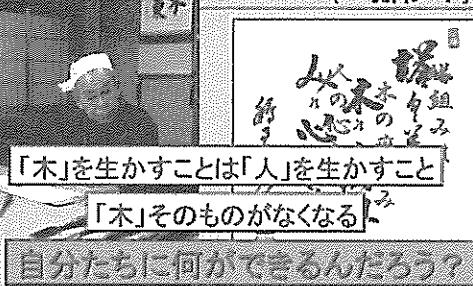
アフリカのマリ共和国の(「ジエンネ旧市街」)の町の中央にそびえる(モスク)は、ヤシ材で骨組みを作り、日干しレンガを積み上げて、表面を(泥)で塗り固めています。雨季になると壁の(泥)が流れるため(「補修作業」)が必要で、年に一度モスクの化粧直しが行われる。



3. 文化の継続性

① 「木の文化」を伝えた人

資料1 西岡常一の言葉「塔組みは木の塔組み 人の心組み」
(⇒「資料シート」へ)



3. 文化の継続性

② 未来に伝えたい文化財

3. 私たちの身近な地域で大切にされている文化財には、どんなものがあるでしょうか？（→「ワークシートの3.」へ）

● 思いついたことを、いくつでも書いてみましょう。

4. まとめ

● この授業の感想を書いてください。（新しくわかったこと、考えさせられたことなど…）

5. おわりに

教材化の観点…ポイントはなんでしょう？

世界遺産のもつ「多様性」を生かすこと

大牟田はどうなんでしょう？

世界遺産の「普遍性」を生かす

注意点…地域重視になりすぎないこと！

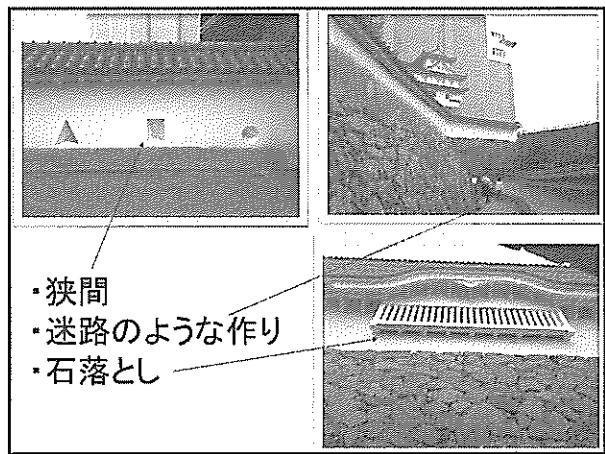
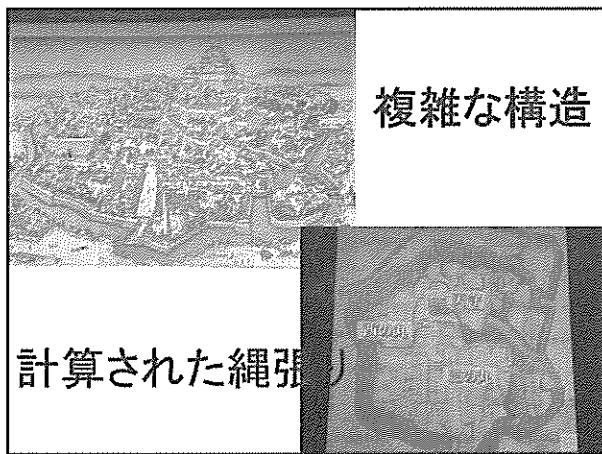
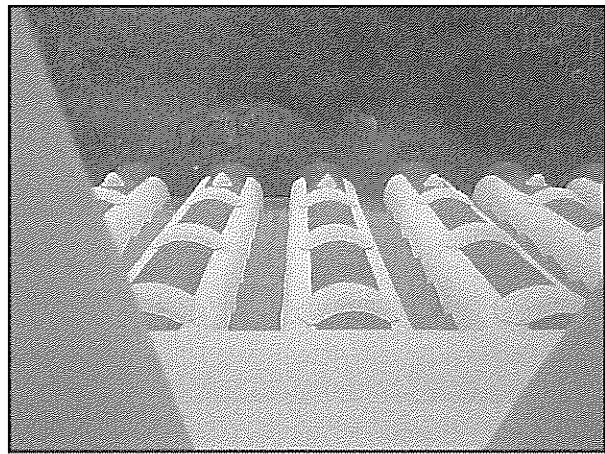
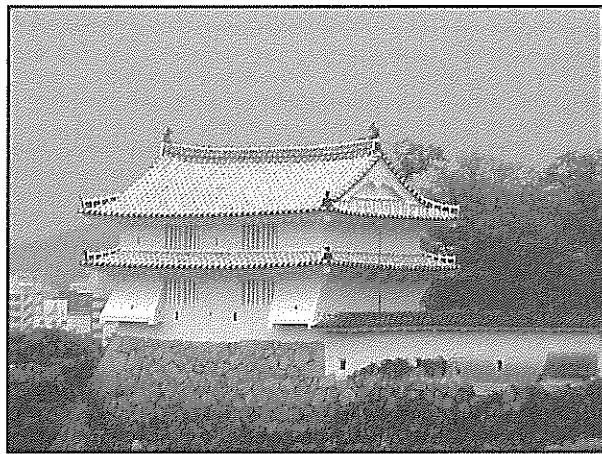
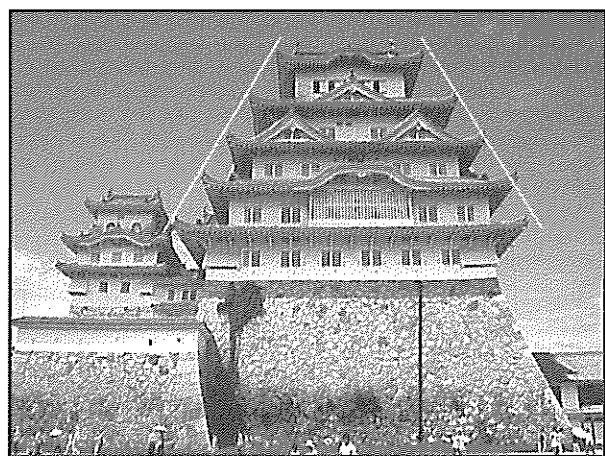
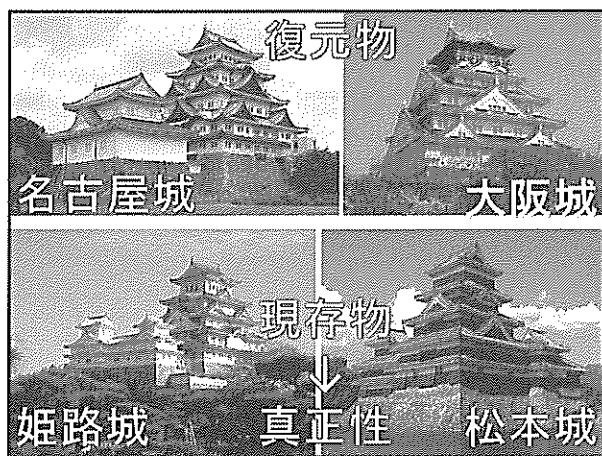
世界遺産のもつ「普遍性」にも注目をする

世界遺産は「世界が共有する価値」を持つ

この資料とプレゼンに関するお問い合わせ先

祐岡 武志 email: t-yuuoka@kcn.ne.jp

おわり



・城としての美しさ… 遷減率

石垣の高さ

白さ

・構造上の精巧さ… 繩張り

狭間

石落とし

迷路



世界遺産としての姫路城

地域遺産としての姫路城

・1871年 廃藩置県→姫路城は陸軍の管轄に

・1873年 廃城令→190の城が廃城

天守は必要なくなり、民間に払い下

げられる城もあった。

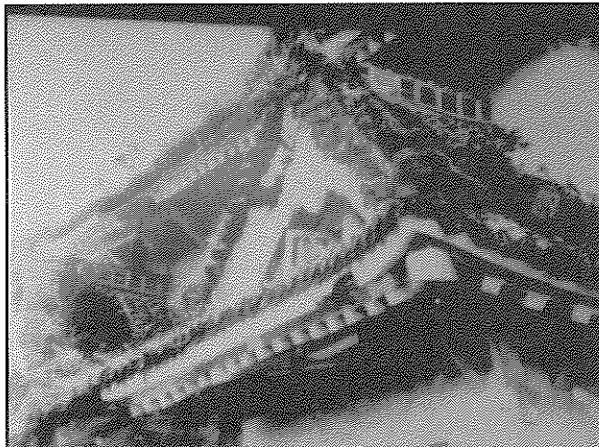
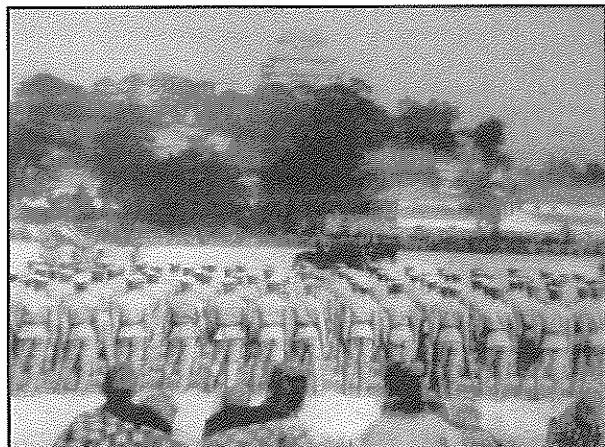
→ちなみに姫路城も23円50銭ほどで

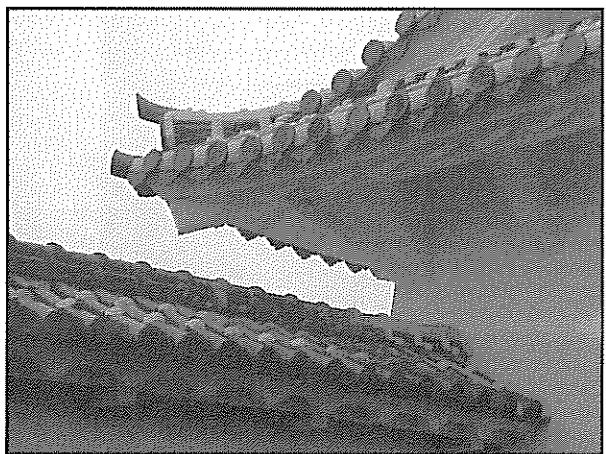
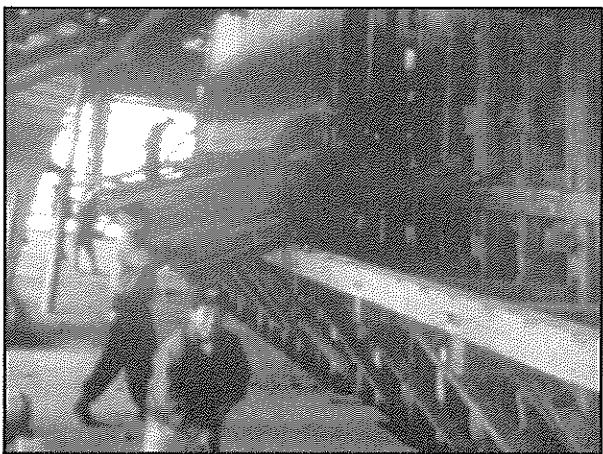
・1878年 中村重遠大佐が天守修繕の申し出

→姫路城を文化的な価値あるものと

し

て保存していく意思が明確に







世界遺産教育出前授業

守ろう地球のたからもの「豊かな世界遺産編」の効果的な利用について

米子市立淀江中学校

教諭 山下欣浩

1. はじめに（教材の構成）

この教材キットは、世界遺産をツールにして E S D に迫る 4 つの観点から構成されています。第一は「文化の多様性と異文化理解について学ぶ」。第二は「環境と生物多様性について学ぶ」。第三は「平和と人権について学ぶ」。第四は「持続可能な社会」に必須な「連帯、人のつながりのたいせつさを知る」。この 4 つ観点について各々 3 つの教材からなっています。そして、それぞれの導入に利用できる D V D 、ワークシート、教師用資料など、学習に必要な物が含まれています。今回は、「連帯・人のつながり」をテーマに、白川郷・五箇山の合掌造り集落とコルディリエーラの棚田についての授業実践について紹介します。

2. 世界遺産導入教材の利用について

「スライドショーをつくり まちのたからものを未来に伝えよう」

世界遺産の学習をきっかけに、学習者が自分の故郷の歴史や自然を知り、それを大切にする気持ちを育むことも、世界遺産学習の大きなテーマの一つです。それを実践するために、学習者が自分の町に遺る貴重な文化財や自然を「私のまちのたからもの」として未来へ伝えるスライドショーをつくり、地域の人々に向けて発信していきます。

○ねらいについて

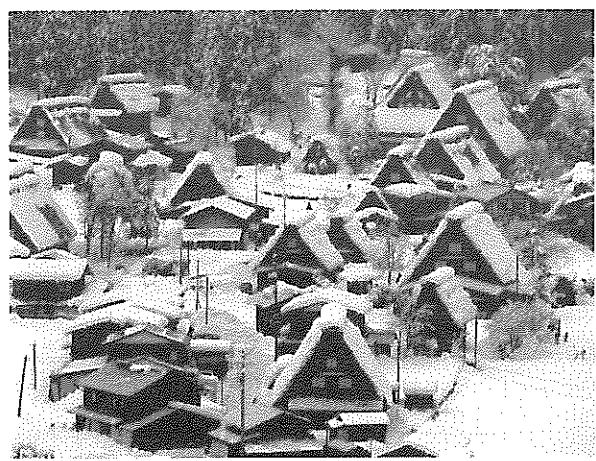
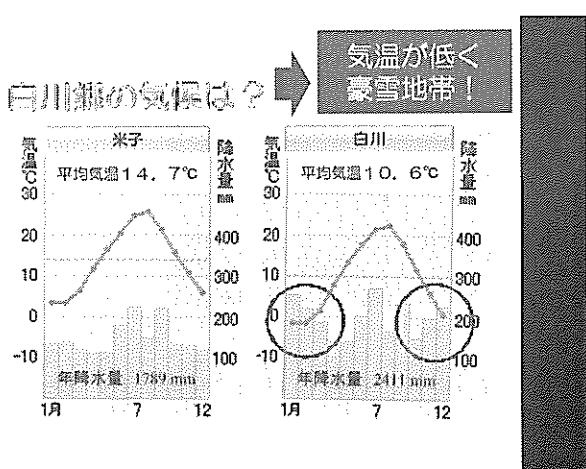
- ・学習者が、地域のたからもの（貴重な文化財や自然、お祭りやうたなど）を発見し、調べる。
- ・たからものの素晴らしさを人に伝えることで、伝統と文化を尊重し、郷土を愛し、未来へと伝えていこうという気持ちを育む。
- ・「地域学習」の学びを伝え、発信するスライドショー（1分半）を制作する。
- ・テーマの設定、現場の取材、ストーリーづくり、写真の組み合わせや展開、ナレーション原稿の作成と録音、ストーリーに合った B G M の選曲などによるスライドショー製作を通じて、学習者の総合的な創造力を育成する。
- ・日本ユネスコ協会連盟が主催する「私のまちのたからものコンテスト」への参加。

3. 実践事例の紹介

(1) 合掌造りを守ってきた「結」と集落の歴史から文化・自然・観光の共生を考える。

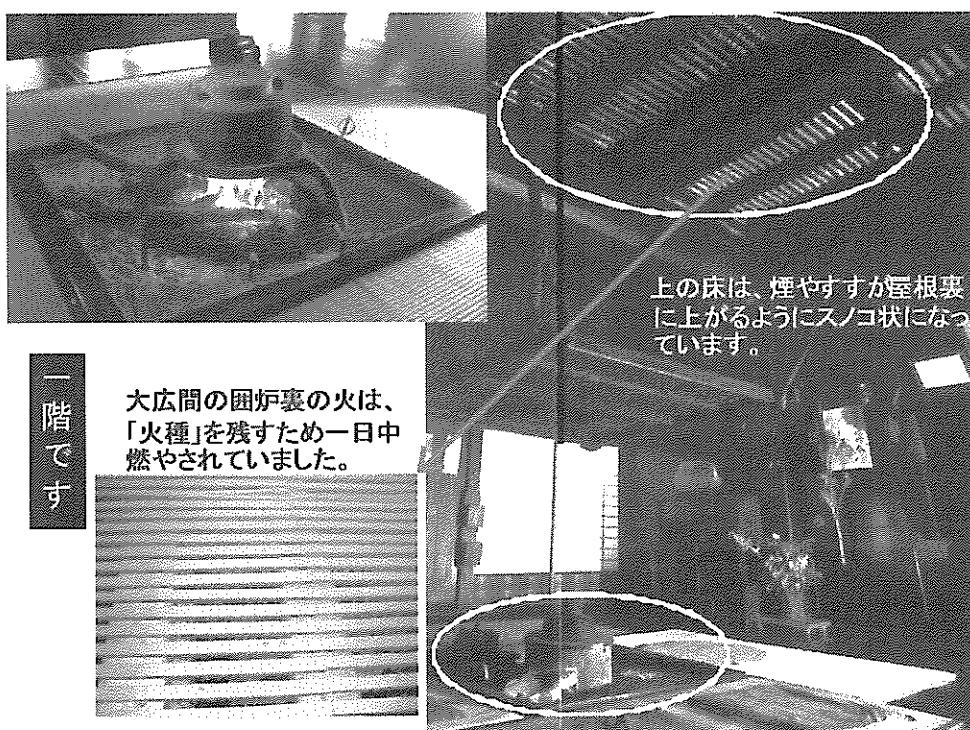
合掌造りとその集落の歴史を知ることで、自然と人、人と人がどのようなつながりのなかで中で、暮らしを築いてきたかを学習します。合掌造り集落に遺されていった相互扶助のつながりである結が、どのようなものであったかを知ることで、産業構造が変化し観光地化が進んだ白川郷・五箇山集落の歴史を確かめます。最後に暮らしと文化を守りつつ、観光業との共生をはかるには何を大切にしていけばよいか、ロールプレイで考えます。

ア・合掌造り集落に見られる生活の工夫について（気候から考える）



イ・合掌造り集落に見られる生活の工

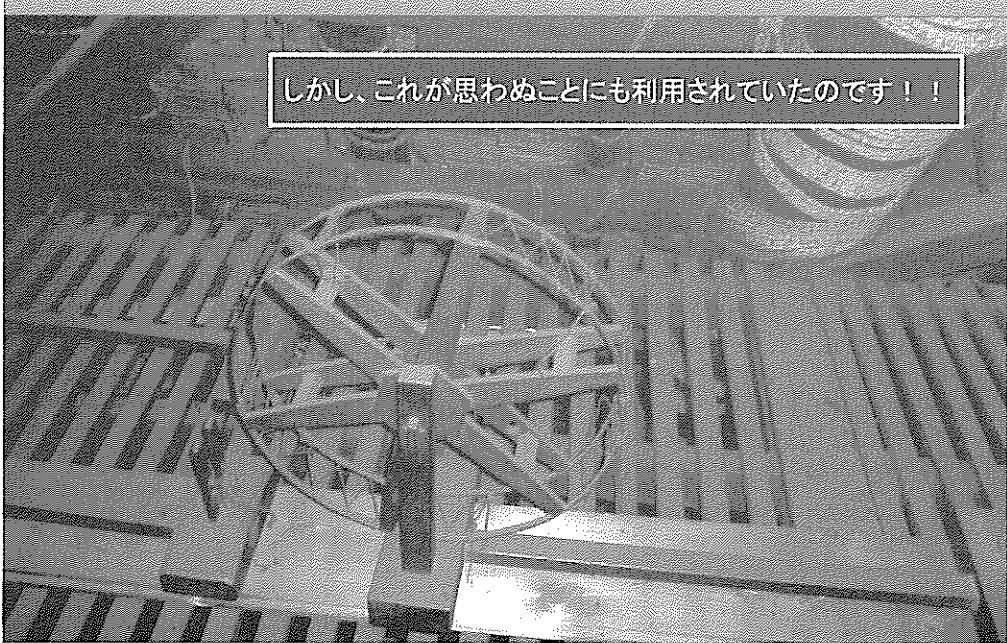
夫について（家屋から考える）



ウ・合掌造り集落に見られる生活の工夫について（産業から考える）

- 幕末から昭和初期にかけて、養蚕業が村の人々を支える基盤産業でした。
- 屋根裏部屋の大空間を有効活用するため小部屋を2~4層に分け、蚕の飼育場として使用していました。

しかし、これが思わぬことにも利用されていたのです！！



*他にも、根曲がりの木や、ネソ（生木のまま使われたネソと呼ばれるやわらかい木は、乾燥するとギュッとしまり、屋根の下地を強固にします。こうした柔軟な構造が、強風などの強い力を柔らかく逃がしています。）についてもふれる。

エ・結：人々のつながりについて

- 屋根の寿命は、昔は40年～50年でした。ところが、「囲炉裏を使う機会の減少」「芽の種類の変化」などにより、葺き替えの周期が短くなっています。

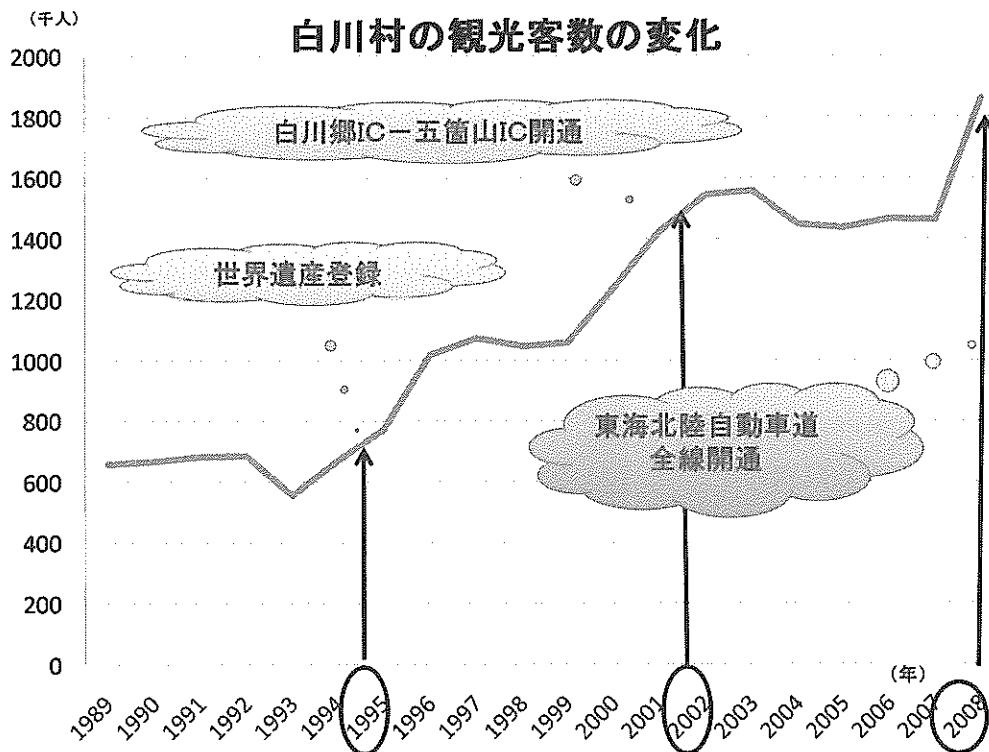
- しかし…こんなにあつくて大きな屋根の葺き替えなんて一人では無理ですよね。



○白川郷の伝統である「結」と呼ばれる相互扶助の精神での村一人総出の葺き替えによって(100人～200人の参加)毎日行われる。

*年月から、火災から、豪雪から、守り続けることが必要であったこと、そしてそれが多くの人のつながりによってなされていたことについてふれていく。

才・観光と生活産業の維持について





*世界遺産となって観光客が増えていくことは、その地域の経済の活性化にもつながる他、広く認知されていくというメリットもあります。しかし、本来、守り続けたいと思うものが、世界遺産に登録されたことで、難しくなっていくという別な側面も考えていかなければなりません。

(2) 「コルディリエーラの棚田群」の教材化

—伝統文化と生活を守るために、互いに支え助け合う人々の大切さを学ぶ—

①コルディリエーラの棚田群の概要

2000 年の歴史を持つ棚田は、自然と人間の調和を表す文化的景観として、1995 年に、世界遺産に登録されました。

ルソン島北部に 300 km に渡って連なるコルディリエーラ山脈の中部にあるイフガオ州には、古くから少数民族のイフガオの人々が住み、先祖伝来の文化を守り続けてきました。標高 700m から 1500m にわたり、稲穂の実る棚田はその美しさから、「天国への階段」と呼ばれています。これらの棚田の壁をすべてつなぎ合わせると 20000 km にも達し、地球のおよそ半周に相当するといいます。

ここでは、西洋文化の影響を受けることなく古代からの伝統が守り抜かれてきました。



ここに住むイフガオの人々の多くは、伝統的な木造の高床式住居で生活していました。屋根はかやの一種で葺いてあり建物には釘一本も使われていません。村の住民達は毎朝、徒步で水田へ向かい、幅のせまい高低差のある場所での農作業を行います。水田は狭くて農機具の導入は困難で、農作業のはほとんどは人の手によって行われます。棚田は高地に位置しているため、二期作はほぼ不可能です。耕作地に乏しいこの地方では必要な食料を手に入れるため、人々は工夫を凝らして土地を利用してきました。種まき、田植え、収穫、農閑期には田の壁や水路の補修などを行い、作業は一年中絶えることがない。棚田でとれた米のほとんどは自分達の村で消費します。しかし、現在では一年分の食料とするには収穫量が足りないため低地から米を買っているといいます。

田植えや収穫のときに歌われる素朴な歌として伝えられてきたのがフッドフッドです。およそ 40 の物語で構成され、ユネスコの無形遺産にも登録されました。そして、その歌と共に、先祖伝来受け継がれてきた農耕儀式もあります。儀礼を司るのは、ムンバキと呼ばれる村の呪術師です。先祖の靈魂、そして何百という自然界の靈たちを順番にムンバキが呼び出すことで儀礼が始まります。聖なる米の酒を口に運びながら豊作を願い、病から村を守るための祈りは夜を徹して続けられます。朝を迎えた村では、生贋の豚を捧げる準備を始めます。「人々の嫉妬のまなざしが水田の稻を燃やす。」ムンバキの唱えるこの言葉には、この世の災いや凶作をもたらす原因の一つは、人が誰しも持っている他人を妬み羨む気持ちだということを伝えています。神々に捧げた生贋を村人全員が食べるには、人々の間の妬みや恨みを沈める宗教的な意味が込められています。

しかし、こうした棚田や伝統文化を近年維持していくことが難しくなってきました。棚田での稻作には大変な労力がかかり、そのうえ収穫した米は自分達の食料となるため、収入には結びつきません。こうしたことから、現在若者達の稻作離れが進み後継者不足が大きな課題となっています。

近くの町にはホテルやマーケットもあり現金収入を得ることができます。ここでイフガオの人々は観光客相手の運転手や土産物屋の従業員として働きます。街での便利な生活に慣れた若者は泥にまみれる水田の仕事には戻ってはきません。こうして、棚田の手入れをする者が減り、田は荒れていってしまいます。現在 3 割の棚田がうち捨てられた状態にあります。

イフガオの人々によって守られてきた棚田や文化は、伝統を継承して、水田での耕作を続ける人がいて初めて次の世代に伝えることができます。このままでは「天国への階段」といわれるこの美しい風景が失われてしまいます。このイフガオの棚田と文化を守るために、新しい取り組みが求められているのです。

②コルディリエーラの棚田群の危機遺産登録の要因について

2004 年に行われた、沖縄国際フォーラムでフィリピン国家文化芸術委員会遺産保存官である Joycelyn B.MANANGHAYA (ジョイスリン・マナンハーヤ) は、コルディリエ

一ラの棚田群が崩壊しつつある要因を8点にまとめている。この8点を学習者用にまとめた資料を次に掲載します。

どうして危機遺産になってしまったの？

①若い人が村からいなくなってしまう！？

生活が苦しい農業をやめて、収入の多い都市の労働者として、若者が働きにでかけるようになってきました。

そのため、農村は高齢者ばかりになり、伝統的な生活を行えなくなり、フードフードについても諒い手が不足しています。

②近代的な生活が入ってきて・・・

生活に必要な道路・電気・水道・通信などが村に入ってきた。

生活は便利になったのですが、今までの伝統的な生活とはまったく異なる文化が入り、生活が大きく変化しました。テレビなどで流される映像が、若者をさらに都市へと向かわせます。

③伝統的な住居もなくなる！？

今まで、一つの部屋のみの高床式住居で、家族がよりそって生活していました。しかし、新しい建築様式が入り、かやぶきの家もほとんど見られなくなり、部屋の数も増え、近代的な家の生活が当たり前になってきています。

④棚田の作りが変わる！？

地球の半周にも相当する棚田の壁は、石や粘土で作られていましたが、近年はセメントへと変わっています。また、道路もアスファルトで整備されるようになり、棚田の作り方も以前とは異なってきています。

⑤棚田の景色も変わる！？

新しい建築物や未完成のビルが次々と建っていき、以前の美しい森林に囲まれた景観が失われつつあります。開発を優先するあまり、棚田の美しさを守ろうとする気持ちが失われていっているのです。

⑥水が・・・

無計画に森林を伐採したり、焼き畑農業を行ってきたために、水を蓄えることができなくなっています。そのため、昔ながらのかんがい設備が機能しなくなってしまいました。また、これを維持するための人手も不足しています。

⑦気候が変わると・・・

近年この地域では、干ばつなどの不順な気象状況が見られます。干上がった棚田が、雨季の間に激しい侵食を受けて崩れてしまうのです。人手不足により土地の手入れが行き届かないこともあります、「天国への階段」と呼ばれた美しい景観が保てなくなっています。

⑧生態系が変わる！？

住民の生活を向上させるために、この地域には以前いなかった動植物（食用目的の日本のタニシなど）が入ってきて、この地域の生態系をこわしていっています。また、収穫を増やすために他の品種を栽培することの環境への影響も心配されています。

③授業のねらい

- イフガオの人々の伝統的文化について理解し、コルディリエーラの棚田が人間の知恵と工夫と努力によって築かれていることに気づく。
- イフガオの人々の伝統的な生活を維持するのが難しくなっていることを、環境破壊による棚田の崩落・近代化に伴うライフスタイルの変化・後継者不足など様々な角度から考える。
- イフガオの人々の文化と伝統を守り、棚田の景観を維持すると共に、イフガオの人々の生活を守っていくためにはどうすればよいのかを話し合う。そして、互いに支え助け合う人々の絆やつながりの大切さについて考える。

④導入「コルディリエーラの棚田の写真を見て、自由に気づいたことや感想を話し合う。」

この活動については、事前学習とのつながりを図る必要があります。事前学習で、児童・生徒の身近にある棚田を調べさせ、棚田とは何か理解させておく必要があります。そうすることで、コルディリエーラの棚田がいかに規模が大きく美しいものであるかを実感させることができます。ここでは、棚田の美しさから、この景観を守りたいという気持ちを引き出すことができればよく、展開の活動につなげていきたい。

⑤展開1 「棚田で農業を行っていくうえで困ること不便なことはないか考えよう。」

困難な理由であるが、棚田の規模の大きさから考えさせていきたい。具体的には、棚田は高冷地になってしまふため、二期作ができないこと、農作業用の機械を入れることが難しいこと、農作業を行うために、山道を上り下りしなければならないことなどを写真から読み取らせたい。

その後、資料から、棚田の灌漑整備や伝統的家屋の工夫、すべて人の力で行う農作業のあり方について読み取らせ、そこには村の人々の協力と努力があったことに気づかせていきます。

棚田の美しさは、人々の協力と努力により、自分たちの生活を守るために行われた結果生み出された産物であり、自然そのものの美しさとは異なることにも気づかせていく。同じような世界遺産として、日本の五箇山・白川郷の合掌造りがあげられる。合掌造りも、生活の工夫から生み出された家屋が連なることで、その美しさができあがっています。また、この生活を維持するために、一つの家族だけではなく、村全体のつながり、共同体としての機能が維持できなければ存在できないという点でも共通性が見られます。

そして、次の学習活動に入る前に、イフガオの人々の文化やフッドフッド詠唱について紹介したい。イフガオの人々の農耕儀礼や文化は、棚田での生活の工夫の一つでもあると言えます。

また、他の人への嫉妬や妬みを戒めるムンバキの言葉は、現在の棚田の抱える問題点

をすでに、予期し暗示していたのかもしれません。つながりが絶たれれば、イフガオの生活は成り立たないということを。

展開2 「この村で伝統的な生活を送っていくことが難しくなっているのはなぜか話し合ってみましょう。」

この活動では、大きく2つのアプローチから児童・生徒に考えさせていきたい。

一つは、環境面からのアプローチである。棚田が崩れて放置されている写真を見せ、なぜ、棚田が崩れてしまったのか、修復できない理由を考えさせる。

もう一つのアプローチは、生活の変化である。イフガオの人々の村近くのにぎわう街の様子をあらわす写真を見せ、若者の移住による後継者不足の問題を考えさせていく。

どちらの側面も、先に述べた8つの危機遺産登録の要因を例に出して考えさせていきたい。

展開3 「イフガオの人々の文化・伝統を守り、棚田の景観を維持すると共に、イフガオの人々の生活を守っていくためにはどうすればよいか話し合おう。」

イフガオの人々の文化・伝統を守ること、棚田の景観を維持すること、イフガオの人々の生活を守ること、この3つが共に成り立つためにはどうすれば良いのかを、ロールプレイなどの方法を使いながら考えさせていきたい。

文化や伝統、景観を守るために、生活を犠牲にすることは許されません。ましてや、その地域で実際に生活していない人々に、それを守っていくべきと強制されるものでもない。大切ななものであるから、それを守るためにはどうすれば良いかと考えます。

現在、イフガオの人々にとってさえ、この文化が大切なものかどうか分からなくなっています。この問題に向き合い解決を模索しはじめているのが、日本ユネスコ協会連盟の「イフガオの伝統的文化継承プログラム」です。この取り組みは、イフガオの子どもたちに自分たちの文化や伝統を学校の中で伝えていく活動を中心としています。その結果、この地域の人々に、フードフードの詠い手になりたいという気持ちを持つ若者を増加させ、今まで気づくことができなかった自分たちの文化の良さをあらためて認識させています。今まででは、イフガオの人々だけで、この地域の伝統や文化を守り続けてきました。しかし、これまで考えてきた様々な要因により、イフガオの人々のつながりだけでは、この文化を維持できなくなっています。だからこそ、その地域の人々だけでなく、周囲の村、フィリピン、そしてアジアの国の人々による新たなつながりが必要なのです。

⑥まとめ 「私たちの身のまわりにある棚田について考えよう。」

日本の農業が抱えてきた問題は、イフガオの人々の問題と非常によく似ています。環境問題、後継者不足、農家に伝わる伝統的な祭りの衰退など。日本の国内でも課題は多くあるが、その中でも、その解決に向けていくつかの方法がとられています。棚田の保

護に向けては、棚田学会などを中心に論議されており、棚田オーナー制度のような試みもなされています。また、グリーン・ツーリズムや農業体験観光もある一定の効果を果たしています。こうした日本の取り組みが、イフガオの棚田を守る新たな方法につながっていくことも期待できるのではないかでしょうか。

学習指導要領の改訂に伴い、地域の文化の良さを児童・生徒に伝えていくことが、より強調されるようになりました。今まで以上に、地域の文化を伝えていく学習も増えていくと思います。

4. おわりに

2009年12月2日の朝日新聞の夕刊記事「棚田に響け 子の詠唱」によれば、学校でフッドフッドの授業が導入され、フッドフッドを詠うことが、再び人々の誇りになりつつあると伝えています。この記事の中には、民族衣装を着て、棚田で

棚田オーナー 田植えに汗 岩美町洗井

「日本の棚田100選」に選ばれている横尾の棚田（岩美町洗井）で16日、棚田オーナーや鳥取環境大、鳥取大の学生ボランティアらが参加して田植えがあった。好天の中、参加者は頭からタオルをかぶって日よけをするなどして作業に汗を流した。

田植えは、地元農家らが1998年につくった「いがみ田を守る会」（平井貞夫会長、10人）が、都市部の住民らを棚田オーナーに迎えて続けており、今年で13回目。

棚田は石積みでなく土を固め

家族連れで訪れたオーナーは急傾斜の山腹に登ると、農家から指導を受けながら、以前は休耕していた棚田へ手分けして苗を植えていった。別の棚田ではサツマイモやマコモダケの植え付けもした。半日がかりの作業の後は、同町鳥越の「鳥越どんづまりハウス」で昼食会。地元の女性らが作った塩にきりや山菜の天ぷら、イノシシ汁などを味わった。

平井さんによると、横尾の棚田は石積みでなく土を固め

棚田オーナー 田植えに汗 岩美町洗井

てできているのが特徴。あぜに生える草は肥料や家畜のえさになる方面、地域の高齢化と都部への人口流出が進んだ今では管理が大変という。

平井さんは「よう作らん」と休耕する人が増えたが、先祖が苦労して作った棚田を少しでも残していきたい」と話す。

平井さんは「よう作らん」と休耕する人が増えたが、先祖が苦労して作った棚田を少しでも残していきたい」と話す。

7月に水路掃除、9月に稻刈り、11月に収穫祭が予定されている。問い合わせは岩美町産業建設課（0857・731562）へ。（中田和宏）



横一列に並んで棚田に苗を植える参加者ら。上の棚田ではサツマイモが植え付けられた=岩美町洗井

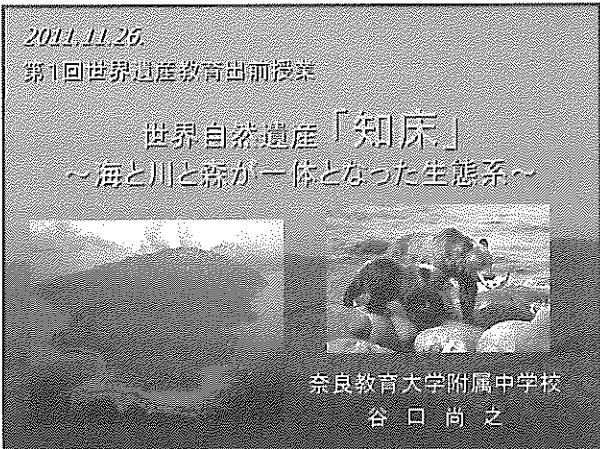
フードフードを詠う子どもたちの写真も紹介されています。また、日本ユネスコ協会連盟が行う「イフガオの伝統的文化継承プロジェクト」の取り組みでも、参加した学生から、「自分たちの村には、誇りに思うべきものがたくさんある。若い世代の人々は自分たちについて関心を持たずに育っていくべきではないと思うので、私は、彼らとの橋渡し役になりたいと思っています。」という感想が寄せられています。また、この活動には日本から多くの人々が参加し、日本人々の中にも、その文化の素晴らしさに共感し守っていきたいという気持ちが広がっています。

もちろん、経済的な問題や森林破壊などの問題は、すぐに解決できるものではありません。しかし、「大切だからこそ守りたい。」という気持ちが、住民にも周りの人々にもわきあがってこなければ、世界遺産に指定されても、次世代に受け継いでいくことは困難です。

今必要なことは、今までのつながりだけではなく、もっと大きなつながりを作ることだと思います。イフガオの村からフィリピンへ、そして日本を通して、アジアから世界



の国の人々のつながりへと広がっていけば、必ず解決の方法が見えてくるのではないかでしょうか。こうしたつながることの大切さは、単に世界遺産を学習するだけではなく、児童・生徒の身近な問題に置き換えて考えることもできます。この「連帯・人のつながり」の教材を通して、人がつながることで形成されたものであるならば、人のつながりによって、それを取り戻すことができるという確信を得させたいと願っています。



「出前授業～『知床』～」の概要

- 世界遺産「知床」の持つ「顕著な普遍的価値」とは?
 - (1)登録基準に照らして
 - (2)世界遺産教育の教材としての「知床」の価値
 - 「知床にしかない顕著な普遍的価値」の学習
 - 世界遺産への登録は「ゴール」ではなく、「スタート」であることの学習=世界遺産を通したESD
- 「知床」の授業づくりの実際
 - (1)授業のコレセフト
 - (2)授業のねらい～学ばせたいこと～
 - (3)授業の対象となる学年や教科・領域
 - (4)学習展開の例

1. 世界自然遺産「知床」の持つ顕著な普遍的価値(Outstanding Universal Value)とは?

(1)登録基準(クライテリア)に照らして

- 2005年7月の南アフリカ・ターバンでの第29回世界遺産委員会で登録が決定
 - …日本で13番目、自然遺産として3件目
- 2つの登録基準(クライテリア)に該当
 - (ix)[当時の自然遺産の ii]＝生態系
 - (x)[当時の自然遺産の iv]＝生物多様性

○登録基準(ix)
「陸上・淡水域・沿岸・海洋の生態系や動植物群集の進化、発展において、重要な進行中の生態学的過程又は生物学的過程を代表する顕著な見本である。」

知床は北半球で最も低緯度に位置する季節海水域であり、季節海水の形成による影響を大きく受け、特異な生態系の生産性が見られるとともに、海洋生態系と陸上生態系の相互関係の顕著な見本である。

○登録基準(x)
「学術上又は保全上顕著な普遍的価値を有する絶滅のおそれのある種の生息地など、生物多様性の生息域内保全にとって最も重要な自然の生息地を含むる。」

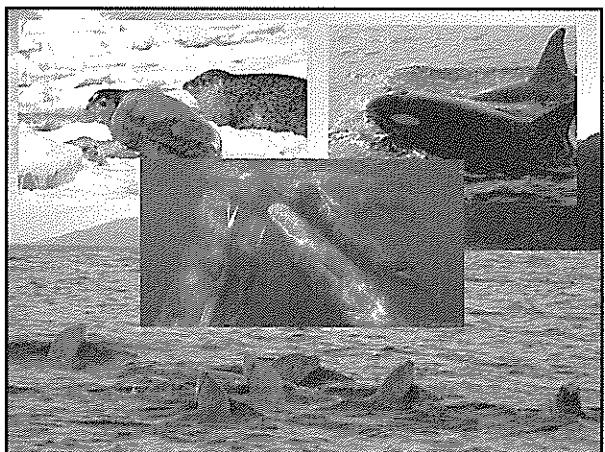
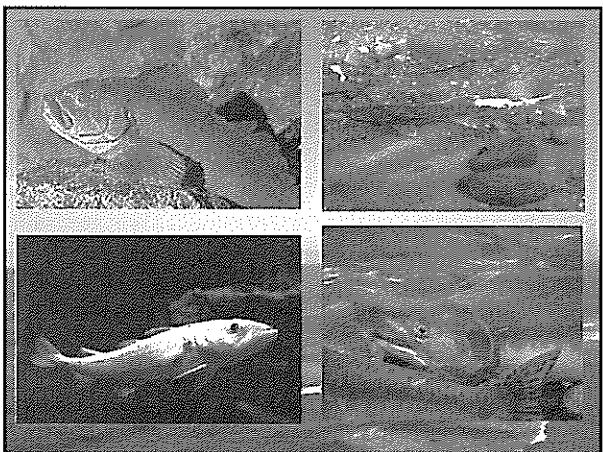
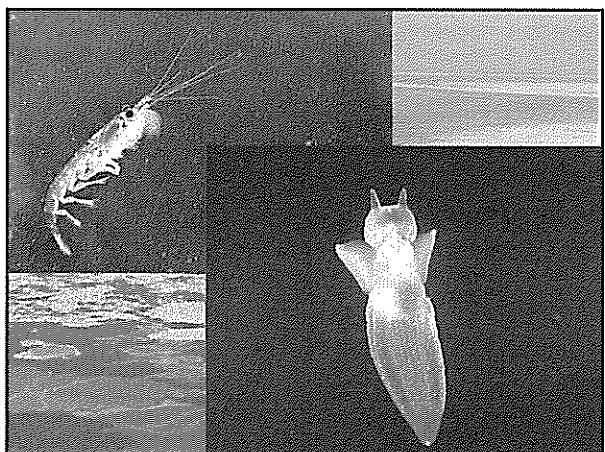
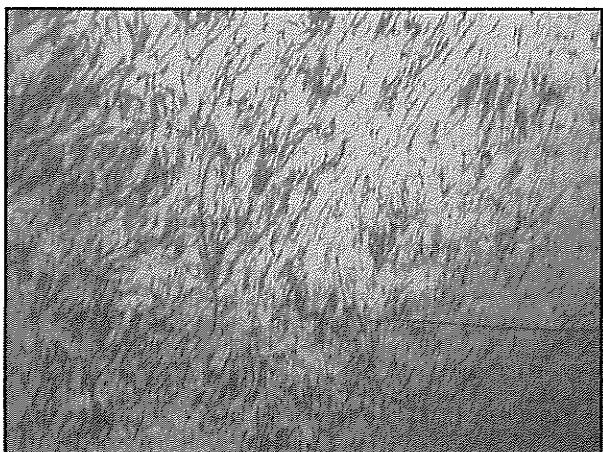
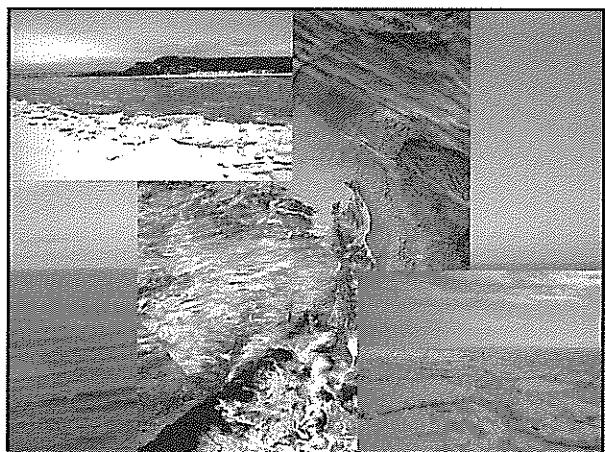
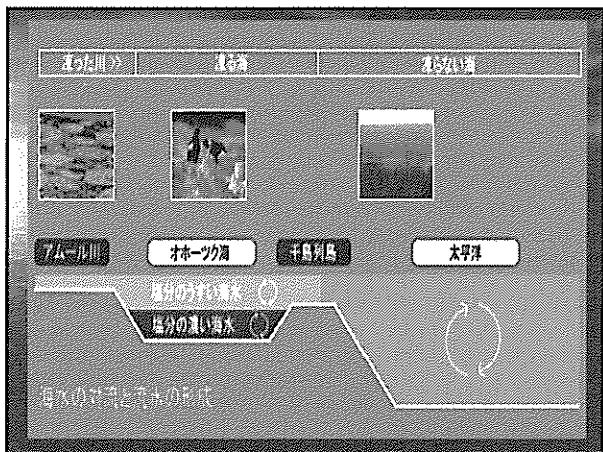
- ・知床は多くの海洋性及び陸上性の種にとって特に重要であり、これらの中にはシマフクロウ、シレトコスマレなど多くの希少種が含まれている。
- ・知床は多くのサケ科魚類、トドや鯨類などの海棲哺乳類にとって世界的に重要である。
- ・知床は世界的に希少な海鳥類の生息地として重要であるとともに、渡り鳥類にとって世界的に重要な地域である。

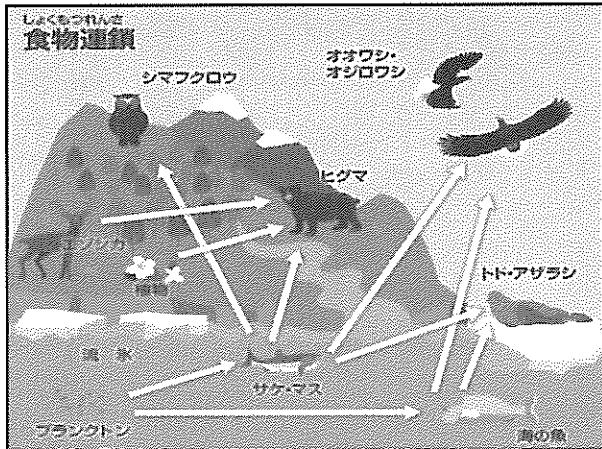
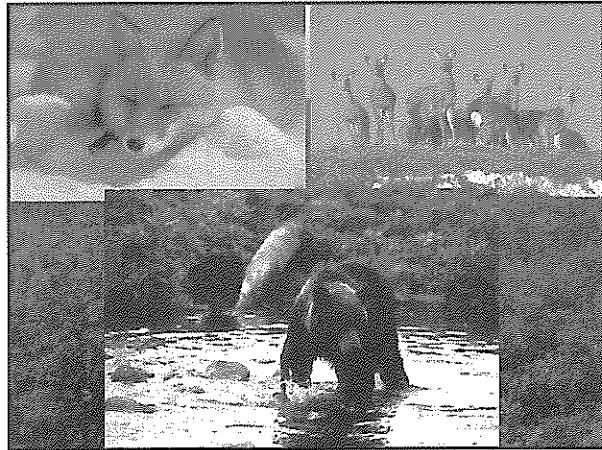
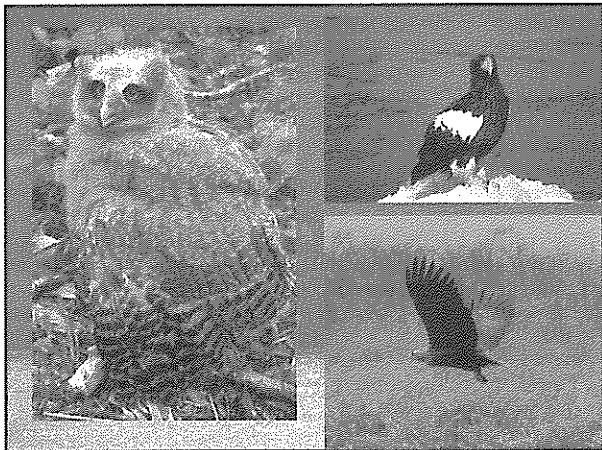
(2)世界遺産教育の教材としての「知床」の価値

(1)知床にしかない顕著な普遍的価値

- ぐ「季節海水の影響を受けた、海と川と森が一帯となった生態系がみられること」
- ぐ「多くの国際的希少種の動植物の繁殖地や越冬地になっていること」

海と川と森の各生態系をつなぐダイナミックなリンクの源=海水



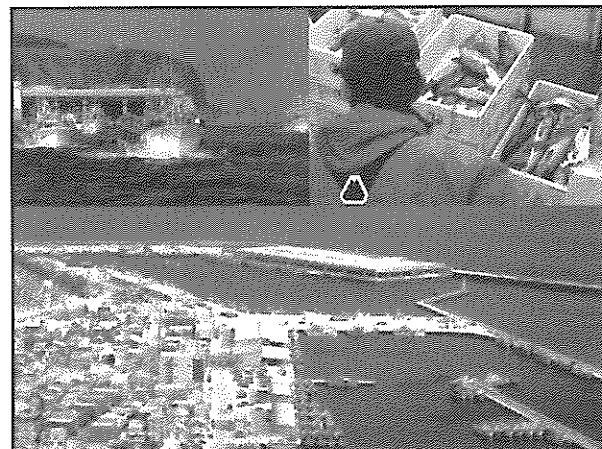


②世界遺産への登録は、「ゴール」ではなく、「スタート」である。

過去の世代から託された「地球のたからもの」を未来の世代に継承するために、何をしなければならないか、何をしてはならないかを考え、行動に移す義務を負うこと。

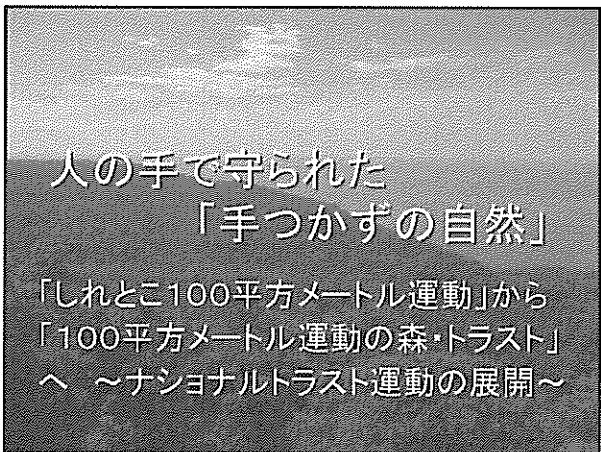
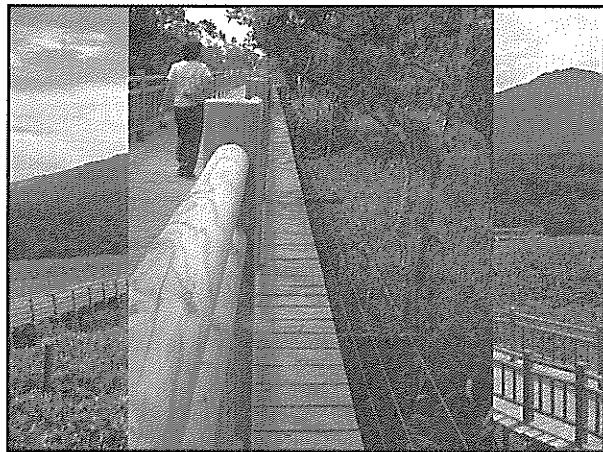
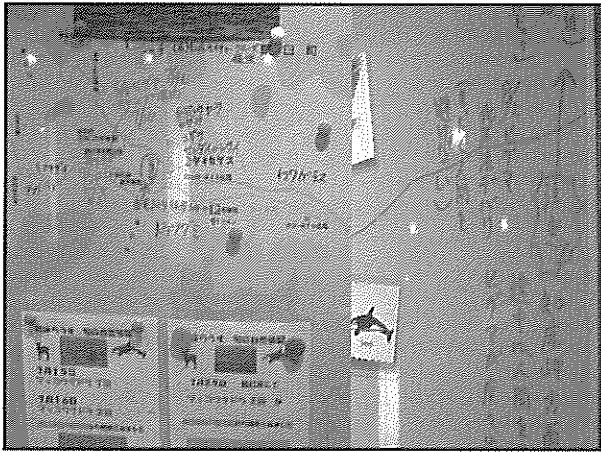
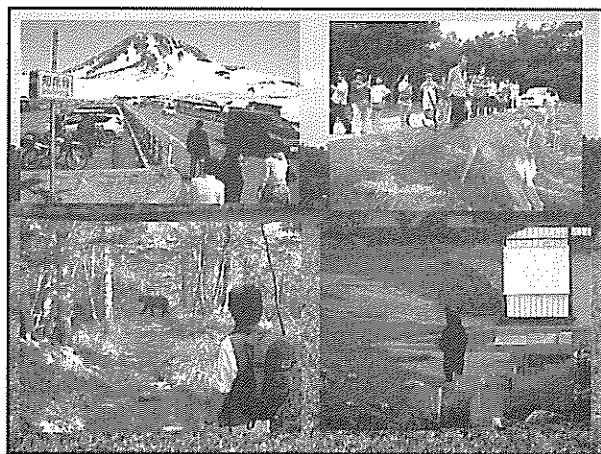
登録に際して出された“宿題”

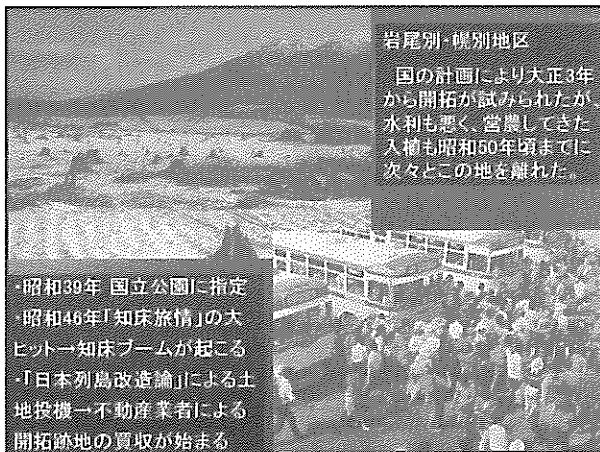
- 1 遺産地域の海域部分の境界線を海岸線1kmから3kmに拡張するための手續が法的に確定した段階で、地図等を世界遺産センターに送付すること。
- 2 登録後2年以内に、海域管理計画の履行の進捗状況と遺産地域の海洋資源の保全効果について評価するための調査団を招くこと。
- 3 2008年までに完成される海域管理計画の策定を急ぐこと。その中では海域保全の強化方策と海域部分の拡張の可能性を明らかにすること。
- 4 ナケ科魚類へのタムによる影響とその対策に関する戦略を明らかにしたサケ科魚類管理計画を策定すること。
- 5 評価書に示された他の課題(観光客の管理や科学的調査などを含む)についても対応すること。





ルシャ川のダムに作られたスリット、
水が落ち込む部分は約60センチ
の段差があるが、段差に小さな切
れ込みを複数入れることで、魚が
逆上しやすくしてある





2. 「知床」の授業づくりの実際

(1)授業のコレセプト

- 海と川と原生の森が育んだ多様な生態系がみられる知床の自然をとおして、「いのちのつながり」をとらえさせる。
- 野生の動植物と人間が共生するために、私たちが「できること」と「してはならないこと」を考えさせる。

(2)授業のねらい

- 1 知床の生態系は、海水に付着したプランクトンに始まる「海と川と森が一体となった生物連鎖(いのちのつながり)」が育んでいることを理解する。
- 2 知床には、野生動植物と人間との共生をめぐる問題(観光のあり方やサケ類の遡上を妨げるダムの問題、漁業問題など)があることを知る。
- 3 それらを解決していくための知恵と行動が、知床の自然を未来に受け継ぐために大切であることを知る。
- 4 知床の貴重な自然環境は、これを保護し受け継いでいた幾多の人々の積極的な努力に支えられてきたことを知る。*2のダム問題や漁業問題と4のねらいは、「総合」等で2時間構成が可能な場合

(3)授業の対象となる学年や教科・領域

- 小学校5年生「社会科」の「我が国の国土」
- 中学校「社会科」地理的分野の「日本の様々な地域」
- 中学校「社会科」公民的分野の「私たちと国際社会の諸課題」
- 小学校・中学校「総合的な学習の時間」

世界遺産－知床

北海道の先端に位置する知床半島は、世界遺産の一つとして登録されています。豊かな自然環境と、その豊かな生物多様性が評価されました。知床半島は、山岳地帯と海岸地帯、森林地帯と湿地地帯など、多様な地形があります。また、気候も季節によって大きく変化します。春には雪解け水による川が豊かになります。夏には、木々が茂り、涼しい気温になります。秋には、紅葉が見られます。冬には、雪が積もり、白銀の世界になります。また、生物多様性も豊かです。陸上では、シカ、クマ、オオカミなどの大型哺乳類や、多くの鳥類が見られます。水中では、サケ、マグロ、タラなどの魚類や、アザラシ、クジラなどの大型哺乳類が見られます。また、植物多様性も豊かです。山岳地帯では、高山植物が見られます。海岸地帯では、海岸植物が見られます。また、湿地地帯では、湿地植物が見られます。これらの多様な生物多様性が、知床半島の特徴です。

小学社会5年下(教育出版)H23年～

(4)学習展開の例

～中学校社会科「地理的分野」での学習を想定して～

◇導入

○知床のロケーションを確認させる

- ・地図帳(掛地図)で「知床半島」「オホーツク海」「アムール川」などの位置を確認

○付録のDVDを視聴し、知床の自然の素晴らしさを感じ取らせる

- ・(展開1)の「海～川～森の“いのちのつながり”」を考察するヒントがあるので、メモを取って、しっかりと見るよう指示する

展開1 ……ねらい①

Q 「ヒグマは海を食べ、知床の森は海に育てられている」ってどういう意味かな？

写真①



- ・配付されたフラッシュカード(付録のカードシートから作製)を班ごとに相談して並べ替え、知床の生態系を維持する「いのちのつながり」のしくみを考える。

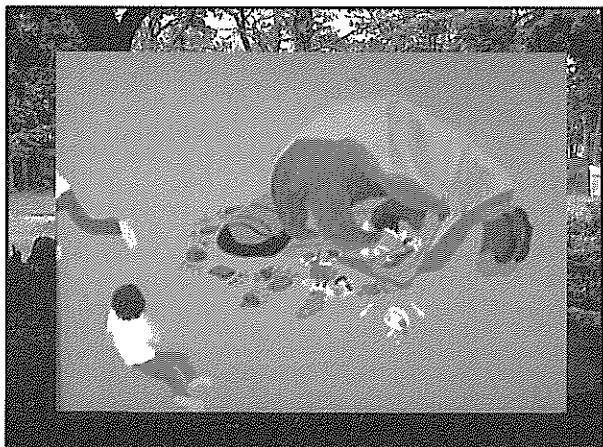
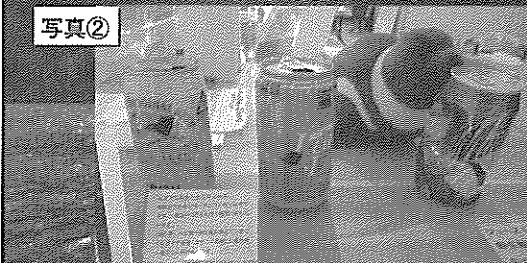
展開1のまとめとして 「ワークシート1の穴埋め」

知床は()が接岸する北半球最南端の地です。この()がもたらす大量の()が()などの魚介類のエサとなり、その()などが河川をさかのぼって、()やワシなどに食べられ、これらの動物のふんや死骸が植物の栄養となることで知床の()を豊かにしています。知床には、こうした海と陸が一体となった「食物()」が見られる貴重な自然環境が残っています。

展開2 ……ねらい②・③

Q 写真を見て考えよう。
「この写真②は何かな？」

写真②



⑨ 人間の食べ物の時を見えたヒグマはどのような行動を起こすでしょうか。それは、私たちの暮らしにどのような影響を与えるでしょうか。

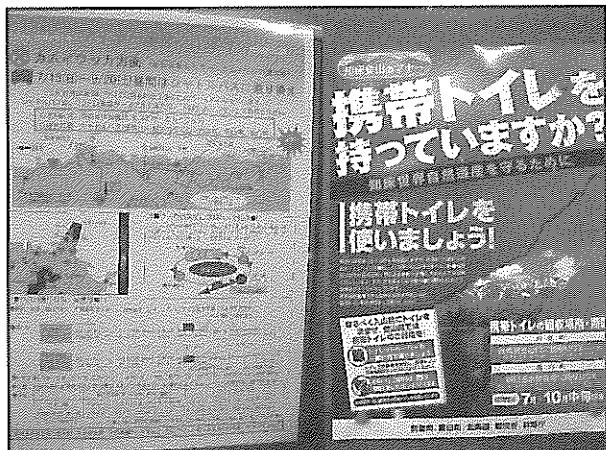
展開2のまとめとして

・・・「ワークシート2」の問い合わせに答える
こんなとき、あなたなら、弟やお父さんにどんな言葉を
かけ、どのように行動しますか。

夏休みに家族で知床を訪ねました。レンタカーで国道を移動していると、目の前にエゾシカが現れました。お父さんは写真を撮ろうと車を止め、カメラを持って近づきました。でもエゾシカは逃げません。お腹を空かしているようです。それに気付いた弟は、自分の持っていたお菓子をシカに与えようと袋から取り出しました。

資料③「自然と正しく ふれあうときのマナー

- 1 野生動物に近づかない！
 - 2 絶対に餌を与えない！
 - 3 ペットを連れて歩かない！
 - 4 車の走行はゆっくりと
 - 5 遊歩道や登山道から外れて歩かない！
 - 6 植物を採取しない！
 - 7 ゴミを捨てない！



- 89 -



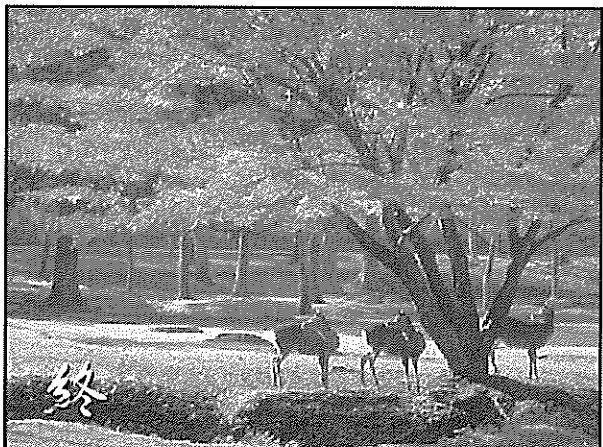
「まとめ」
ワークシート3の問い合わせを考える

アメリカ合衆国ロッキー山脈の中央部にあるイエローストーン国立公園(自然遺産)では、山火事が起きたとき、その消火を最小限に抑えています。

また、20世紀末に絶滅したオオカミを九十九から人間が「移植」しました。なぜこのようなことをしたのでしょうか。

Tomio Yoshihito

自然を保護し、人間が野生生物と共生するためには、どのような考え方や行動が大切か？



*自然遺産の 観光地化について

～ガラパゴス諸島を例に～

奈良市立飛鳥小学校
松浦 嘉

*世界遺産キッドの使い方

- ・教材キッドは...
料理でいうところの材料とレシピ
- ・調理法は教師力
- ・できた料理はESD・世界遺産学習
- ・食べたら自分の中で「力」になる

世界遺産が
観光地化することをどう思いますか？

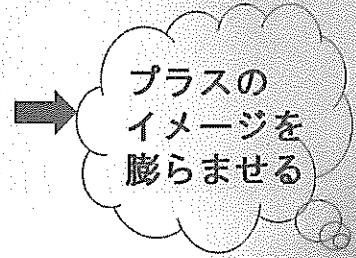
賛成

反対

どちらでもない

*①ガラパゴスの魅力を伝える

- ・写真から
- ・ビデオから
- ・掲示資料から



*②観光地化による被害を伝える

観光地化に必要なこと

- 観光業者
 - ・ホテル
 - ・飲食店
 - ・下水道 など

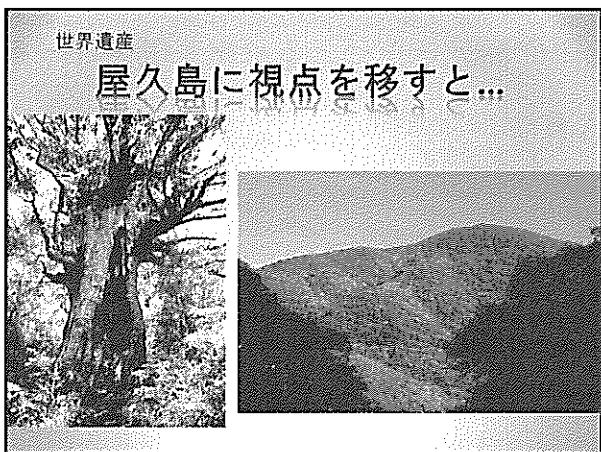
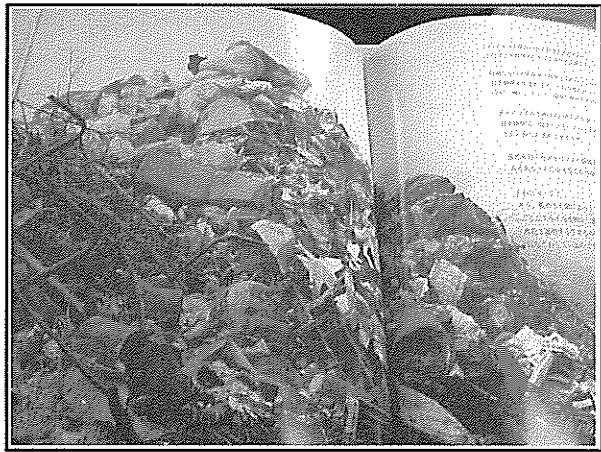
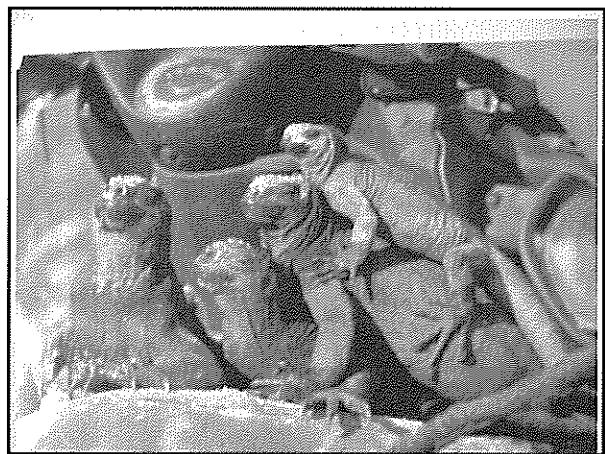
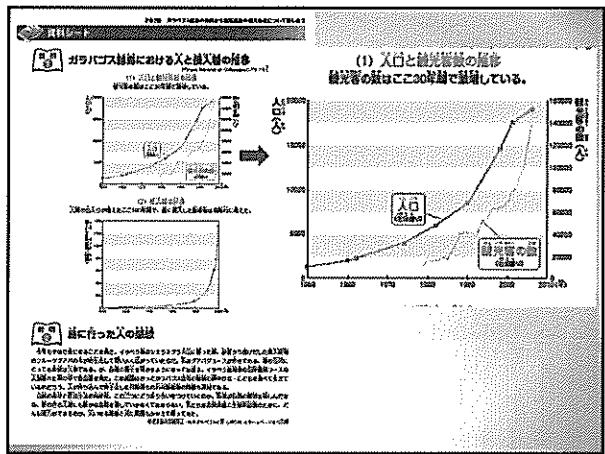
観光業はもうかつたけれど
…

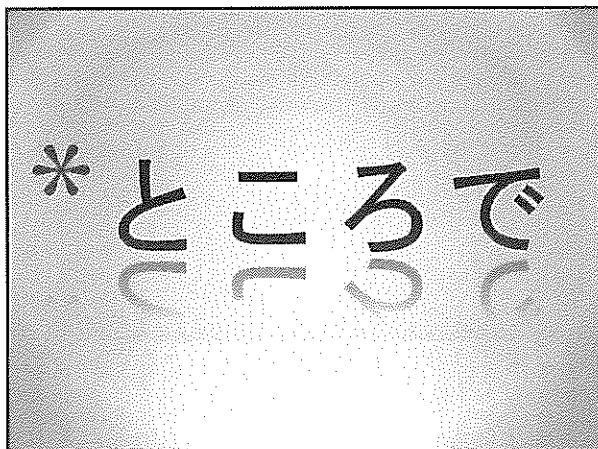
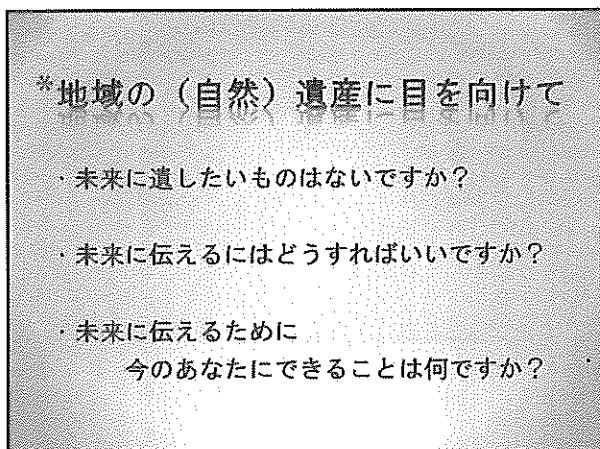
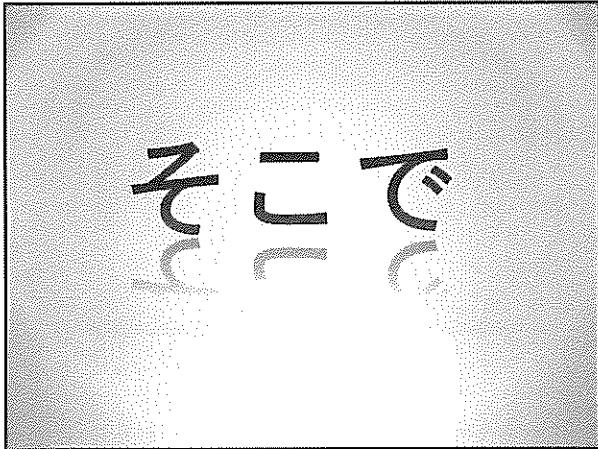
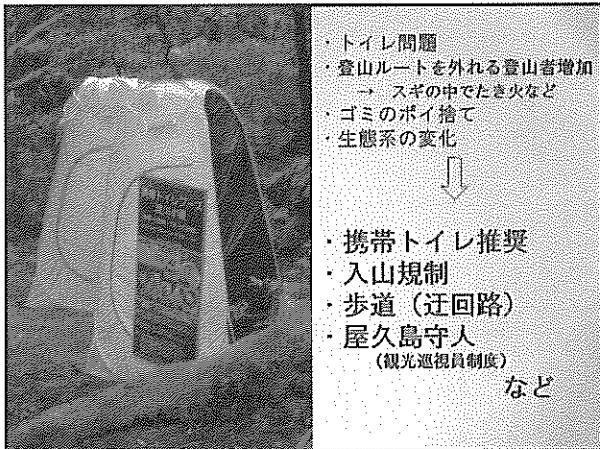
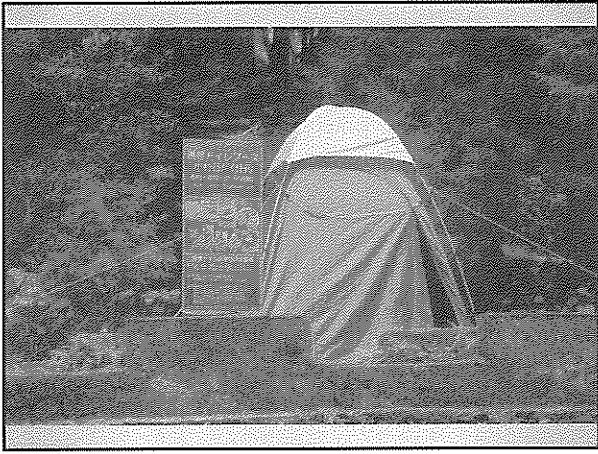
人口増加

- 観光客
 - ・港、空港
 - ・道路整備
 - ・ガイド、通訳 など

→
…
・ごみ問題
・生態系の変化

危機遺産リスト





*世界自然遺産 小笠原諸島

2011. 6 世界遺産に登録

・位置

東京竹芝桟橋から小笠原丸で25時間

1000キロメートル離れている

・特徴

東洋のガラパゴスといわれている。

今まで一度も大陸と陸続きになつてこないため、

独自の進化をした動植物（固有種）がたくさんいる。

父島人口2000人、母島人口400人。

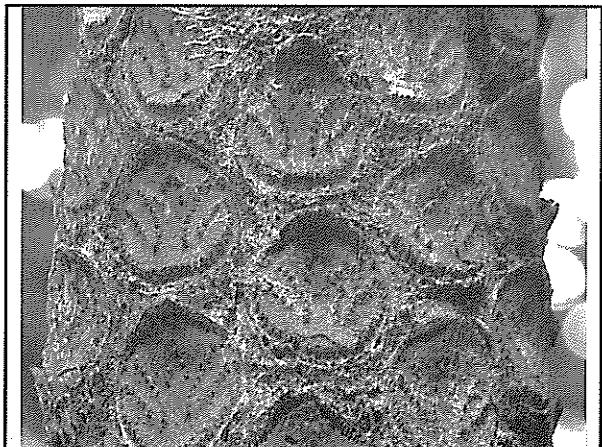
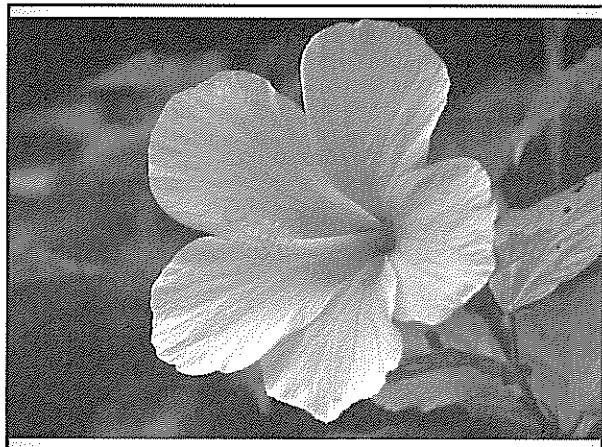
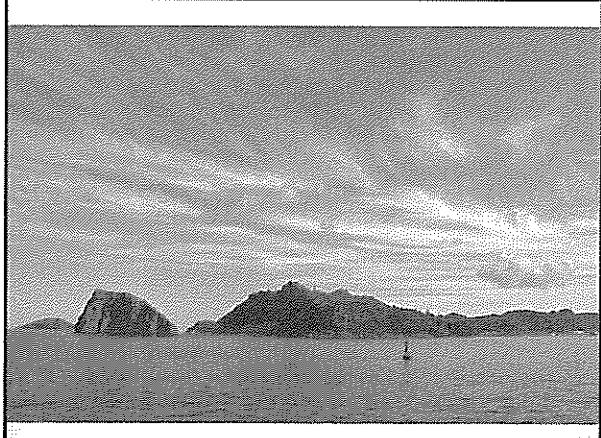
戦争遺跡（砲台跡、沈没船）などが多數残る

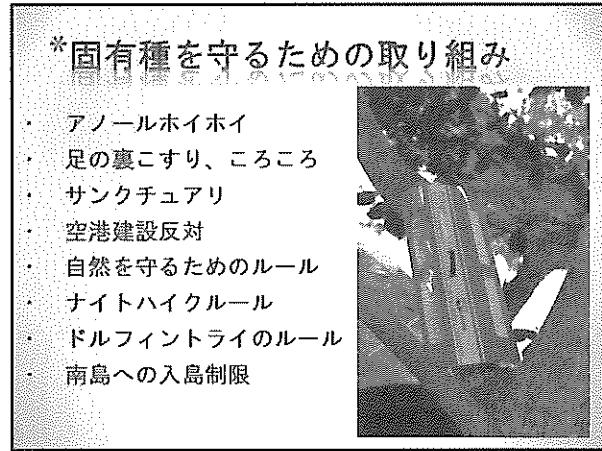
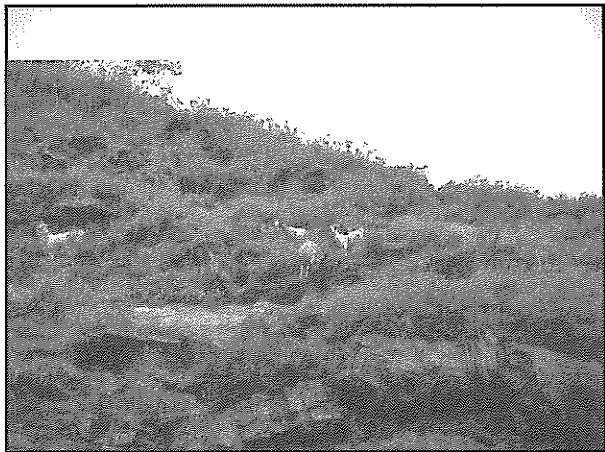
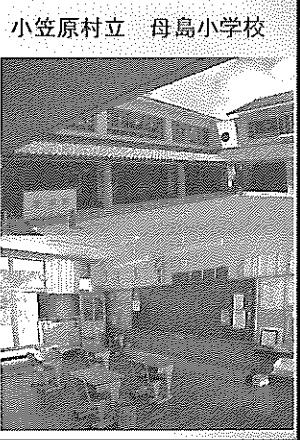
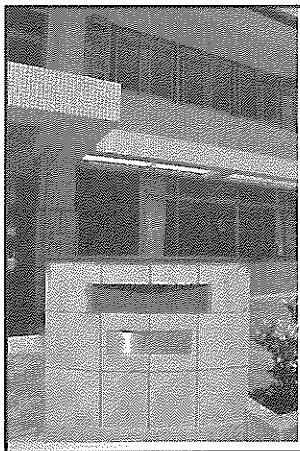
車の多くは品川ナンバー

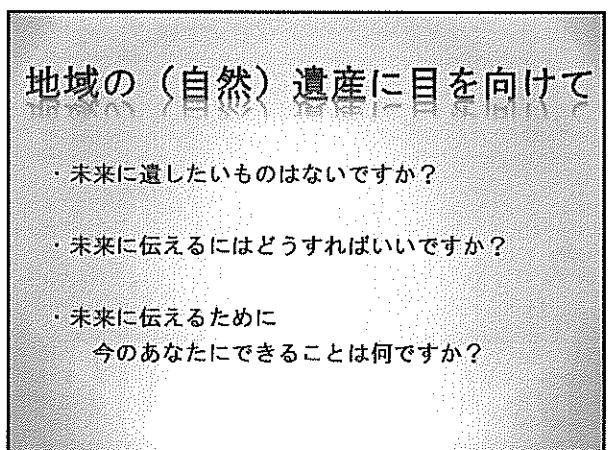
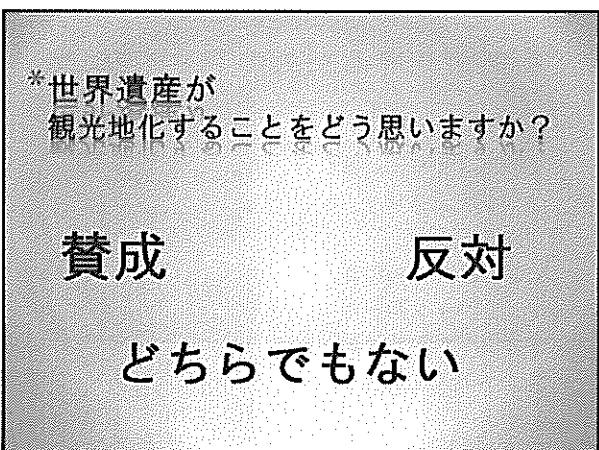
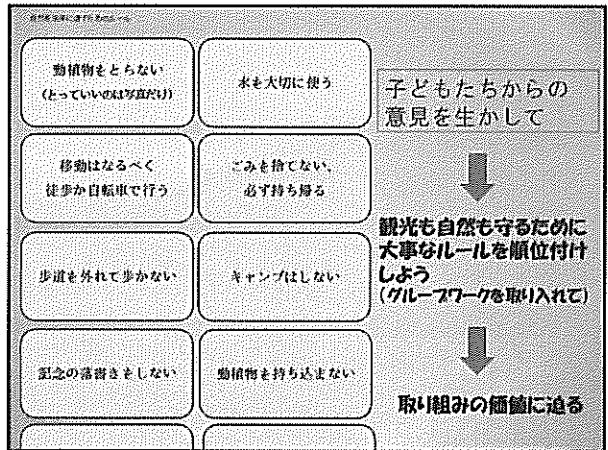
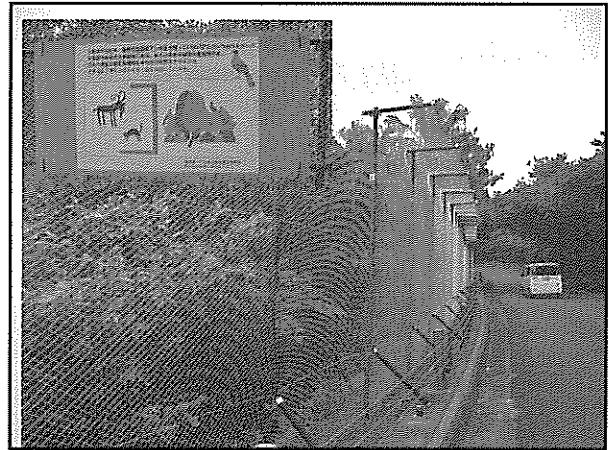
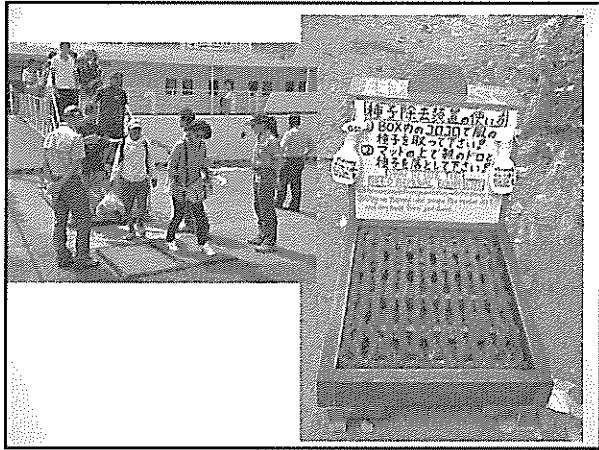
・観光業がメイン

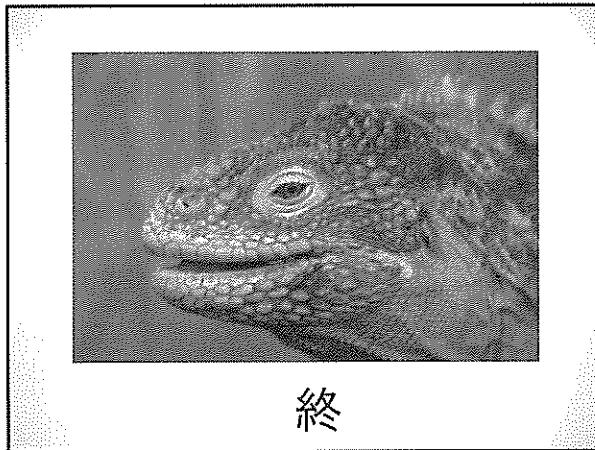
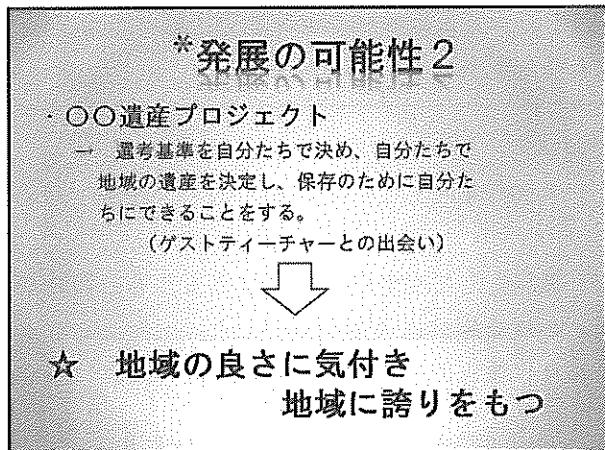
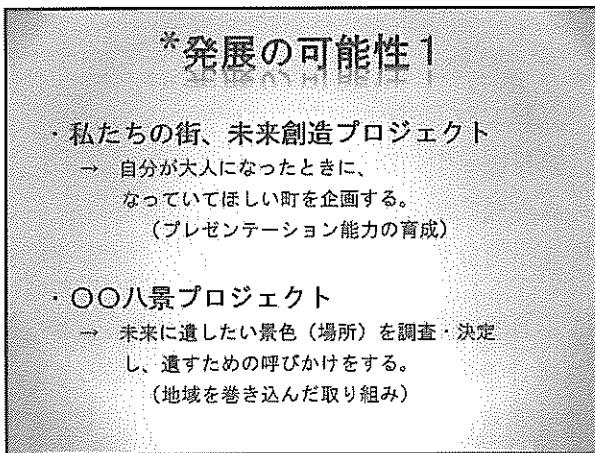
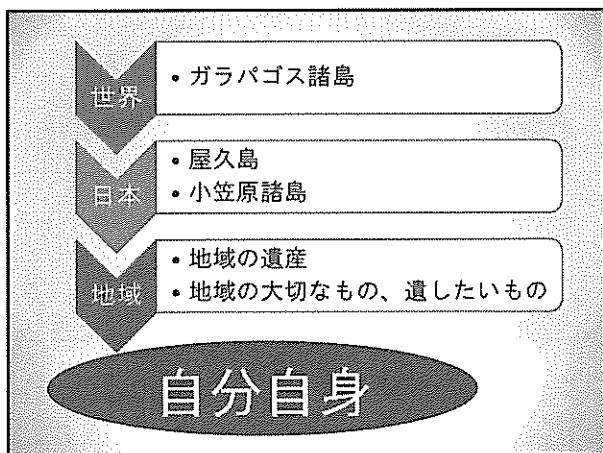
民宿、飲食店、スキューバダイビング、ドルフィンスイム、

ハイキング、ナイトツアー、戦争遺跡めぐり など









アンケート内容

1. 学校での ESD の取組について
2. 教材キットの活用について
3. 世界遺産教育出前講座の感想

【岡山市開催】

1. ESDなのかどうか分かりませんが、中1→中2→中3と連続して、「人権」「平和」の勉強を総合の時間を使って、取り組んでいます。
2. 社会科担当なので、教科書の記述と関連させて使ってみたいです。
地（白川郷・イースター島）、歴（大仏・アウシュヴィッツ・原爆ドーム）、公（人権がらみでローベン島）どの分野でも使えそうな魅力的な教材です。
3. ESDの名前は聞いた事がありましたが、具体的に、どう取り組めば良いのかが今ひとつ…
今日のお話、DVD、ワークシートを使った例を見る事が出来て、とても勉強になりました。班学習とかワークシート、学習カードを使うと生徒同士のコミュニケーション能力、思考能力とか高められそうで、知識伝達型になりがちな授業にも変化をもたらされそうです。

1. 環境基礎・環境演習など学校設定科目で環境問題学習に取り組んでいる。
「やかげ学」という地元の町へ出て、職場の方々と共同作業をしていく時間を持ち、地域生活の維持をみすえた学習を行っている。
2. 世界史の関連授業、人権LHR、総合的な学習、教科として全体的に使用するよりも、興味がある子、進路学習として役立つ子など、個別に働きかける場合に最適な気がした。
3. ありがとうございました。生徒にも教員志望があり、彼らの中での今後の教師像の確立に役立てたいと思います。

【金沢市開催】

1. 4年生—富山市の中心を流れる「いたち川」の環境の変化を調べ、自分たちの生活を見直す。
5年生—「米」を作る事を通して、食の大切さを訴える。無農薬、有機栽培にこだわる。
6年生—ユネスコ寺子屋活動を通して、自分が出来る事を見つける。 等。
2. 世界遺産のDVDを視聴し、自分たちが住む中央校区の遺産を探し、自分で追求していく学習を取り入れたい。
3. 世界遺産の学習をきっかけにして、自分たちが住む地域に目を向け、地域遺産を探すというの、とてもおもしろい。導入としての世界遺産のDVDを視聴するだけでも十分な学習となる。
しかし、それをどう使いこなして、学習を展開していくかは、教師個々の力量が問われる。若手教員の育成、中堅教員のリーダーシップが求められると感じた。

1. 5年生「つながる！つなげる！！わたしたちの中央校区と金沢の里山」
2. 一無回答—
3. ESDについての考え方、捉えの確認が出来た良い機会でした。様々な世界遺産を取り上げて、自分たちの身近なもの（地域遺産）について理解を示し、守っていくための工夫点を持っていくという活動は、どのESDの活動でも活かしていくと思いました。すごく参考になりました。
ありがとうございました。

【奈良市開催】

1. 高1で1時間、高2で2時間の総合学習に、国際教育を中心に実施。世代間・あるいは、世代内の公平・不公平、南北問題、環境問題、紛争、世界遺産などについて学んでいます。本年は高2の前期で、「東日本大震災について考える」をテーマにグループでの調べ学習をし、発表会を持ちました。後期は前期の学習を引き続き行う事も含め、ESDにつながるテーマを選ばせて探求活動を行っています。
2. ESDの授業では是非活用してみたいと思います。まずは「石の文化と木の文化」から。私がなるほどと思ったから、生徒にも伝えたいと思います。国語の教員なので、自分自身が知らない事も多いので、まず自分が学ぶところから。
3. ありがとうございました。この様なキットの存在も知らなかつたものですから、後で見るのが、とても楽しみです。是非また次回以降の講座に参加してみたいと思っております。

1. 今年度から始めたばかりです。勤務校がエコアクション21に認可されている関係から、環境教育から始めています。
2. 世界遺産教育は遠いものと思っていたが、今日の授業を参考にすれば、何か出来そうに思いました。
3. 世界遺産そのものを学ぶのではなく、世界遺産を通して、生徒に何かを学ばせる事の大切さが、よく分かりました。

【大牟田市開催】

1. 環境教育を中心に実践（野間川探検、気象庁からの出前講座、野鳥観察）
2. 「2の環境と生物多様性に学ぶ」を中心に環境破壊の実例を知り、自然や動植物と人間との深い関わり合い（共生）について、子ども達と共に考えて生きていきたい。
3. 具体的な実践で、とても分かりやすく参考になりました。ありがとうございました。

1. 福祉教育を中心にESDを進めている。特別支援学校に在籍する子ども達との交流や高齢者との交流を通して、優しさや人間愛について学んでいる。また、有明高専の留学生との交流を通して、異文化を学ぶ事で、我が国を愛する心や日本の文化を尊重する心を学んでいる。
2. “平和と人権について学ぶ”の中の2「戦争の記憶から平和のために出来る事を考える」を活用したいと考える。6年生の修学旅行の内容を厚みのあるものにするためにも総合的な学習の時間に、このキットを組み込み、計画・実施していきたい。
3. ESDについての理論、分かりやすく理解を深める事が出来ました。教材を使い、グローバルな思考へと移行させていくことの大切さを感じました。ありがとうございました。

1. 大牟田の石炭に関する歴史や産業遺産等の学習を通して、自分たちの住む大牟田について関心をもち、郷土愛を育むと共に、大牟田を守り、発展させていく為に、自分が出来る事を考え、行動していくことに取り組んでいます。（5年生）
2. 世界遺産→日本遺産→地域遺産を通して、環境問題を取り組んでいきたいです。
3. 「当たり前に思っているものは見えている様で実は見えていない」と言われた様に、地域の遺産を始め、日本・世界遺産について、まず自ら調べ、考え、何が出来るかをよく考えて、子ども達と共に、持続可能な社会作りの為に取り組んでいきたいと思いました。

【大田市開催】

1. 本校には、昭和44年から続いている石見銀山遺跡愛護少年団活動があります。遺跡の研究、研究したことの情報発信、奉仕活動、環境保全活動などを主な内容として取り組んできています。この本校の活動をESDへと高めていく様な研究を現在しているところです。
2. 本校の活動の中心は、今まで石見銀山そのもので終わっていた様に思います。今後は、世界遺産を通して学ぶ教育へ、少しずつ広げ、そして、もう一度石見銀山遺跡を見つめ直していく様な学習に、このキットを活用していきたいと思いました。
3. 世界遺産教育についての研修が、こうして地元で出来る事はありがたいと思いました。中澤先生、そして三先生方の実践についての発表も素晴らしい、参考になりました。今年度はユネスコスクール全国サミットで東京へ、そして世界遺産全国サミットで奈良へ行かせてもらいましたが、それはそれで意義があると思います。キットも頂き、大変嬉しく思いました。継続して、今後も実施して頂ければ喜びです。本日は、大変ありがとうございました。

1. ESDとしては実施していないが、学校設定科目として、「ふるさと学」を実施しています。石見銀山を始め、ふるさとを舞台に、地歴・国・英・音楽等の科目と関連させながら、フィールドワークを行っています。
2. 遺産そのものに加えて、「人とのかかわり」という点での世界遺産学習として活用したいと思います。
3. 様々な実践があり、勉強になりました。石見銀山を教材とした授業づくりの指導等を連続出前講座として行って頂けると良いなあと思います。

1. 本校は、石見銀山遺跡内にある学校で、全校児童18名と同じ建物内にある幼稚園の園児で、「石見銀山遺跡愛護少年団」の取り組みをしています。具体的には、遺跡の清掃活動や、遺跡について調べ、学んだ事を地域の方に伝える活動を行っています。これから活動を通して、地域を愛する心を育んでいます。
2. 今年度、銀山街道（温泉津、沖泊道）についての学習を行い、実際に全校児童で歩き、劇化して発表しました。今日頂いたDVDにも他の街道が写されているそうなので、是非、児童に見せたいと思います。
3. とても勉強になりました。ありがとうございました。

【東京開催】

1. 環境教育・地球温暖化やエネルギー問題などを考えさせている。系統的には、ESDを位置づけていないので、今後取り入れていきたいと考えています。
カンボジアの小学校に毎年、手作りポシェットと文具を送っている。それらをESDと関連づけていけたらと考えている。
現在やっている事をESDという事と関連づけていき、指導を見直したいと思っている。
2. 地域から遺産、それから世界へと目を向けて行く教育を考えていけたらと思っています。出来たら、命という事を考えていく様なものにしたい。
感謝を祈り、そして当たり前と思っている事が当たり前でない事や、将来、社会や人々に奉仕出来る様な人に成長出来る基礎を体験出来る様に。
3. 身近なものを大切にする事や、地域を大切にする事が、必要不可欠であると改めて感じました。

1. 現在は特に行つていません。
2. 江戸城の史跡が使えるかなと思いました。
3. よく理解していない自分に、整理してまとめて頂いたお話が有効でした。まだ何をどうするかは分かりませんが、E S Dについて、引き続き考えていきたいと思います。

1. 環境教育でスタートし、国際理解教育、さらに防災教育・災害復興教育へとE S Dの内容が広がっています。
2. 地元の地域遺産を調べる時の導入に使わせて頂きたいと思います。
3. “世界遺産について学ぶのではなく、世界遺産を通じて学ぶ”ことを大切にしたいと思います。

【東大阪市開催】

1. 本校では、以前に間伐材を利用した環境保全の取り組みを行っていた。本年度は、E S Dの取り組みを行っていない。
2. 社会科の環境問題の単元で活用したい。
3. 現在、社会科で、環境問題を学習している為、とても興味のある内容だった。子どもに地域の課題について考えさせる手段として、世界遺産を活用する点を理解出来た。

1. 大変参考になりました。
以前から興味のあったテーマですが、なかなか具体的に学習機会がなくて、よく理解できていませんでしたが、この様な機会が与えられて幸いでした。
2. もう少し内容を確認してから考えますが、中核方式で学ぶうえでは、色々なテーマで考えられると思いました。
3. 大変分かりやすいお話でした。ありがとうございました。

1. 総合学習で地域温暖化、環境問題、今年度は、森林保全、貧困の問題。
2. 世界遺産と現在の問題を結びつけて考える方法を活用して、環境問題や世界の宗教・貧困の問題、フェアトレードなどを学んでいこうと思います。
3. 総合学習での取り組みのヒントを頂いたと思います。分かりやすかったです。

奈良教育大学附属中学校の研究の取組

1. 研究テーマ

「未来を創る子ども」を育む ESD
～教育課程の改訂と ESD～

2. 実践の概要

本年度は、大きく次の 2 点について取り組むべく実践研究を進めていった。

(1) 学習指導要領の改訂と ESD

ESD が求める「協働の学び」の基盤となる教科指導(教科における ESD)を新しい指導要領と照らし合わせながら、それぞれの教科が ESD の学びにどう寄与できるのかを再度吟味することをねらいとして、次の 3 点について各教科で取り組んだ。

① 新学習指導要領が示す学力観と ESD の実践

指導要領が示す「習得」と「探究」をつなぐ「活用」を教科でどのように指導するかについて ESD が重視する、「つながり・関係性」「批判的思考」「未来予測」「多面的思考」「変革力」などの能力や態度を培う学習展開が各教科でなされ、先駆的取り組みとして研究会参加者から評価していただいた。また、他の単元や他教科との関係性を意識した学習もみられた。

② 言語活動の充実と ESD の実践

「対話型学習」の授業研究を経て、全教科において「対話型学習」の授業の研究を進めた。また、その実践は指導要領が示す「読解力」を「他者と関わる力や効果的な社会参加のために、テキストを理解し活用することや、他者の考え方や気持ちを理解すること」という共通理解のもと、多様な「対話型学習」を展開することが出来た。

③ 道徳性の育成と ESD の実践

指導要領の示す「すべての学習活動で道徳の充実を」について「本校研究集録 23 号」の記述を再度確認することによって、これまでの、そしてこれからの中の本校の基本的態度を内外に示すことができた。また、それが ESD の理念とも共通していることが認識できた。

(2) 子どもの学びの視点からの取り組み

① 「平和の集い」を核として位置付けた生徒の活動の計画的主体的取り組み

4 月早々の道徳の授業実践にはじまり、生徒会の被災地への取り組みなどのさまざまな取り組みをつなげた「平和の集い」を実施することができた。道徳人権委員会を中心としつつ、生徒会担当やユネスコ委員会などとの連携が必要な取り組みであり、「協働」の取り組みとして大切にしていきたいと考える。そのためにも総合的視野に立ったプランナー、コーディネーターとしての教師の役割が重要であることを認識できた。

② 子どもの関係性の構築(社会性の育成)の取り組み

「対話型授業」も子どもの関係性の構築に寄与する取り組みであるか、昨年度に引き続き、子どもの自尊感情と社会性に課題があるという立場から、特に第 1 学年においてソーシャルスキルの取り組みを実施した。(曾爾高原・3 学期)

(3) その他

①大学との連携

大学に ESD 推進の担当者が設置され、また学生組織としてユネスコクラブができたことなどにより、昨年に比べて強化できてきた。それが夏の「なら子ども会議」の活動の充実などにつながったと思われる。来年度は、2014 年度をふまえて、長期的展望に立った研究の推進のためにも、大学と一層連携し、協同研究体制の構築に向けて考えたい。

②韓国公州大学敷設中学校との交流活動の実現

7 月に校長以下 3 名が、韓国を訪問し、相手校との姉妹校提携調印式並びに来年度よりの交流活動について合意した。

3. 教育研究会の開催と研究紀要の作成

下記の要項で、教育研究会を実施し、内外から約 150 名の参加を得て、本校の実践研究の進展に大いに寄与できた。また 1 年間の研究のまとめとして「研究紀要 第 40 集」を作成した。

(1) 日 時 平成 23 年 11 月 4 日 (金)

(2) 内 容

①公開授業

(国・社・数・理・音・美・保体・技術家庭・外国語・特別支援)

②分科会

(同上)

③研究報告

④記念講演

講師 目白大学教授 多田孝志

教員・学生・子どもでつくった 奈良 ASP 子ども会議

奈良教育大学附属中学校 教諭 福田 哲也
奈良市立帯解小学校 教諭 西田 達也
奈良教育大学 ユネスコクラブ

1. はじめに

ユネスコスクールはユネスコ憲章前文に明記されている「戦争は人の心の中にうまれるものであるから、心の中に平和の砦を築かなければならない。」というユネスコの理想の実現を目指して、実践的に取組む学校として1953年にスタートした。その後、1992年の国連環境開発会議において、持続可能な開発における教育の重要性が指摘され、2002年ヨハネスブルクサミットにおいて日本が「国連 ESD の 10 年」を提案したことから、2005年から 2014 年が ESD の 10 年としてその普及・推進が促されている。日本では、ESD の推進役としてユネスコスクールが位置付けられ、文部科学省の奨励のもと、加盟校の拡大が進み、2011年11月現在、日本のユネスコスクールは308校になっている。しかしその分布は偏在しており、奈良はユネスコスクールが多い地域である。

ユネスコスクールのメリットのひとつに学校間交流がある。奈良 ASP では、昨年度から ESD の学びの場であるとともに児童生徒の学校間交流として子ども会議（キャンプ）を行っている。今年度は、さらに奈良教育大学の学生に企画段階から参加してもらうことで、教員をめざす学生の研修の場として本会議を開催した。

2. ねらい

- ・ ESDを中心据えた学校間交流を行い、取組の質の向上を図る。
- ・ 子ども、学生、教員が一体となって、ESDを具体的に学ぶ機会とする。
- ・ 教員を目指す学生が ESD の学び方・教え方を体験する機会とする。

3. 取組全体の概要

(1) 取組全体の経過

4月 18 日（月）平成 23 年度最初の奈良 ASP 担当者会議

5月 10 日（火）担当者会議：今年度の子ども会議の内容について協議し、企画委員を決める。

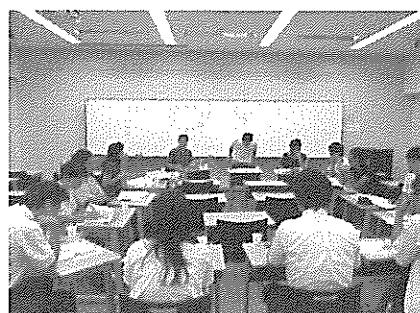
5月 16 日（月）企画会議：アイデアを出し合う。

5月 27 日（金）企画会議：各自が集めた情報から、行き先を決定する。

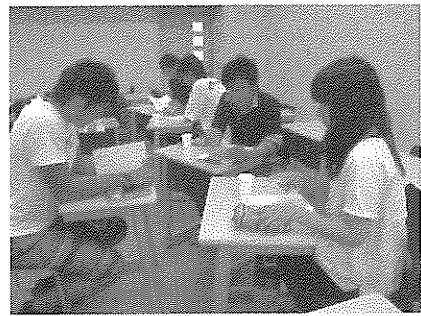
6月 4 日（日）企画委員が御杖村・曾爾村の下見を行う。

6月 20 日（月）担当者会議：子ども会議の概要を説明する。【学生も参加しての企画会議】

7月 4 日（月）企画会議：学生も参加し、ESD ワークショップの内容を検討する。
(これ以降のすべての会議に学生が参加する。)



7月21日（木）担当者会議：各校からの子ども会議者の決定。
8月9日（火）企画会議：E S Dワークショップの内容検討
2回目の下見（学生も参加）。
8月17日（水）担当者会議：子ども会議の内容を説明
8月25日（木）前日準備。
8月26日（金）・27日（土）奈良A S P子ども会議開催
9月12日（月）担当者会議：反省会



【ワークショップの内容検討】

（2）取組の背景

今年の6月3日に「国連持続可能な開発のための教育の10年」関係省庁連絡会議から改訂されたE S D実施計画が発表され、はじめてE S Dで育てたい力が明記されたほか、優先的に取り組むべき課題、学び方・教え方が示された。

○ E S Dで育てたい力

- ① 問題や現象の背景の理解、多面的かつ総合的なものの見方を重視した体系的な思考力（システムズシンキング）
- ② 批判力を重視した代替案の思考力（クリティカルシンキング）
- ③ データや情報を分析する能力
- ④ コミュニケーション能力
- ⑤ リーダーシップの向上
- ⑥ 人間の尊重、多様性の尊重、非排他性、機会均等、環境の尊重といった持続可能な開発に関する価値観

○ 優先的に取り組むべき課題

- ① 環境保全を中心とした課題を取り口として、環境、経済、社会の統合的な発展について
 - ・ 大量生産・大量消費。大量廃棄に基づく生活スタイルや産業構造を転換し、持続可能な消費・生産パターンを定着させること。
 - ・ 生物多様性を確保すること。
 - ・ 人権や文化等に対する配慮。
- ② 開発途上国を含む世界規模の持続可能な開発につながる諸課題を視野に入れた取組

○ 学び方・教え方

- ・ 「関心の喚起→理解の深化→参加する態度や問題解決能力の育成」を通じて「具体的な行動」を促す。
- ・ 体験、体感の重視。
- ・ 探究や実践を重視する参加型アプローチ。

環境保全等のE S Dにふさわしい学習内容であっても、知識伝達型の学習方法では、「E S Dで育てたい力」は育たない。E S Dにおいては、学習内容だけでなく学習方法が重要であることが明らかである。そこで今年度は教員を目指す学生に体験的にE S Dを学ぶ機会とするために、企画段階からの参加を促し、担当教員との対話を繰り返しながら、内容・方法を決定していった。

4. 奈良ASP子ども会議の概要

(1) 開催日時 平成23年8月26日(金)、27日(土)

(2) ねらい

- ・ ESD(持続可能な開発のための教育)について、みんなで学び合い、奈良の町や自分たちの未来について考える。
- ・ それぞれの学校の活動をお互いに知り、みんなで取り組める活動について考える。
- ・ みんなで仲良く活動し、友情を育てる。

(3) 活動場所 国立曾爾青少年自然の家、みつえ村立三季館

(4) 参加者 児童生徒：25名、学生：7名、教員：21名(日帰り含む)

(5) 活動について

- ① バスの中での自己紹介と学生によるアイスブレーキング
- ② ESDワークショップ「森・水・人」の概要

A 「水中探検隊」 キーワード：水生生物・水質調査

概要：みなさんは水のことについてどれだけ知っていますか？

人間の体も70%は水でできています。僕たちは生きるために毎日水を飲みますよね？今回は自然あふれる森の中で、きれいな水に触れてみましょう。僕たちがふだん使う水とどれだけ違うのか？どんな生物が住んでいるのか？普段気にすることの少ない水の世界を探検してみましょう。



B 「素敵な山おたすけ隊」 キーワード：林業・間伐・共生

概要：曾爾に来たら山を見てみよう。とっても美しい山や森が目にとびこんでくるでしょう。これは誰がつくったのかな？神様かな？動物かな？自然にできたのかな？それとも人間かな？さあ、生きている山、森に入ってみよう。きっとすてきな体験がまっているよ。



C 「ぼくら森林探検隊」 キーワード：木の葉・昆虫・鳥

概要：どっぷり森につかりましょう。耳を澄ませばほらいろいろ聞こえてきます。じっと見るとたくさんの虫が生きています。どんな生き物に出会えるのかな？



D 「自然と遊び隊」 キーワード：山神信仰・森の楽しみ方

概要：森は森だけで生きられません。川は川だけでは生きられません。そして、ヒトもまたヒトだけでは生きてはいけません。ヒトが自然を壊せば、それはヒトに返ってきます。ヒトが自然に優しくなければ、きっと自然も人に優しく接してくれます。森や川と手をつないでみませんか。

③ ESD学習について

- 学校間交流：各校の取組を紹介。
- 1日目のESDワークショップでの学びを、学生リーダーを中心にまとめ、紹介する。



【ワークショップのまとめ】



【ポスターを使って発表】



【学びを行動につなげよう】

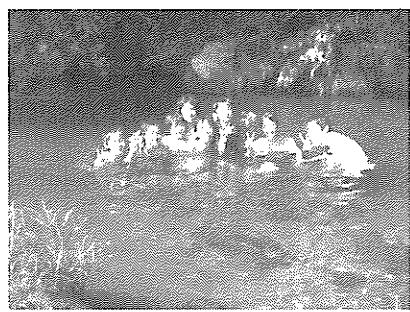
④ その他キャンプならではのお楽しみ



【アマゴつかみ大会】



【大キャンプファイバー】



【川あそび大会】

5. 成果と課題

【児童生徒の声】

川だけでなく、森ことも知ることができた。発表から今の自然の現状がわかり、少しでも自然のためにできることはいか考へた。はじめて会った人と一緒に行動することで誰とでも友だちになることがわかった。自然との繋がりにはいろいろな場面があると思った。今まで気づかなかつたことを、話し合いを通して気づくことができた。意見を出し合うことの大切さを感じた。1人で考へるのではなく、人の意見を聞くことで世界が変わると思った。他の学校の人は、積極的に活動していたので、自分たちももっと考へて、できることをしていきたいです。

【学生の声】

グループリーダーとして子どもたちの指導をまかされたので、責任感を感じながらできたのがよかったです。ESDワークショップでは、内容はつくりあげてきたが進め方や全体像がわからず不安を感じた。事前学習を行い、現地でのESD教材についてある程度の知識をもっておくことが大切だと思った。教員は知識の銀行役だと感じた。ESDについてもっと学びたい。キャンプ研修に参加しスキルを身につけたい。教員になりたいという思いが強くなつた。

【教員の声】

市内のユネスコスクールの交流という点では、大いに成果があつたと思う。今回の交流だけで終わらず、今後、いかに手を携えてESDを深化充実させていくかは課題である。学校間交流だけでなく小中学校間交流ができるという機会は普段の学校行事では計画できないものなので、とても貴重な経験を子どもたちはできたと思う。年齢の近い学生さんがグループの中心となってリードしてくれたことで、小中学生がより活発に交流できたように感じている。人と人との出会いが果たせた大変貴重な機会であった。

地域と結んだ世界遺産学習のあり方に関する教員研修 報告書

(1) 実施日 平成23年10月10日（月）～11日（火）

(2) 研修地

○世界遺産「石見銀山遺跡とその文化的景観」／石見銀山世界遺産センター

〒694-0305 島根県大田市大森町イ1597-3

○島根県大田市立大森小学校

〒694-0305 島根県大田市大森町ニ32

(3) 主催 奈良教育大学 奈良ASPネットワーク

(4) 後援 奈良市教育委員会

(5) 参加対象 奈良ASPに加盟する学校園の教職員等

(6) 研修の目的

世界遺産を抱える地域にとって、観光と保全の両立は共通の課題となっている。地域経済の活性化が優先されれば、世界遺産条約の本義である「人類共通のたからもの」の保全に逆行し、世界遺産登録が世界遺産を破壊する契機にもなりかねない。その一方、世界遺産の保護のためにも地域コミュニティーの再生や経済的基盤の構築が求められることも事実である。

「石見銀山遺跡とその文化的景観」が世界文化遺産に登録されるに至った価値とは、「世界的に重要な経済・文化交流を生み出したこと」「伝統的技術による銀生産方式を豊富で良好に残していること」「銀の生産から搬出に至る全体像を不足なく明確に示すこと」である。そして、それにもまして注目されるのは、この地域が登録以前から、保全管理基金を創設して環境保全に取り組んだり、伝統文化の継承や空き家活用の推進、エコツーリズムの提唱(観光する側に多少の不便をしてもらっても、世界遺産を地域ごと守るという考え方)など、世界遺産登録を契機として、行政と地域住民が連携して新たな町づくりを進めている点である。奈良県には3つの世界遺産サイトがあり、特に奈良市内には「古都奈良の文化財」として寺社や宮跡が指定されている。それらの寺社は私たちの日常生活の隣にあり、また日本や世界各地からの観光が押し寄せる。活力ある地域社会を維持しながら、世界遺産を保全するには何が必要か、学校教育や社会教育の中で、どのような学びが求められるかを、石見銀山遺跡と町づくりに関わっている地域の教育関係者や地元住民の方と現地を視察し、意見交換をして新たな視点や知見を得たいと考える。

(7) 研修の日程詳細

【10月10日（月・祝日）】

時間	主な活動	備考
6:30	奈良教育大学集合・出発 →集合完了次第、出発 ※バス内で自己紹介と石見銀山遺跡についての事前学習	出席確認 集金(15,000円*) 昼食はSAで各自
13:30	島根県大田市に到着(予定)	
14:00	世界遺産「石見銀山遺跡とその文化的景観」視察 ○石見銀山世界遺産センター ○銀鉱山跡と鉱山町 ・銀山柵内・代官所跡・宮ノ前地区・熊谷家住宅 ・大森銀山重要伝統的建造物群保存地区など	※石見銀山ガイドの会に依頼済み *可能であれば30分程度のレクチャーを入れる (宿舎)
17:30	視察見学終了	
18:00	宿舎に到着 休息・入浴 夕食(石見神楽)鑑賞	国民宿舎『さんべ荘』(0854-83-2011)
20:00	交流学習<参加者による実践交流>	

【10月11日(火)】

時 間	主 な 活 動	備考
6:45	起床	
7:15	朝食	
8:00	宿舎を出発 バスで移動	
8:40	銀山公園着→徒歩で大森小学校に移動 ※バスは仁摩駐車場で待機	
8:50	大森小学校到着	
9:00	大森小学校の取り組みについて 「石見銀山遺跡愛護少年団活動について」 鎌田保夫 校長先生 「石見銀山遺跡を中心とする環境保全活動及び、みーもスクールについて」 NPO法人緑と水の連絡会議 和田譲二事務局長	
9:40	授業公開(1・2年生活科・3~5年総合学習) 活動名 「竹ドームを作ろう」 指導者 講師 吉田知広他4名 (NPO法人緑と水の連絡会議メンバー) 大森小学校教職員	
10:30	講話「石見銀山遺跡と石見銀山学習」 講師 大田市教育委員会 大國晴雄教育長	
11:10	大森小学校を出発	昼食は
18:00	近鉄奈良駅到着・解散	SAで各自

(8) 参加者 (16名)

深澤吉隆 (奈良市教育委員会)	中川克則 (奈良市教育委員会)
奥西智恵子 (奈良市立柳生中学校)	桂田信夫 (奈良市立柳生中学校)
大坪大紀 (奈良市立月ヶ瀬中学校)	大塚厚 (奈良市立都南中学校)
西田達也 (奈良市立帶解小学校)	中村友弥 (奈良市立飛鳥小学校)
橋口奈美子 (奈良市立富雄中学校)	高橋莉恵 (奈良市立富雄中学校)
清水淳郎 (奈良市立三笠中学校)	太田和見 (京田辺シャンティナー学校)
角谷尚希 (御所市立葛小中学校)	谷口尚之 (奈良教育大学附属中学校)
小嶋祐伺郎 (奈良教育大学附属中学校)	福田哲也 (奈良教育大学附属中学校)

(9) 世界遺産研修から (「石見銀山遺跡とその文化的景観」視察)

石見銀山遺跡は、他の世界遺産サイトに見られるような、耳目を集め建物や景観があるわけではない。従って登録に際してもその「顕著な普遍的価値」は何かが問われ、一旦は登録延期となっている。今回、現地を訪れて見聞したかったのは、自分の目で石見銀山の世界遺産的価値を実感することであった。

まず現地で気づいたことは、石見銀山遺跡では、他の鉱山遺跡に見られるような自然破壊がほとんど見られないという点である。実際、世界遺産のコアゾーンに足を踏み入れても、そこが鉱山跡とは思えない風景で、間歩と呼ばれる坑道跡も森のなかで垣間見える様子である。灰吹法という銅の精錬には燃料としての薪が必要だが、石見銀山では伐採後に必ず植林をして環境保全に努めてきた。再度の登録申請では、この点を主張したことが世界遺産委員会で高く評価され、登録につながっている。こうした持続可能な採掘事業の考え方は、世界遺産登録後の観光客の受け入れ体制にも底流するものがあるようだ。すなわち観光客に多少の不便があろうとも、バスの乗り入れを制限して徒歩での観光を原則としたり、ビジターセンターとしての世界遺産センターを中心地区から少し離れたところに設けるなど、一過性の洪水のような観光から地域と遺跡を守るために手立てを当初から講じている。見学後に大森小学校でご講話頂いた大國教育長からは、世界遺産登録後、地域の方々と共に白川郷を訪れ、遺跡の保全と観光、地域振興と観光などの課題を克服する術を模索したというお話を伺うことが出来た。

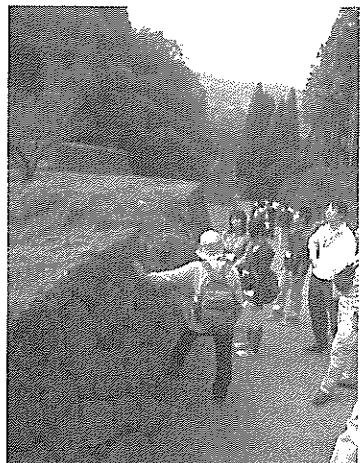
(10) 先進校視察から (大森小学校における世界遺産学習)

大森小学校では、全学年での総合の取組として、目の前の竹林から入手した竹を使ったスタードーム作りの授業を見学させていただくとともに、竹の有効活用をテーマに、環境保護のNPOと学校がコラボレーションを進めてこられた実践についても報告していただき、興味深く聴かせて頂いた。

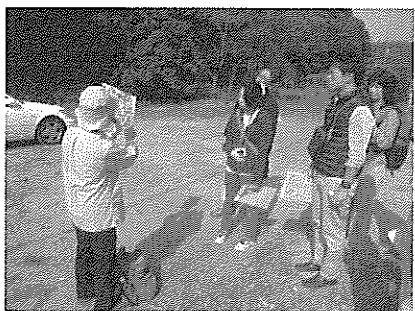
(11) 終わりに

世界遺産として「残す」とは何かということを考えるには、最高の機会になったのではないだろうか。それは、決して景観的なものだけではなく、人から人に伝承されなければならないことも多々あるということである。そのような点で教育は重要な役割を果たすだろうし、世界遺産教育の素晴らしい教材に出会えたのではないかと感じる。

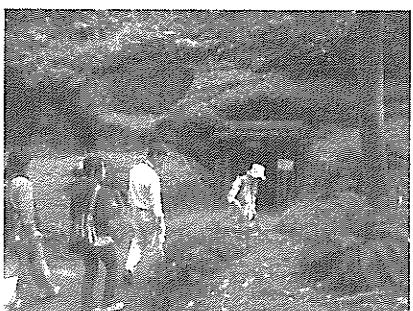
世界遺産がたんなる観光の宣伝になっている現状もあると聞く。そのような点で、「石見」の世界遺産を教材とした教育活動は価値あるものである。



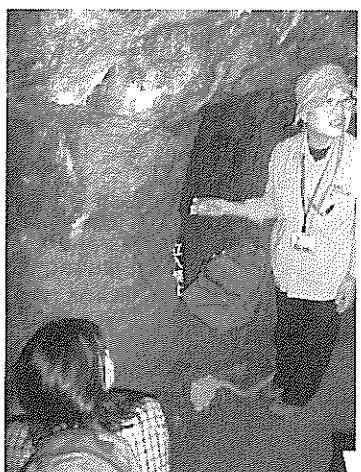
【精練所跡】



【ガイドの会の方の説明を聞く】



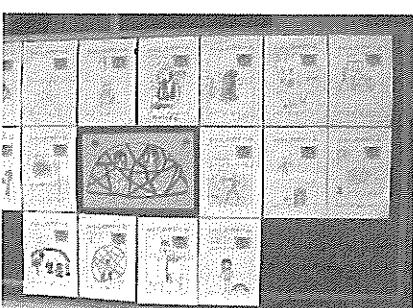
【龍源寺間歩へ】



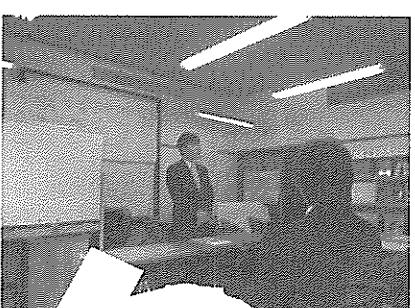
【龍源寺間歩での説明】



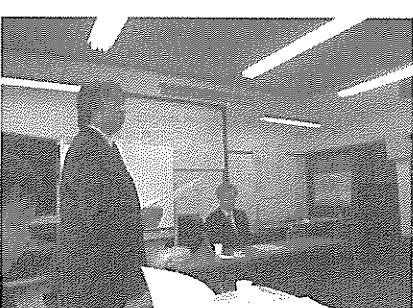
【公開授業ドーム作り】



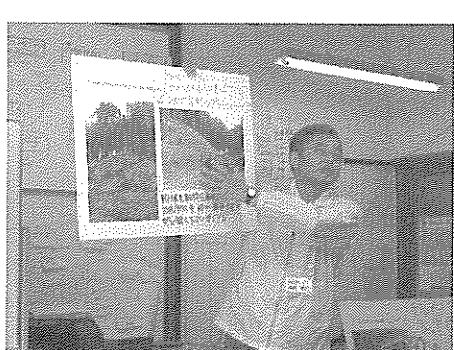
【スター ドームの児童の感想】



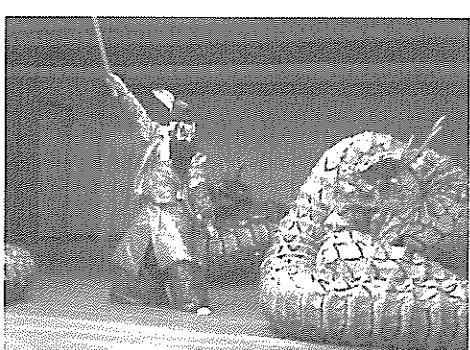
【大森小学校での懇談】



【懇談会の様子】



【竹林の有効活用（NPO）】



【伝承される石見神楽】

あとがきにかえて

奈良教育大学では、奈良市教育委員会様のご協力のもと、文化遺産を切り口とした ESD である世界遺産教育の実践的研究を中心に進めていますが、学生においても、ESD への関心が高まり、平成 23 年 7 月に奈良教育大学ユネスコクラブが発足しました。

現在部員は 15 名ほどですが、ESD を体験的に学ぶことを目的に活動しています。

奈良教育大学持続発展・文化遺産教育研究センター専任講師 中澤静男

8月 奈良 ASP 子ども会議 ESD キャンプを企画運営し、第 2 回世界遺産学習全国サミット 2011in ならで取組を発表しました（詳細は本冊子の 104～107 頁）。

10月 私の好きな奈良フィールドワーク（ならまち）

11月 私の好きな奈良フィールドワーク（明日香村）

12月 春日若宮おんまつり「遷幸の儀」見学

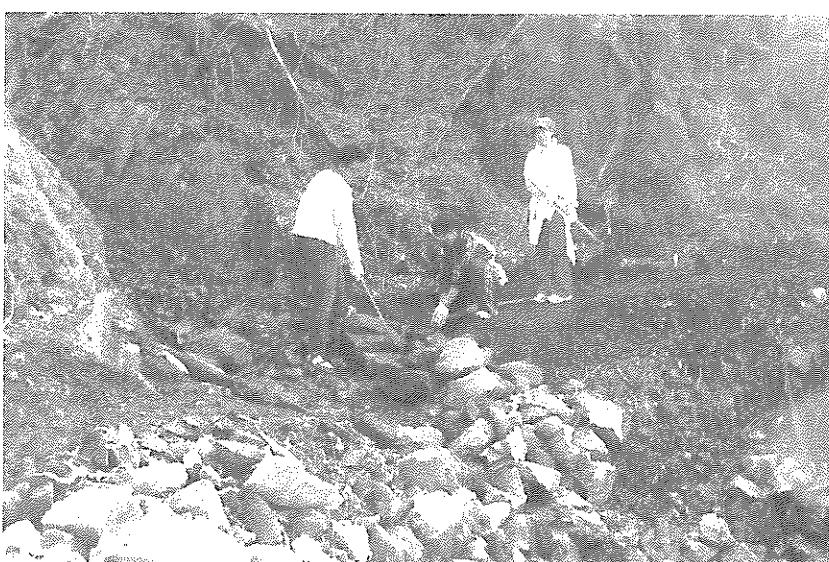
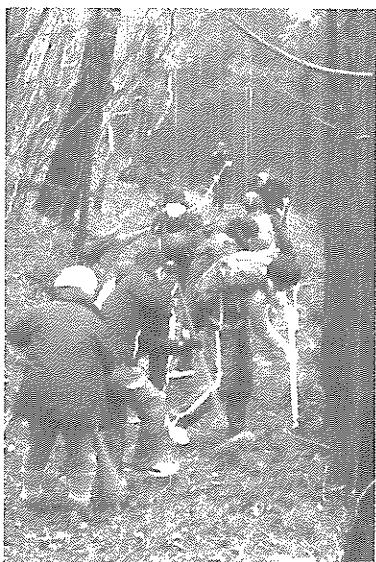
1月 十津川村「道普請」ESD 体験ボランティア（大峯奥駆道の修復）

2月 第 2 回十津川村「道普請」ESD 体験ボランティア（小辺路の修復）

3月 私の好きな奈良「柿の葉寿司」調査

【十津川村「道普請」ESD 体験ボランティア】

奈良県にある 3 件の世界遺産の一つが「紀伊山地の霊場と参詣道」です。3 つの霊場とそれを結ぶ「古道」が世界遺産として登録されており、「道」が世界遺産になっているのは、スペインのサンティアゴ・デ・コンポステラ巡礼路とここだけです。その世界遺産である「古道」が、平成 23 年 9 月に紀伊半島を襲った台風 12 号の影響で、崩れてしまいました。これまでも十津川村の人々が「道普請」と称して古道の修復を行ってきましたが、今回は「道普請」ボランティアの募集がありました。世界遺産とは、普遍的価値を有するものの価値を損なうことなく、将来の世代に伝えていくべきものです。この考え方には「持続可能な開発」の考え方とほぼ同じであるととらえ、ユネスコクラブでは ESD 体験ボランティアとして参加してきました。



.....

平成 23 年度 日本／ユネスコパートナーシップ事業 報告書

国立大学法人 奈良教育大学
〒630-8528 奈良県奈良市高畠町

.....

